0034250000

0034250-000

EB11-76

校友会雑誌等の出版物に現れたる中等諸学校生徒の思想傾向

文部省学生部

1932. 3

AGC

ニセK29

松田源治文庫

昭和七年三月

校友會雜誌等の出版物に現れたる

中等諸學校生徒の思想傾向

文部省學生部

昭1
A
17

松田源治文庫

校友會雜誌等の出版物に現れたる

中等諸學校生徒の思想傾向

EB11
76

國立國會圖書館
45. 6. 5

國立國會圖書館
57. 5. 31

82W28938
~~829833~~

中等諸學校生徒の思想傾向

目次

序——調査の方針……一——一
師範學校及び女子師範學校……一——四九
中學校……五一——一一三
高等女學校及び實科高等女學校……一一三——一四四
工業學校……一四五——一九一
農業學校……一九二——二四九
商業學校……二五一——三〇一
結

序

一、本調査は全國の師範學校・女子師範學校及び公私立の中學校・高等女學校・實科高等女學校・工業學校・農業學校・商業學校等に於いて、昭和四年六月より昭和五年五月に至る一ヶ年間に發行せられた校(學)友會・同窓會・同人會等の出版物に掲載された作品に就いて、その思想傾向を調査したものである。但し上記學校の中で師範學校と女子師範學校と、又高等女學校と實科高等女學校とはこれを一括して調査した。

一、本調査に於いて調査したる出版物の種類別數量を學校別に示せば左の如くである。

學校名	校數	調査校數	出版物總數	校(學)友會雜誌	同窓會雜誌	同人會雜誌	其他
師範學校	五九	五六	一一二	八八	二三	四	—
女子師範學校	四六	四〇	一〇一	八三	一五	—	—
男女師範學校小計	一〇五	九六	二一三	一七一	三八	四	—
中學校	五五三	四八〇	九四一	七八八	六七	二三	六三
高等女學校	七五五	四九四	四九四	四一三	八〇	一	—
實科高等女學校	二四六	五二	五二	四三	八	一	—
工業學校	一一九	八七	一〇五	七八	二六	一	—
農業學校	三三五	二一八	三四〇	二九五	三七	八	—
商業學校	二八九	二三六	四九五	三八〇	一〇五	七	—

實業學校小計	七四三	五四一	九四〇	七五三	一六八	一六	
男子學校小計	一、三五五	一、〇七七	一、九九三	一、六二九	二五八	四三	六三
女子學校小計	一、〇七三	五八六	六四七	五三九	一〇三	二	
總計	二、四二八	一、六六三	二、六四〇	二、一六八	三六一	四五	六三

一、この種の出版物は元來學校に關係ある出版物であり、又寄稿者も生徒及び卒業生の一部に限られてゐるので、之を以て直ちに生徒及び卒業生全體の思想を完全に表してゐるものとは言へないであらう。併しながら何等かの思想を持つたものは比較的好んでこれ等の雜誌に寄稿するから、生徒及び卒業生の大體の思想傾向は之に依つて察知することが出來ようと思ふ。玆に注意すべきは本調査の對象とした出版物は前述の如く昭和四年及び同五年に亘る期間に發行されたものであるから、當時の社會情勢や又特殊な社會的事件が相當强く作品の上に影響してゐる事である。

一、作品のうち思想傾向を窺知し得ざる種類のものは、本調査に於いては單に數字を示すに止めたが、その主なるものは運動記事、會計報告等であつた。

調査の方針

本調査に於いては次の如き調査方針を執つた。

一、思想傾向の認定に當つては出來るだけ作品の根柢をなすと認められる思想によること。

二、作品を單位とすること。

調査に當つては作者を單位とすることが望ましいが、同一人で匿名、雅號、變名等を用ひてゐる場合もあつてその識別が困難なため作品を單位とした。

三、思想傾向を窺知し得る作品に就いては左の標準に從つて之を調査すること。而してこの中(一)及び(二)の傾向は特に注意すること。

(一)國家的思想傾向

A、國家主義的傾向

B、皇室尊崇思想

C、軍事的傾向

(二)左傾的急進的思想傾向

A、マルクス主義的傾向

B、其の他の急進的傾向

一、有產者に對する反感　二、無產者に對する同情　三、社會の矛盾に對する不滿　四、其の他

(三)道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向

A、道德的、宗教的、哲學的、理想主義的、復古的、自然讃仰的の傾向

B、感傷的、享樂的、頽廢的の傾向

C、勤勉努力的、實實剛健的の傾向

四、各學校の特殊性に基く思想傾向を調査すること。

この爲に作品を更に次の標準に依つて調査した。

實業學校に於いては

A、就職に關する思想傾向

B、實業に關する思想傾向

師範學校に於いては

自己の職業に關する思想傾向

師範學校及び女子師範學校

目次

總說

(一)國家的思想傾向

A、國家主義的傾向

B、皇室尊崇的思想

C、軍事的傾向

(二)左傾的急進的思想傾向

A、マルクス主義的傾向

B、その他の急進的傾向

一、有產者に對する反感　二、無產者に對する同情　三、社會の矛盾に對する不滿

(三)道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向

A、道德的、宗教的、哲學的、理想主義的、復古的、自然讃仰的、人情的の傾向

B、感傷的、享樂的、頹廢的の傾向

C、勤勉努力的、質實剛健的の傾向

(四)自己の職業に關する思想傾向

結語

總說

全國の男女師範學校に於ける校友會雜誌・學友會雜誌・同窓會雜誌・同人會雜誌等に於ける生徒と卒業生との寄稿數の割合を觀るに、師範學校に於いては作品數四一六〇點、即ち全作品の約九一%が生徒の寄稿で、作品數三一〇點即ち約九%が卒業生の寄稿である。女子師範學校に於いては作品數三〇八六點、即ち全作品の約九三%が生徒の寄稿である。

次に作品の思想傾向に就いて觀るに、何等かの思想傾向を有する作品は、師範學校に於いては一三六八點で、作品總數の約三三%を占めてゐる（この中約三分の二强は上級生の作品であり、三分の一弱が下級生の作品である）。

女子師範學校に就いては、九七八點で、作品數の約三二%を占めてゐる（この中三分の二は上級生の作品で、三分の一は下級生の作品である）。

卒業生の作品で何等かの思想傾向を有するものは、師範學校に於いては一〇九點で、作品總數の約三五%を占め、女子師範學校に於いては七三點で、作品總數の約二九%を占めてゐる。

以上を表で示せば次の如くである。本表中上級生とは四、五年生、下級生とは一、二、三年生を指す。以下倣之。

○寄稿作品總數及寄稿作品總數中思想傾向を有する作品數

		作品總數	生徒、卒業生の作品累計に對する百分率	思想傾向を有する作品總數	作品總數に對する百分率
生徒	師	四一六〇（上級生作品六・〇割 下級生作品四・〇割）	九一%	一三六八（上級生作品七・〇割 下級生作品三・〇割）	三二・八八%
	女師	三〇八六（上級生作品五・六割 下級生作品四・四割）	九三%	九七八（上級生作品六・六割 下級生作品三・四割）	三一・六九%

卒業生	師	三一〇	九%
	女師	二四八	・七%
合計	師	四四七〇	一〇〇%
	女師	三三三四	一〇〇%

今思想傾向を有する作品を、國家的思想傾向のもの、左傾的急進的思想傾向のもの、道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向のものゝに大別して之を表に現はせば次の如くになる。

○思想傾向を有する作品の思想的内譯

		作品數	有思想傾向作品總數に對する百分率	作品總數に對する百分率
生徒 (一)國家的思想傾向	師	一六九(上級生作品八・五割 下級生作品一・五割)	一二・三五%	四・〇六%
	女師	六九(上級生作品七・五割 下級生作品二・五割)	七・〇六%	二・二四%
(二)左傾的急進的思想傾向	師	二五(上級生作品九・六割 下級生作品〇・四割)	一・八三%	〇・六〇%
	女師	一二(上級生作品七・五割 下級生作品二・五割)	一・二三%	〇・三九%
(三)道德的感傷的等の思想傾向 勤勉努力的	師	一一七四(上級生作品七・〇割 下級生作品三・〇割)	八五・八二%	二八・二二%
	女師	八九七(上級生作品七・〇割 下級生作品三・〇割)	九一・七二%	二九・〇七%
合計	師	一三六八(上級生作品七・〇割 下級生作品三・〇割)	一〇〇・〇〇%	三二・八八%
	女師	九七八(上級生作品六・六割 下級生作品三・四割)	一〇〇・〇〇%	三一・六九%

卒業生 (一)國家的思想傾向	師	一六	一四・六八%
	女師	一三	一七・八一%
(二)左傾的急進的思想傾向	師	二	一・八三%
	女師	—	—
(三)道德的感傷的等の思想傾向 勤勉努力的	師	九一	八三・四九%
	女師	六〇	八二・一九%
合計	師	一〇九	一〇〇・〇〇%
	女師	七三	一〇〇・〇〇%

(一)國家的思想傾向	師	一四・六八%	五・一六%
	女師	一七・八一%	五・二四%
(二)左傾的急進的思想傾向	師	一・八三%	〇・六五%
	女師	—	—
(三)道德的感傷的等の思想傾向 勤勉努力的	師	八三・四九%	二九・三五%
	女師	八二・一九%	二四・一九%
合計	師	一〇〇・〇〇%	三五・一六%
	女師	一〇〇・〇〇%	二九・四四%

(一) 國家的思想傾向

生徒の作品中、この種の思想傾向を有するものは、師範學校に於いては、百六十九點を見出した。その比率は作品總數の四・〇六%であり、思想傾向を有する作品總數の一二・三五%である。この中の八割五分が上級生のもので、一割五分が下級生のものである。又女子師範學校に於いてはこの種の作品六十九點を見出した。その比率は作品總數の二・二四%で、思想傾向を有する作品總數の七・〇六%である、この中上級生のものは七割五分、下級生のものは二割五分である。

今此等のものをその内容によつて分類し、その各々の比率を示せば左の如くである。

○國家的思想傾向を有する作品の内譯

		作品數	本思想傾向作品總數に對する百分率	有思想傾向作品總數に對する百分率
生徒	A 國家主義的傾向 師	六五（上級生作品八・五割　下級生作品一・五割）	三八・四%	四・七五%
	A 國家主義的傾向 女師	四八（上級生作品八・五割　下級生作品一・五割）	六九・〇%	四・九一%
	B 皇室尊崇思想 師	八三（上級生作品九・〇割　下級生作品一・〇割）	四九・二%	六・〇七%
	B 皇室尊崇思想 女師	二一（上級生作品（約）五割　下級生作品（約）五割）	三一・〇%	二・一五%
	C 軍事的傾向 師	二一（上級生作品九・〇割　下級生作品一・〇割）	一二・四%	一・五四%
	C 軍事的傾向 女師	—	—	—
合計	師	一六九（上級生作品八・五割　下級生作品一・五割）	一〇〇・〇%	一二・三五%
	女師	六九（上級生作品七・五割　下級生作品二・五割）	一〇〇・〇%	七・〇六%

斯くの如く、國家的思想傾向を有する作品は、その數量に於いては、次の左傾的急進的思想傾向を有する作品數を遙かに凌いでゐる。

此等の作品の內容を觀るに、何れも國家的見地から皇運の扶翼、國民的精神の確立、國防觀念の强調等に就いて述べたもので、左傾的作品に見出すやうな、衒氣は更に無く、皆着實な見解に出發したものである。こゝに注意すべきは、此等の作品の過半數が特殊な機會、又は事件を契機として著しく現はれてゐることである。卽ち御遷宮式を拜し又は至尊の御巡幸を迎へ、或は御親閱を辱ふしたる際に深く御聖恩に感じ鴻業の盛大を想起して皇室尊崇の精神を現はすとか、又は御聖德の優渥にして宏大なのに恐懼し一意至誠を竭して奉公に勵み、而して國威の發揚に盡さんと述べてゐるとか、或は又自己の將來に於ける特殊的な立場を考慮して國家百年の計を確立すべく初等教育に奮勵しようと述べてゐるのである。其の他軍事記念日・大演習等の機會に國防軍備に就いて述べた作品も見受けられた。これは皆斯る機會に國民の覺醒を促し、國力の充實を主張したもので、所謂「治に居て亂を忘れず」の程度と云ふべく、決して武力萬能を鼓吹したものではない。斯樣にこの種の思想傾向は重に特別な機會にのみ現れてゐるのである。而して此等の作品は、その論旨といひ、筆致といひ、極めて眞摯で皇室尊崇の念厚く、又愛國的熱情が溢れてゐる。しかしこれが特別な機會にのみ現れて平素には甚だ尠ないといふ事實は一見不當を感ずるが、それは恐らく斯る思想を有することは日本國民としては當然のことで、敢て口にするまでもないから、平素はそれが潛在意識として働いてゐて、何か特殊の機會に遭遇した時表面に現れてくるのであらう。

今その一例を示すならば、某縣師範學校の校友會雜誌に五年生某の寄稿せる「遷御の御儀を拜し奉りて」と題するものである。

（前略）あの靜かに更くる夜森嚴の感深きを覺える所に嚴肅なる遷行の御行列を奉拜しました時、私はたゞ辱さと無限の貴さとにうたれて、自ら涙ぐんでしまひました。

（中略）御社殿の前に伏し拜む時覺える神聖にして、崇高の念禁じ得ない、あの心情こそ、我が國民固有の精神である敬神尊王の思想の發露であります。

我が日本の國を神の國と云ふも、思ふにわが國家肇造の理想であり、國家永遠の理想である天祖の御神勅によつて、國の基は定まつたからでありませう。（中略）されば我等國民は敬神尊王の一貫した思想を以て、皇祖の建國の理想と國民活動の源泉とを垂示し給へる、宏大深遠な御神德を奉讃して益々天壤無窮の皇運を扶翼し奉る信

念を鞏固にせねばなりません。

然るにかうした昭和の大御代に當つて、我國固有の精神を忘れ、外來思想に耽溺し、敢て國體の變革を企て、共產社會の實現を圖らんとする狂人的徒輩の出現を見るに至つたことは……あゝ今日の樣に我が國の隆昌は、これ偏へに　上皇室を始め奉り、下我々國民の父祖が天祖　天照大神の理想を承け、力と心を協せて奮闘せし賜であるのに、我々の時代に於てかうした不祥事を惹き起すに至つたことは、これ實に千載の痛恨事でなくて何でありませうか。（中略）國家の消長は國民の良否により、國民の良否は教育の如何に由つて居ります。

私は此重大なる國民教化の大任を自ら任じ、我が國體の尊嚴なる所以を高調し、敬神尊皇愛國の精神を振起せしめ、以て國民教育の基礎を益々鞏固にし、眞正なる國民精神の教養に層一層の努力を拂はんことを覺悟するものであります。

卒業生の作品に就いて

次に卒業生の寄稿せるこの種の傾向の作品數は、師範學校に於いては十六點で、その比率は卒業生の作品總數の五・一六％で、思想傾向を有する作品總數の一四・六八％である。又女子師範學校に於いては、この傾向の作品數は十三點で、その比率は作品總數の五・二四％で、思想傾向を有する作品總數の一七・八一％である。

此等の作品は、多くは國家主義的傾向のもので、學校教育若くは社會問題に關して自己の意見を述べてゐるものが多い。而してその思想的根據は生徒のものより一段と確固たるものがあつた。

（二）左傾的急進的思想傾向

生徒の作品でこの傾向を有するものは、師範學校に於いては二十五點を見出した。その比率は作品總數の〇・六％で、思想傾向を有する作品總數の一・八二％である。そしてこの中九割六分は上級生の筆になつたものであり、四分は下級生の筆になつたものである。又女子師範學校に於いてはこの傾向を有するものを十二點見出した。その比率は作品總數の〇・三九％で、思想傾向を有する作品總數の一・二三％である。そしてこの中七割五分が上級生の作品で、二割五分が下級生の作品である。

卒業生の作品に就いて

次に卒業生の寄稿せる作品でこの傾向を有するものは、師範學校に於いては二點、女子師範學校に於いては皆無であつた。

今これ等の作品を更にその內容によつて細別し、その數量及比率を示せば次の如くである。

〇左傾的急進的思想傾向を有する作品の內譯

		作品數	本思想傾向作品總數に對する百分率	有思想傾向作品總數に對する百分率
生徒	A マルクス主義的傾向			
	師	一（上級生作品一〇・〇割　下級生作品）	四％	〇・〇七％
	女師	—	—	—
生徒	B 一 有產者に對する反感			
	師	一三（上級生作品八・五割　下級生作品一・五割）	五二％	〇・九五％
	女師	四（上級生作品七・五割　下級生作品二・五割）	三三％	〇・四一％

生徒	B二 無産者に對する同情	師	一〇（上級生作品七・八割 下級生作品二・二割）	四〇%	〇・七三%
		女師	四（上級生作品七・五割 下級生作品二・五割）	三三%	〇・四一%
	B三 社會の矛盾に對する不滿	師	一（上級生作品一〇・〇割 下級生作品）	四%	〇・〇七%
		女師	四（上級生作品五・〇割 下級生作品五・〇割）	三三%	〇・四一%
	合計	師	二五（上級生作品九・〇割 下級生作品四・六割）	一〇〇%	一・八三%
		女師	一二（上級生作品七・五割 下級生作品二・五割）	一〇〇%	一・二三%
卒業生	A マルクス主義的傾向	師	—	—	—
		女師	—	—	—
	B一 有産者に對する反感	師	一	五〇%	〇・九二%
		女師	—	—	—
	B二 無産者に對する同情	師	一	五〇%	〇・九二%
		女師	—		—
	B三 社會の矛盾に對する不滿	師	—	—	—
		女師	—	—	—
	合計	師	二	一〇〇%	一・八三%
		女師	—	—	—

A マルクス主義的傾向

この傾向を有すと認められるものが生徒の作品に一點見出された。それは某縣師範學校の學友會雜誌に掲載された五年生某の寄稿に係る「剩餘價値說とは」と題するものである。これはマルクスの剩餘價値說の單なる紹介でこの說に對する意見や批評は別に述べてはゐない。然しこの執筆者がマルクスの學說に興味を持つて相當に研究したものだといふことは明かに認められる。

今その大體を載錄してみよう。

マルクスの學說を知ることは、敎育者として立つ者にとつては極めて重要なことである。彼の學說は大體哲學說、歷史學說、經濟學說の三つに分つ事が出來る。私は彼の經濟學說卽ち剩餘價値說の一般を記さうと思ふ。

マルクスは近代社會の分析を商品の分析から初めた、商品の價値は總て二樣の意味がある。第一に凡ての商品は何らかの効用を有せねばならぬ。然もそれは商品を生產する者の個人的欲望をみたすのみならず何等かの所謂社會的欲望をみたすことを必要條件とす。何故ならばもし其の商品が社會的欲望、卽ちその有用性（効用）を失つた時、それは商品でなくなる。その商品の社會的欲望が齎らす價値を使用價値と名づけることを得、故に使用價値は商品たる所以を形成するもので、商品の總ての價値の源であり、先行條件に他ならず、實に使用價値は富の實在的內容を形成するものと謂へる。

（註一）然し我々は使用價値として或る商品を受け入れるのみでなく、その商品を交換す。我々が二種の商品を交換するとき如何なる場合でもその性質を等しくすることがない。その商品との間に於ける共通の性質——例へ

ば重量――を問題として、それが等しいと云ふのである。

その共通な性質はこれ等商品の有用性であるか否かは明らかである。何んとなれば各商品は夫々異つた効用を有してゐるから、從つてこれ等の商品が等しいのはその使用價値が等しくなく、商品の使用價値を抽象して殘る所の他の性質によつて計算される價値が無ければならぬ。この總ての商品に共通した他の特性とは何か？

それは商品が共に人間の勞働によつて作られしのみなりと云ふ性質である。我々が二つの商品の價値が等しいと云ふ時、我々はその商品の具體的性質を離れて、(註二)それに共通した性質、それが等しく人間勞働の所產であると云ふ性質に基いて云つてゐるのである。實に勞働力こそは一切の商品に共通な性質にして、これこそ異つた種々の使用價値を有する商品が等しい價値として相互に交換されるのである。

然し注意を要することは、我々が此處で云ふのは個々の生產者の勞働に付いてゞない。若し個々の生產者の勞働を問題としてゐるならば我々は或る勞働者は一着の上衣を作るに十時間を要し、他の勞働者は二十時間を要するかも知れない。我々が問題とするのはそれではなく普通の技倆を有する勞働者が通例の勞働方法と强度をもつて普通に且つ正當に要すべき時間――社會的必要勞働の量についてゞある。即ち商品の價値はその商品が要求する社會的必要勞働の量によつて決定される。

以上はマルクスの有名な勞働價値說の一般的概念であり、現在資本主義社會の秘密を開く鍵として彼に役立つたものである、(註三)然してそれらは社會が商品の直接的交換から貨幣を通じてする交換に移つて行つた場合にも當てはまる。

資本家は人間の勞働力を他の凡ての商品の價値と同樣に、その生活に必要な社會的必要勞働時間によつて購入

する、然るに勞働力の再生產に必要な勞働時間とは(註四)その勞働力の擔當者である勞働者とその家族とが生活を支へてゆくだけの價値である。この一方に於て總ての生產手段から離れた「自由」な勞働者、その勞働力以外に何物をも得る能はざる勞働者が存在してゐる。これは資本主義社會の一つ特徵であり、資本主義成立の先行條件である。

然して一旦彼がその價値に相當したものを以つて人間の勞働力を購入すれば資本家はそれに相當する勞働力のみならず、その勞働者そのものを自由に行使す。即ち勞働者より、その勞働力を購つた價値以上の價値を得る。その資本家によつて無償で攝取された價値をマルクスは剩餘價値と名づけた。

かくの如く剩餘價値の源泉は總て勞働の價値を生產する勞働力にあるに拘はらず、その勞働力を有する勞働者の所有にならず、勞働力を購入する資本家の所有となるのである。

かの產業革命後は、社會に於ける機械の發達と生產力の增大とは、勞働者の生活のための社會的必然的勞働を減少した。然るに資本家は勞働者に餘分の勞働を强制する。これは勞働者の收入が次第に減少し資本家の收入が益々增大して行く事を意味するものであらう。

註一、三つの商品、二十碼の麻布と一着の上衣と一個の机が等しい價値に於て互に交換されるとせば――

20碼の麻布＝一着の上衣＝一個の机

註二、20碼の麻布＝一着の上衣＝一個の机の方程式に於て二十碼の麻布と一着の上衣と一個の机との中に含まれた人間の勞働の量(その商品を作るため必要な人間勞働の時間によつて通算される)が等しいのである。

註三、一時間の勞働量を五十錢と評價すれば、十時間の社會的平均勞働を必要とする商品の價値は五圓をもつて

評價される。その場合の商品流通の公式は

W(商品)—W(商品)からW—G(貨幣)—Wに變化する。所が社會が商品生産の一定の發展段階に到達すると貨幣は資本に轉化する。そしてこの時流通の公式は

W—G—WからG—W—Cに變化す。即ち今は商品を得るために商品を賣るに非ず利潤を得て賣るために商品がその價値通りに賣られ、何等の變化がそこに無い限り、流通過程の價値はG=W=Gなり。最初のGは最後のGと等しい。然るに實際は何等かの利潤を得て商品を賣出すために、最初のGと最後のGとは等差を生ず。それは購入するWの中に、その價値を增大する何物かに含まれてゐなければならない。その樣な商品は人間の勞働力に他ならぬとマルクスは云つた。

註四、勞働力の擔當者である勞働者とその家族とが生活を支へてゆく價値に必要な勞働時間を五時間とすれば、資本家はその勞働力を五時間の價値に相當するもの(一時間五十錢ならば二圓五十錢の金)をもつて購入する。

尙その他一般の文章中にも左傾的な用語が可成り見受けられた。今その例を擧げれば

ブルジョア
ブルジョア階級
ブルジョア趣味
プロレタリヤ
プロ階級
プロレタリアート

イデラロギー
インテリゲンチャ
青年革命兒
「人生は爭鬪の歷史だ」
「夜汽車の三等室は資本に疲れた社會相を如實に表現した縮圖である」

等の語句である。

女子師範學校生徒の寄稿に於いてはこの傾向を有するものは全く絶無であつた。

最後にマルクス主義的思想に對する一般生徒並に卒業生の態度を觀察するに、云ふまでもなく之を嫌惡するか又は之に對して無關心な態度をとつてゐる。殊に下級生に於いてはこの傾向が著しい。併しなかには之を批判した作品も少數あつた。此等は五年生、二部生等最上級生の手に成つたものであつて、その內容は特にマルキシズムを目標として論じたものでなく、他の問題に就いて述べてゐる中に偶々この問題に觸れたものである。此等の作品はいづれも人道的立場から階級間の對立や爭鬪を强く攻擊したものであつた。

B　その他の急進的思想傾向

一、有產者に對する反感
二、無產者に對する同情
三、社會の矛盾に對する不滿

此等の傾向を有する寄稿はかなり多かつた。その總數は師範學校に於いては二十四點で、この中一に屬するものが最も多く、二、三はこれに次いでゐる。女子師範學校に於いては十二點で、この中の一、二、三に屬するものは各々同數に現れてゐる。

此等の思想傾向を有するものには、マルキシズムの如き詭激なものは殆んど無く、大部分が社會の諸事相に對して單なる不滿、或は同情の感情を叙べてゐるものにすぎなかつた。而して男生徒は多くは自己を中心にして社會を眺め不平不滿の口吻を洩し、女生徒は之と反對に他人を對象として之に對して同情心を現はしてゐるものが多かつた。

次に卒業生の作品は生徒の作品よりも遙かに少なく、師範學校に於いては總數二點で、一、二に於いて現はれ、女子師範學校に於いては此の種の寄稿は絶無であつた。

一　有産者に對する反感

こゝに云ふ有産者とは單に財産を多く有するものだけを指すのではなく、地位權勢の優れた者をも括めてゐるのである。

この傾向の現はれた作品は「その他の急進的思想傾向」の中で最も多い。

師範學校に於いては、總數十三點で、この左傾的急進的傾向の作品に對する比率は約五二%で、思想傾向を有する作品總數の〇・九五%である。その中八割五分は上級生の手になり、他は下級生の手になつたものである。

この傾向を有する作品は論文の形に於いて現はれずに多くは隨筆又は詩歌の形に於いて現はれてゐる。そしてその題材の多くは都會地の上流の人々や資産家達が、學生の鄕里に避暑又は避寒等の爲滯在してゐる際に於ける言動で、それに就いて感想を述べてゐるのである。

例一、某縣師範學校の學友會雜誌に、三年生某が寄稿せる「漁火の見える頃」と題するもの、

（前略）沖には、太刀魚釣りの灯が美しい不夜城の樣に見えた。闇の晩等には海の向ふには大きな町でもあるかと思はれる程鮮に見えた。……（中略）……私は前の蛸舟の上に腰を下ろした。

町の方から三四人の人々が癇高い笑ひ聲をはさんで下りて來た。それは避暑に來て居る人々である事はその話聲でじきにわかつた。「美しい事！あれ太刀魚釣りの舟よ、ほんとに美しいわね。お母さん一度舟に乘つて見に行きたいね。」「そうねえ。」と言ひながら母らしい人はこちらを向いた。私はやつぱりどす暗い無氣味な海の上の灯を見つめてゐた。私は自分等の島を我がもの顔にして居るそれ等の人々に對する持前の反抗心がしのびよつてくるのを知つた。（中略）

不自由も知らずに暮らして居る美しい人々にとつては漁火は美しい不夜城には違ひないが、生活の爲に夜中暗黑な海の上で薄暗い灯をたよりに働いて居る人々にはそれは追ひかけて來る生存の火の玉に相違ないのだ。かれとこれとのコントラスト！私は心が暗くなつた。（以下略）

この他稍趣を異にしのも少數ある。即ち

例二、某縣師範學校の校友會雜誌に掲載された四年生某の隨筆の一節「自己を信ずることを止めて他人を信ずる」と題するもの、

巡査があつた。巡査は話をしてゐた。努力をして話をしてゐた。底意地惡く話をしてゐた。二人の巡査は制服制帽を着た色白の髯をはやした、やかましそうな面貌をした人物であつた。私はこの二人の巡査を見て可哀想で

ならなかつた。彼は職務にきゆう〳〵として他に何の考へる頭もなければ、又時も見出せない人間であつた。彼は理智に世の中を渡らうとしてゐた。人間の持つ溫い情愛の如きは少しも認められなかつた。二人の巡査はより よく幸福に生き樣と努力してゐる人間の一人である。然し彼が努力をすればする程彼は愈々理智な狡猾な人間となつて行くのであつた。彼はそれに氣付かないのである。彼は醜く〻意地惡く人生を送る。彼は現世の過つた醜くき社會の表徵者でなければならない。

例三、某縣師範學校の校友會雜誌に懸賞當選作品として掲げられてゐる「不作の村」と題するもの、

門前の
にれの大木の
その樹蔭に、あふいだ
去年の空は、
ごこまでも、明るくて
深かつたが……、

にれの大木の
曇り空よ、
この村は、落着かない
濕りつぽい空氣だ、

八十になる
お婆も、すつかりやせたが
まだ、死にさうも、ない。
地主の子供が
お婆に、石を投げた、爲
よけいに、お婆は、死ななくなつたのだ、
何の準備だ
若い男たちが
夜おそくまで
寺の本堂で
何の相談だ

赤茶けた
田甫のいねを
娘たちは
惜しげもなく、ふみちらして
はるかに、建つた

地主の土藏の白壁を
にらんで、叫んだ
「今に見てゐろ」
そして、かすかに、笑つた、

何となく
おちつかない
曇り空の秋の日よ
何かおこる
何かおこる
門前の
にれの大木の
その樹蔭に
白い光だ
鎌の刄が光つた。

女子師範學校に於いても、この種の作品を四點見出した。これの左傾的急進的傾向を有する作品に對する比率は三十三%に當り、思想傾向を有する作品總數の〇・四一%に當る。この中七割五分は上級生の手になつたものであり、

二割五分が下級生の手になつたものである。例へば某府女子師範學校の校友會雜誌に於ける五年生某の

百姓の受難のあさを辿りつゝ、
江戸幕府なる名さへ憎みぬ

と云ふやうな類である。

次に卒業生の作品に於いては、この傾向を有するものを師範學校に於いて一點見受けた。これの左傾的急進的傾向の作品に對する比率は約五〇%で、思想傾向を有する作品總數の約〇・九二%である。女子師範學校に於いてはこの種のものは見出されなかつた。

二　無産者に對する同情

こゝに云ふ無産者とは必ずしも資産の乏しい者だけを指すのでなくて地位低く身分の卑しいものをも括めるのである。

この傾向を有する作品は師範學校に於いては「その他の急進的思想傾向」を有するものゝ中に於いて第二に多數を占めてゐるもので、作品數十點を見出した。その比率は左傾的急進的傾向を有する作品總數の四〇%で、思想傾向を有する作品總數の〇・七三%である。この中の七割八分は上級生の手になり、殘りが下級生の手になつたものである。

この傾向は、論文、創作、詩、歌等あらゆる形に於いて現はれてゐる。そしてその大部分は人道的見地に立つてゐるものであるが、しかし多くは唯徒らに憤激したり、同情したものである。今その例を擧げれば、

例一、某縣師範學校の校友會雜誌に五年生某が寄せた「北海道旅行記」の中に於ける一節の如きもの、

（前略）彼等（アイヌ等を指す）は忠君愛國の訓話を最も親しい同胞大和民族から聽きつゝあるのだ、希くば彼等に先づ食物と衣服とを與へよ、私は慘として心に叫んだ。（以下略）

例二、某縣師範學校發行の校友會雜誌に掲載された「街頭の黄昏」と題するもの、

元氣なく「オーライ！」の女の聲
車は再び走る、乘客二人
彼女は車掌臺に溶け込むやうに坐る。
黄ばんだ黄昏に彼女の顏は一層若さを失つてゐる。
やせこけた蒼白な
一日一ぱいの勞働！
車の振動！
彼女の心身は廢墟の寺院の壁石のやうに、
ガソリンの惡臭は一層彼女を昏倒に導く
車は無頓着に走る。
やがて停留場についた
車臺よりころがるやうにふら〳〵と去る。
疲勞をいやすために……

明日を夢見るために……

例三、某縣師範學校の學友會雜誌に三年生某が寄せた「プロレタリヤ」と題するもの、

日々の勞働に疲れ切つた男です……。
……
コンクリートの建物の下に蹲つてゐる男。
冷めたい風が容赦なくか弱い男を
……そゝのかす樣にして吹く。
大地は響く、けたゝましい勢で走る自動車。
……
見る影もなく疲れきつた男
大地を照す、太陽よ……。
世に嘆く勞働者をしつてくれ!!

例四、某縣師範學校の校友會雜誌に掲載されてゐる五年生某の「大都會の心臟」と題するもの、

（前略）

II

寂默を守りつゝ鶴嘴を振りトげる。
微かなリズムは豪奢なシボレーの警笛（サイレン）に掻消されるが

崇高な神秘な肉魂の飛躍は何時までもつゞく

III

人生の闘に敗残せる浮浪者の群は
極度の恐怖に戰慄しながら
蒼白な容貌をひつさげ
生活の糧を漁つて彷徨ふ。
（以下略）

例五、某縣師範學校の學友會雜誌に掲載された二年生某の「如月」と題するもの、

初春
如月とは名ばかりの或る日
冷い風が
初春の午後鈍い日差しの中を通り過ぎて行く
此處　六甲山の麓
甲陽寮の塀の外を
老いさらばへて歩もたどたどしい老婆が一人
大きな風呂敷包を背に負つて
一本の杖にすがりながらも

家々を商つて廻つて行く
すげなく追出された嚴しい門構への家の前で
たゝずんでゐる
弱い光が照してゐる
冷い風が白髪を吹く
痩せ細つた痛々しい體を杖にすがつて
苦しさうに延しながら
「ほつ」と溜息した
あゝ
その溜息
人生の苦しい旅路に疲かれはてて
でも
最後まで
生きられるまで
生への執着にあへぎながら
登り行く人生最後の坂路
青春を浪費せしめた罪か

お國のために可愛い息子を戰禍の巷に送りしか
樂しむべき筈の老後を
悲慘な浮世にさらしながらも
尙ほ生き續けて行かねばならぬ
哀れな人生を行く一人の老婆
風は吹く
六甲嵐が
若い男にも堪へ難い冷い風にも
老い朽ちた肉體で戰つて行かねばならない
哀れな姿
是れが世中の……なれば
あまりにも慘めなその姿
歩み去る老婆の影
風は吹く
僅かに歩んでまた立止り
鼻すゝりながらも又歩を運ぶ
行く手の難路にその身で堪へ得られるのか

「運命」とはいへど
あまりにも慘な
人生の姿を見る……。

例六、某縣師範學校の校友會雜誌に載せられた四年生某の寄稿にかゝる「慘めな勞作」と題するもの、

（前略）……農夫達はみんなあの荒れ果てた慘めな廢屋の樣な建物の中で、幾十年となく望みなき時と齡とを數へて來たのだ。

農夫の中には肥料をやる者、溝を切る者、草を刈るもの――一人として怠けてゐる人間はない。こんな單調な環境に身を置きながらこんなに努力してゐられるとは實に驚くべき事だ。或る者はたつた一人山の上に鳥の樣にとまつて、せつせつと土を堀返してゐる。彼處から家へ歸るだけでも半時間位かゝるだらう。

彼等は年に一度村のお宮の太鼓より外に何一つ慰めといふものを持たない人達である。そして東京に金儲があらうと北海道の大曠原があらうと彼等はそのやうな所へ行かうとしない。彼は土に縛りつけられてゐるのである。

そして絶壁があらうと滅亡があらうと彼等の仕事は生きるだけだ。彼等はかうして永久に苦しむ。勞作毎に新しい生命を賭ける彼等の仕事に對して與へられる報酬は眞に呪はしいほど僅かなものだ……（中略）……

嗚呼土に始まつて土に終る彼等の一生、何んと呪はしい生存だらう。

此等の傾向は社會に於ける弱者に對する同情を現はしたものであるが、その中には社會に對する呪ひの口吻も現はれて居るので一歩進めば左傾思想となり易い性質を具へてゐるものと思はれる。

女子師範學校に於いてはこの種の傾向の作品は四點で、その比率は左傾的急進的傾向を有する作品數の三十三％に當り、思想傾向を有する作品總數の〇・四一％に當る。この中七割五分が上級生の筆になり、殘餘の二割五分は下級生のものである。

この傾向を有するものは大概論說の中に見出された。その思想は男生に比して單純であるが、その心持には男子よりも眞劍なものがある。

例一、某縣女子師範學校の校友會雜誌に載せられた二部生某の「油賣る乙女」と題するもの、

……(前略)……都會の華やかさ、文明の恩に陶醉する若人達は淸き其の一滴の涙を彼女等にそゝぐのがあたりまへで無からうか、でも若人達は目もくれない、世の中は餘りに皮肉であると言ひたい。併し造化の眸に何の不公平があらう。彼女の前途に如何なる光が照される事かと我は彼女の汗ばんだ姿を見つめた。……(後略)……

註（彼女とは椿油賣りの大島女のことである——都會地へ出稼に來て旅を重ねてゐる彼女等の姿への同情心の發露である）

例二、某縣女子師範學校の校友會雜誌に載せられた一年生某の「バスの進出」と題するもの、

……(前略)……いくら自動車の時代が來ても人力車の影は未だ〳〵消えまい。冬の寒空に淋しさうに客待ちしてゐる車夫の姿を見ない事は出來ない。或る事業家が投資してバスの如き一般の人々の喜ぶ機關を設けるならば直ぐその人は利益を得るだらう。併し少數の人が莫大の利益を得る其の反面には、多くの貧しい人々の悲しみが存在してゐるのだ……(後略)……

の如きものである。

次に卒業生の作品に就いて見るに、師範學校に於いてはこの傾向を有する作品は一點で、その比率は左傾的急進的傾向を有する作品の五〇％で、思想傾向を有する作品總數の〇・九％に當つてゐる。女子師範學校に於いてはこれに該當する作品は發見し得なかつた。

三　社會の矛盾に對する不滿

生徒の作品に就いて觀るに、師範學校に於いてはこの傾向はBの思想傾向中最も少なく、僅かに上級生の筆になつたものを一點見出したのみで、その比率は左傾的急進的傾向を有する作品の四％で、思想傾向を有する作品總數の〇・〇七％である。この作品は某縣師範學校の校友會雜誌に掲載された二部生某の「先生と呼ばれて」と題するもので、その一節に次のやうな言辭を述べてゐる。

獨學で檢定試驗に合格して、他の師範學校卒業の先生方と同資格になつても昇進は遲いのです。獨學者は多くは學資不充分とか親のないとか言ふ必然的の事情に止むなく獨學するお氣の毒な人が多いのです。世の自棄になる教育者の多くは獨學者です。私達はいずれ卒業すればそれ等の人々とも接觸します。其の時我々のやうに順境にあるものが、かうした逆境にある人々を輕視したりすることは餘程氣をつけなければなりません。

又女子師範學校に於いてはこの傾向の作品は四點で、その比率は左傾的急進的思想を有する作品の三十三％で、思想傾向を有する作品總數の〇・四一％である。そしてこの作品は上級生のもの二點、下級生のもの二點である。右の如く女子師範學校に於いては師範學校に比して比率も高く實際の作品數も多い。而も師範學校に於いては下級生の作品が皆無であるに拘らず、女子師範學校に於いては下級生の作品がその半を占めてゐる。斯く女生徒のこの種の作品數は男生徒のものに比して稍多く現れてゐるが、その內容は極めて單純なものであつた。

例一、某府女子師範學校の校友會雜誌に掲載された一年生某の寄稿せる「ある矛盾」と題するもの、

（前略）もう十八、九にもなりながら夕べのお手傳もしないてあそんてゐる人達。春雨とはいひながらこの雨の中を傘もさゝずにお使に行つた小さい子。シネマや音樂會やお化粧のことばかりを考へてゐればよい人たち、どうして大きい人が遊んでゐて小さい人が働くのか知ら。

そう思ふとなんだかすつかり分らなくなりました。

でもそれはお金持のお嬢さんと五軒長屋の子供だから……

そう思へば分つたやうな氣にもなりました。

何の經驗も、はつきりした考もない私にとつてはそれは世の中の不思議な矛盾とみるより仕方がなかつたのです。

（後略）

これは社會の矛盾に對して不滿の情を洩したものと云へよう。

例二、某府女子師範學校の校友會雜誌に掲載された四年生某の寄稿にかゝる「夜の街」と題するもの、

此處歡樂の夜の街は
火に慕ひよる虫のごと
街の灯と戯ひて集りたる
人間の群でいつぱいだ
其處には赤や青の灯を
ヂャズと酒との交錯あり
歡樂と罪惡の渦が卷いて居る
悲しみ愁そんなものは
此處では見られない
が人々よ、一度考へてほしい
此の頃の寒さに溫かき食もなく
美しき服もなく
寒さにふるへて居る人のある事を。
橋上に坐して一片のパンを求める
憐れな人のある事を
同じ街の同じ路上に
かくも反した二つの現象を
夜の街の此の對象を
人々よ一度考へてほしい。

かゝる感情の動きは女子にはありがちなことであらうが、しかしその社會に於ける事件、即ち社會問題の對象となるやうなことを題材としてゐる點は大いに注目すべきである。

卒業生の作品で、この種の傾向のものは、師範學校・女子師範學校の何れにも皆無である。

こゝに左傾的急進的思想傾向に關する調査を總括して觀るに、明かにマルクス主義を記述した生徒の寄稿は師範學

校の上級生の手になるものを一つ發見した。これはマルクス主義の一部を紹介したものである。次にその他の急進的思想傾向に屬するものは可成り多く見出された。而して此等の作品の現れ方は師範學校と女子師範學校とで幾分その趣を異にしてゐる。即ち師範學校に於いては、プロ文學の影響を受けたものゝ思はれるやうな詩や歌が比較的多く、又その表現の方法も、作品中に現れる人物に托してその思想を現はしてゐる傾きがある。然るに女子師範學校の寄稿に於いてはプロ文學の影響を受けたやうな形跡は殆んゞなく、平凡な記事文を以て自已の思想を赤裸々に述べてゐる。又その用語に就いても男生徒は左傾的流行語を所々に用ひてゐるのに反し、女生徒は殆んゞ之を用ひてゐない。次に此等の思想傾向を現はすに至つた原因は男生徒は重に刊行物の影響に由るもの、やうに思はれ、女生徒は直情的な同情心から出たもの、やうで、自然その現れに反抗的な所がない。それだけその思想は單純幼稚であるが、併し讀者の心を強く動かす所がある。

卒業生の作品で、マルクス主義的思想傾向を有するものは師範學校・女子師範學校共に皆無である。その他の急進的思想傾向のものも亦極めて少ない。併し此等の作品の內容を觀るに、多くはマルキシズムをその背景に有し幾分之に好意的關心を有してゐるものゝ見られぬこともない。

此處に注目すべきことは、出版物の全てを通じてその內容の豐富なものにほどこの傾向を帶びたものを多く見出したことである。

(三) 道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向

此等の傾向のものは、男女師範學校を通じて、思想傾向を有する作品中の大多數を占めてゐる。

師範學校に於いてはこの傾向の作品を千百七十四點を見出した。その比率は生徒の作品總數の約二八%で、思想傾向を有する作品總數の約八六%である。この中の七割は上級生のものであり、三割が下級生のものである。

女子師範學校に於いてはこの傾向のものは八百九十七點を見出した。その比率は女生徒の作品總數の約二九%で、思想傾向を有する作品總數の約九〇%である。この中の七割は上級生のものであり、三割が下級生のものである。

之等の作品をその內容によつて更に細別してその各の比率を示せば左の如くである。

○道德的、感傷的、勤勉的等の思想傾向を有する作品の內譯（大別）

徒		作品數	本思想傾向作品總數に對する百分率	有思想傾向作品總數に對する百分率
生 A 道德的・宗教的・哲學的・理想主義的・復古的・自然讚仰的・人情的の傾向	師	六五八（上級生作品六・四割 下級生作品三・六割）	五六・〇%	四八・一〇%
	女師	五七〇（上級生作品六・七割 下級生作品三・三割）	六二・七%	五八・二八%
B 感傷的・享樂的・廢頹的の傾向	師	一七四（上級生作品五・四割 下級生作品四・六割）	一五・〇%	一二・七二%
	女師	一四七（上級生作品六・一割 下級生作品三・九割）	一六・三%	一五・〇三%
C 勤勉努力的・實實剛健的の傾向	師	三四二（上級生作品七・九割 下級生作品三・一割）	二九・〇%	二五・〇〇%
	女師	一八〇（上級生作品六・四割 下級生作品三・六割）	二一・〇%	一八・四〇%
合計	師	一一七四（上級生作品七・〇割 下級生作品三・〇割）	一〇〇・〇%	八五・八二%
	女師	八九七（上級生作品七・〇割 下級生作品三・〇割）	一〇〇・〇%	九一・七二%

師範學校に於いて、最も多數を占めてゐるのは、Aに屬するものでその數は六百五十八點であり總數の五割六分即ち過半數以上を占めて居る。次はCに屬するものでその數は三百四十二點、總數の三割弱を占めてゐる。最も少いのはBに屬するもので、その數は百七十四點で總數の二割弱である。

女子師範學校に於いては、Aに屬するものは五百七十點で總數の六割強に當り、Cに屬するものが百八十點で、總數の二割強に當り、Bに屬するものは百四十七點で、總數の二割弱に當つてゐる。

今このA、B、Cの三つの傾向を更に細別してその比率を示せば次の如くである

○道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向を有する作品の內譯（細別）

		作品數	本思想傾向作品總數に對する百分率	有思想傾向作品總數に對する百分率
生	道德的傾向 師	七〇（上級生作品八・六割 下級生作品一・四割）	五・九%	五・一二%
	道德的傾向 女師	六（上級生作品八・六割 下級生作品一・四割）	〇・六%	〇・六一%
	宗教的傾向 師	四七（上級生作品八・〇割 下級生作品二・〇割）	四・二%	三・四四%
	宗教的傾向 女師	四一（上級生作品八・七割 下級生作品一・三割）	五・一%	四・一九%
	哲學的傾向 師	一二（上級生作品一〇・〇割 下級生作品）	一・〇%	〇・八八%
	哲學的傾向 女師	五（上級生作品八・〇割 下級生作品二・〇割）	〇・六%	〇・五一%
	理想主義的傾向 師	二五（上級生作品七・六割 下級生作品二・四割）	二・一%	一・八三%
	理想主義的傾向 女師	五（上級生作品八・〇割 下級生作品二・〇割）	〇・五%	〇・五一%
	復古的傾向 師	—	—	—

徒	自然讃仰的傾向 師	一〇〇（上級生作品五・五割 下級生作品四・五割）	八・五%	七・三一%
	自然讃仰的傾向 女師	五三（上級生作品六・六割 下級生作品三・四割）	六・四%	五・四二%
	人情的傾向 師	四〇四（上級生作品五・九割 下級生作品四・一割）	三四・三%	二九・五三%
	人情的傾向 女師	四六〇（上級生作品六・五割 下級生作品三・五割）	四九・五%	四七・〇三%
	感傷的傾向 師	一六九（上級生作品五・二割 下級生作品四・八割）	一四・四%	一二・三五%
	感傷的傾向 女師	一四四（上級生作品六・〇割 下級生作品四・〇割）	一六・〇%	一四・七二%
	享樂的傾向 師	—	—	—
	享樂的傾向 女師	—	—	—
	頹廢的傾向 師	一（上級生作品一〇・〇割 下級生作品）	〇・一%	〇・〇七%
	頹廢的傾向 女師	—	—	—
	勤勉努力的傾向 師	四（上級生作品一〇・〇割 下級生作品）	〇・五%	〇・二九%
	勤勉努力的傾向 女師	三（上級生作品一〇・〇割 下級生作品）	〇・三%	〇・三一%
	質實剛健的傾向 師	一六〇（上級生作品七・三割 下級生作品二・七割）	一三・六%	一一・七〇%
	質實剛健的傾向 女師	五四（上級生作品六・六割 下級生作品三・四割）	六・〇%	五・五二%
	合計 師	一八二（上級生作品八・四割 下級生作品一・六割）	一五・四%	一三・三〇%
	合計 女師	一二六（上級生作品六・一割 下級生作品三・九割）	一五・〇%	一二・八八%
	合計 師	一一七四（上級生作品七・〇割 下級生作品三・〇割）	一〇〇・〇%	八五・八二%
	合計 女師	八九七（上級生作品七・〇割 下級生作品三・〇割）	一〇〇・〇%	九一・七二%

先づAに屬する傾向に就いて觀るに、右の表に示す如く人情的傾向の現はれた作品が道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向中最も多い。この傾向は詩、歌等に多く現はれてゐる。その多くは他鄕の學窓にあつて父母兄弟を慕ふとか、恩師を憶ふとか、或は又亡き親を懷しむとかいふ類である。

例一、某縣師範學校校友會雜誌に揭載されてゐる四年生某の「形見」と題するもの、

（前略）あの嚴肅な愛に徹した父の靈は何んな時でも私を離れてゐないと信じてゐる。（中略）私は形見と云ふ事を考へた。そして其れを物にのみ見出して見た。然し其れは限られた形見で、何となく物足りない淋しさを感じさせる。（中略）そして遂に私は大きな莊嚴な父の形見を見出し得た。父の肉體は滅びて終つた。然し父の生は私の肉體の內に嚴に保守されて殘つてゐることを知つた。父の思想行動、體を保つて居たと同じ生が私の肉體に流れてゐるのである。何が是れ以上の形見があらう。此の形見をどう仕上げて行くか是が私の一生の仕事でなくてはならない。私は懷しい父の形見である故におろそかに出來ない。

之に次ぐものは、大自然の中に心を投げ入れて森羅萬象の時々刻々の變化を心ゆくばかり禮讃することによつて、自己の精神を淨化しようとする自然讃仰的なものである。

例二、某縣師範學校校友會誌に二部生某が「夏の快味」と題して揭載してゐるもの、

（前略）淋漓たる汗を惧れず、太陽下の炎熱を恐れず勇奮力闘の我を見るとき悠久の善き人生を見出すのである。夏は自己を試錬するに恰好の時機である。この夏即ち天與の盛夏に自己を生かし他を益せしむる何んと愉快なことではないか。赫口たる太陽を思ひ、悠久の人生を想ふとき言ひ知れぬ快味は胸に迫つて來る。夏の眞の快味は流汗鍛錬の後に襲ひくるものである。

例三、某縣師範學校校友會雜誌中二部生某の「秋夕」と題したもの、

（前略）秋！ 何といふ與へられたる思索の時か。彼の透徹した蒼穹に萬象盡く詩索ならざるなく、彼方、此方に美の手を差し伸して、我等を廣い〳〵太虛の胸に抱擁してくれる。そこには淺薄な人生の哲學など九牛の一毛もなく、却つて根底から破壞されて覆されてしまふ。秋だ。秋の心だ！ 見よ秋の姿が如何ばかり人生窮極の理想を敎へ躍々として俗人に迫るかを！

例三、某縣師範學校の校友會雜誌に詩として現はれてゐる「柿一つ」と題するもの、

深山の柿の實一つ
夕日に映えて
甘さうだ。

冬枯の中に凛然と
誇らしげだ
嬉しさうだ
これこそ大自然の
眞の姿だ

過去の
孤苦の表示と
未來への
希望の象徵だ。

人々よ

次に倫理道德を力說した作品は、その內容が何れも傳統的な東洋精神を强調したもので現代世相の物質偏重の思想、個人主義偏重の氣風を慨嘆したものであつた。次は宗敎的傾向を有するもので超人間的の偉大な力の存在を認め、神や佛の啓示する所によつて自己の進むべき道を知り、進んでは社會をも救はんとする態度を現はしてゐる。そしてそれ等の宗派的色彩には種々のものがあるが佛敎的傾向を帶びたものが多數を占めてゐた。

例へば、某縣師範學校の學友會誌に揭載されてゐる二部生某の「管中より宗敎を覗きて」と題するもの、

その梗概を摘錄すれば

吾々が完全を希望する心が熱烈であればある程、此の世は醜いものとなる、此處に於て吾々は理想への追求心を起す。この理想は眞善美の諸性を完備してゐる最高人格者卽ち神である。この神の世界が吾々の理想の世界である。これを目標としての奮鬪が卽ち宗敎である。

人生の根源は自己愛である。然しこれは更に醇化され、理想化されねばならぬ、卽ち自己より人類全體に宇宙全體に永遠の未來までも擴大せしむるを理想とする。

己を愛する如くに全宇宙を愛し得るに至つた時、その生命は宇宙大にしてその自我は宇宙我卽ち神である。この神にまで到達することが吾人の理想である。この人より神への苦行これ宗敎である。

理想の爲の理想は死せる理想である。理想を現實に生かすことこそ吾人の理想であり宗敎の眞諦である。卽ち宗敎は目的そのものであり生命そのものである。宗敎生活こそ吾人の眞に生きる道である。

又僅か四點ではあるが、現實を棄てゝただ「祈り」に依り、或は來世の生活を願ひ自己を安泰ならしめようとする傾向のものも見出された。この傾向も深い根底のあるものではなく、青年時代の感傷的氣分が偶々宗敎を背景として現れたに過ぎないものと思はれるが、注意すべき傾向であらう。

この外に現實の濁つた社會から超越して高遠な理想に生きようとするものとか、哲學じみた思索に耽つて自己の生活を意味付けようとするものが見受けられた。

次に女子師範學校に於いては、人情的傾向の現はれた作品が男子師範學校と同樣最も多數を占め、しかもその比率は師範學校の約二倍である。その他のものもその比率は男子師範學校と殆んど同じである。宗敎的傾向のものは、その比率に於いて男子師範學校よりやゝ多い。これは前記の人情的傾向の多いことと共に、女性の特性の然らしめたものだと云へよう。

これ等の作品の內容は、大體男子師範學校に於けるものと大同小異であるが、特に自然讃仰的傾向を有する作品と宗敎的傾向を有する作品とに女性らしい和かな特徵が見受けられた。

例へば、某縣女子師範學校學友會雜誌の中に見える專攻科生某女の「思慕の世界」の如きもの、

（前略）
日蓮は燃ゆる火の如し
親鸞は澄める水の如し
とやら云ふのであるが、然しその火の如き熱を以て國家主義を標榜し社會改革を叫んで大道に說法した日蓮よりも二十九歲の時比叡山でその罪に戰き、一切の地位名譽を捨て、法然の門下に至り、靜かに愚禿と名乘つた親鸞の方が、信仰生活者として

私にはより麗はしく思はれ、又その人間味豊かな點に於て云ひ知れぬ慕はしさと、なつかしさを覺えるのである。私は此の意味に於て親鸞の信仰生活を憧憬し思慕するものである。

又宗教的傾向を帶びて而かも逃避的なものの例として某縣女子師範學校校友會雜誌に掲載された五年生某女の「偶感」と題するものがある。

曾つての日。——

塵煙を遠くはなれた山房に於ける尼僧の生活に憧れの心を抱き、又は、鈴蘭咲く北海道に於ける修道院の生活を極度に憧れ切つた自分であつた。

× ×

あの頃から幾年たつたか？ 其の間に漁つた何冊かの書物に由つて、私は何人にも苦惱のあるといふことを、はつきりと教へられた。そして同時に、自己の眞の姿なるものは、數限りなきこの苦惱てふ腐研紙によつてみがかれてこそはじめて光を發するものであることをも。——

× ×

人の世に生をうけた以上、與へられた運命そのものと、血みどろの闘を、つゞけつゝも、強く、雄々しく生きて行かねばならぬことは十二分に承知しながら強くなれない自分を省り見る時、我と我が身の弱さを、なげかずにはゐられない。

× ×

餘りにも詐り矛盾の多い社會や、みにくい内面をもつこの社會であることを考へるとき、私の胸にはいつもあの頃と同じやうな心が起る。墨染の衣をまとひ、靜かな讀經に日を送る僧庵の生活に對する淡い憧れはいつまでも私の腦裡をはなれないのだらうか？——

道德的、哲學的、理想主義的傾向を有する作品は、その内容が男生徒のものゝ殆んど同樣で、數に於いては男生徒のものに劣るが、その態度にはかなり眞摯な點が見受けられた。

Bに屬する傾向の中では、前記の表に載せたやうに感傷的のものが多數を占め、道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向全體の中に於いても第四位を占めてゐるが、他の二つの傾向のものは極く少數である。感傷的なものの中で厭世的傾向を有するものは、次の例に示すやうに極めて皮想的で何等の深みもなく、ある年代を過ぎれば自然に消滅する程度の極く淡い感傷氣分が文字となつて現はれたものの樣である。

今その一例を擧げれば某縣師範學校校友會雜誌に四年生某が寄せた次の如きものである。

死

賢者　愚者　美人　醜人
そこには、何の差別があらう
氣味惡き惡魔の舌の下に
フワリ　フワリ
あらゆる物を含有して
只、たゞよふは一抹の煙

×

俊才　鈍物　善人　惡人
すべての罪は淨化され
燃えさかる　紅蓮の舌の下に

清らかに
皆一樣に燒きつくされて
後に殘るは一握の灰

その他に少數ではあるが頽廢的傾向のもの及び享樂的傾向のものがあつた。

例へば某縣師範學校の學友會雜誌に載せられた五年生某の短歌

田圃の春
乙女らのほてりし頰に頰あてて
田舍春路に戀語らまし

のやうなものである。

次に女子師範學校に於いては、前記の表に載せたやうに、多寡の順位は男子師範學校に於けるものと同樣であり、各傾向についての作品數もほゞ同樣である。唯こゝに注目すべきは、頽廢的傾向のものも、矢張り師範學校同樣に極く少數見出されたことである。しかし享樂的傾向のものは皆無であつた。

次にCに屬する傾向の作品に就いて觀るに、何れも只管勤勉努力することによつて堅實な志操を養ひ、自己の境遇を開拓すると共に社會の福利增進に裨益しようとするもので、その精神には純眞卒直な青年男女の氣魄が橫溢してゐる。併しその論述は未だ幼稚單純であることを免れない。而して特に女生徒の作品に於いて注意を引くことは、作品數が男生徒のものに比して可成り少ない點から觀ても、又その個々の作品の內容から觀ても、女生徒は男生徒より生活に對する積極的な精神に缺けてゐるやうに見受けられることである。

次に卒業生の作品に就いて觀るに、師範學校に於いては、Aの傾向に屬するものが最も多數で道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向を有する作品の約五割五分を占め、次はCの傾向に屬するものである。そしてBの傾向に屬するものは皆無であつた。これを生徒の場合に比較して見るに、Aの傾向に屬するものは、生徒の場合とその現はれ方がほゞ同樣で、Bの傾向に屬するものは卒業者の場合は皆無であり、Cの傾向に屬するものは生徒の場合より比較的多數を占めてゐる。

又女子師範學校に於いては、師範學校と同樣Aの傾向に屬するものが最も多數で、道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向を有する作品中の約五割七分を占め、次はCの傾向に屬するもので約四割二分、Bの傾向の屬するものは、僅か一點で約一分を占めてゐた。これを生徒の場合に比較してみるに、道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向中に於ける割合に於いて、Aの傾向のものは稍々低率を示してゐる。Bの傾向のものは低率であつたが極く僅かに見出した。この傾向は男子師範學校卒業生には皆無であつたに拘らず、女子師範學校卒業生に於いて見出したことは注意すべきである。Cの傾向のものは、卒業後實社會に出て、初等教育の實際にたずさはつてゐる者だけに學窓中の生徒とは異り遙に多數を現はしてゐた。

これ等作品の內容は生徒の作品とは異り堅實なものであることは申すまでもなく、その論旨も充實し、又その見解にも公正なものが多かつた。

(四) 自己の職業に關する思想傾向

自己の職業に關して何等かの思想傾向を現はした作品は一般に少數であつた。男子師範學校に於いては五九點を見

出した。この比率は生徒の作品總數の一・四%で、思想傾向を有する作品總數の四・三%である。そしてこの中の九割强は上級生の筆になつたもので、下級生の作品は極めて少い。

これ等の作品を觀るに大部分は教職に關する自覺を述べたもので、その思想傾向は何れも穩健着實なものである。即ち教職は「パン」を得る爲の所謂職業ではなく、絶對神聖なものであると述べ、そして自分がこの尊き教職に携はるに至つたのは天の命であるとし、その本職に一層奮勵努力しようとする決心を披瀝してゐる。今その實例を示すならば、

例一、某縣師範學校の校友會雜誌に載せられた二年生某の「私の希望」と題するもの、

（前略）私は已むべからざる內心の要求により、遂にこの道に入つたのである。然し大なる天職を果すに就いては種々の必要なる條件があると思ふ。（中略）私は不敏ながら將來ペスタロッチ氏の志を心として教育につくし、以て我が天職に向つて躍進したいとの希望に燃えて居る。

例二、某縣師範學校の校友會雜誌に載せられた五年生某の「若き教育者の叫び」と題するもの、

（前略）おゝ、將に學窓を出でんとする若き教育者よ、自覺せよ、この祖國をすくふべき任務は吾人の兩肩にあるのだ。一に教育によるのだ。この祖國を背負うて立つべき新日本の國民を教育すべきものこそ吾人だ。新日本を建設するのは吾人の腕だ。起て、國家の第一線に……（以下略）

次に教職に對する見解を述べたものも少數見出された。それは教職に在る者、特に初等教育に携つて居る者に對する社會一般の人々の態度に就いて不滿の意を現したものである。しかしこれには別に奇激不穩な傾向は見出さなかつた。例へば某縣師範學校の學友會誌に載せられた二年生某の「私の希望」と題するものである。

（前略）我が希望は教育家である。世人は稍々もすれば教育家を輕視する。就中初等教育の任に當る小學校教師に於て甚しい、然して待遇も餘りよくない（以下略）

又、女子師範學校に於いては、この傾向の作品は男子師範學校の場合に比して遙に少く、僅かに十二點を見出したに過ぎない。この比率は女生徒の作品總數の〇・八七%、思想傾向を有する作品總數の一・三%に當る。そして全部が上級生の筆になつたものである。

これ等の作品の叙述の方法、叙述の態度は何れも男子師範學校のものと大同小異であり、又それ等に現はれた思想傾向もほゞ同樣である。例へば、某縣女子師範學校の校友會雜誌に二部生某女の寄せた「偶感」と題するもので、今その梗概を述べれば、

教育は職業ではない。教育はパンを得る爲の手段ではない。教育は他の何物に於ても見る事の出來ない我々にのみ與へられた特權である。

國民を善導するものは教育だ。國家の興廢を決するは教育だ。これ程重大なそしてこれ程聖なるものがどうしてパンを得る爲にのみ用ひられる仕事であらう。そして我々にのみ與へられた特權である。我々はこの聖なる特權に對して恥じないだけの信念と强固な意志とを持つて進まねばならない。

かくの如く教職をパンを目的とする所謂職業なるものの外に置きこれを特別なものとして神聖視してゐる。これとほゞ同樣な論旨のものが某縣女子師範學校の校友會雜誌に於ける二部生某女の「教師としてのユートピア」と題するものに見出された。その他地方農村の兒童教育の爲に生涯盡さうとか、又は己が職業の意義を十分自覺し、一村の思想を統一指導し我が國の思想界を安定せしめる一端としようといふ樣な主旨を現はしたものもあつた。或は又、女性の覺悟らしい點の現れたものも見受けた。即ち第二の日本國民を生むものは女性であり、之を育成する者も女性である。そして自分が將來初等教育に携はることを思ふとき一層責任の重大を感ずるといふやうなことが述べてあ

つた。

以上のやうに、大體に於いて男子師範學校に於けるものと同樣であるが、概して女生徒の作品には內容に多少熱意の缺けてゐるやうに見受けられる。

次に卒業生の作品に就いて觀るに、男女師範學校何れもこの種の作品の全作品中に於ける割合は生徒の場合より比較的多く、その內容も生徒の作品よりは遙に優れてゐた。

先づ男子師範學校に於いてはこの種の思想傾向を有する作品は十六點で、その比率は卒業生の作品總數の五・二%で、思想傾向を有する作品總數の一四・六%である。又女子師範學校に於いては十點で、この比率は女子卒業生の作品總數の四%で、思想傾向を有する作品總數の一三%である。

これ等の作品の內容を觀るに、その叙述の方法、態度等は何れも生徒のものと同樣であり、又その思想傾向もほゞ同じであるが、生徒のものに比して一層確固たる信念が現れてゐる。卽ち「我等教育者は國民精神の根本をなすものである」とか「初等教育は國家の盛衰を左右すべき重大な使命を持つものである」と言つて彼等の社會的立場の重大性を力說してゐる。又或る者は「教師は物質的に惠まれない」と不滿を洩しつゝも「我等は金錢を度外視して犧牲的に獻身的に善良なる第二の國民の養成に當らなければならない」と敎職に對する自己の覺悟、抱負を述べ、或は又「自分等は敎育事業の中に安住境を見出し一生を敎育の爲に奮鬪しよう」と自己の理想を述べ、更に又「地位・名譽・權勢等世俗の人爵的方面に心を動かし陶冶的精神を忘れるやうな惡風潮から超越して眞の敎育者としての本領を發揮すべきである」と述べてゐる。

結語

以上記述したところを總括してみるに、

生徒の作品で、何等かの思想傾向を有するものは師範學校では、全體の約三三%、女子師範學校では約三二%である。この中大部分は道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向を有するもので、師範學校に於いてはこれが思想傾向を有する作品の約八六%、女子師範學校に於いては約九二%に達してゐる。次が國家的傾向を有するもので、師範學校に於いては思想傾向を有する作品の約一二%、女子師範學校に於いては約七%である。左傾的急進的傾向を有するものは、男女師範學校共極めて少ない。

以上の如く生徒の思想傾向の大部分は、男女共道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向に於いて現れてゐる。この中でも人情的、感傷的、自然讃仰的、道德的等の傾向のものは、男女生徒を通じて最も多く、人情的、感傷的等の傾向のものがその首位を占めてゐる。特に女子師範學校に於いては、人情的傾向を有するものは思想傾向を有する作品總數の四七・〇三%に及び、又感傷的傾向を有するものも一四・七二%を占め、何れも師範學校に於けるこの種のものより遙に多い。勤勉努力的傾向、質實剛健的傾向を有するものは師範學校に於いては人情的傾向、感傷的傾向を有するものと殆ど等しく多數に現れてゐる。然るに女子師範學校に於いてはこれに比して可成り少い。次に多數現れてゐるものは國家主義的傾向、皇室尊崇思想を有するもので、この多くは特殊な機會や問題を契機として起稿したものである。この傾向の作品はいづれもその筆致に熱情がこもりその主義主張を强く述べたものである。最後に極少數ではあるが左傾的急進的傾向のものも認められた。この中マルクス主義的のものは師範學校生徒の作品中に一點見出された。その

內容はマルクス主義に就いて相當の興味を持つて研究したもの、やうに見受けられる。この外に急進的傾向即ち有產者に對する反感、無產者に對する同情、社會の矛盾に對する不滿を現した作品もあり、左傾的流行語も亦諸所に散見された。自己の職業に關して何等かの思想傾向を現した作品は男女師範學校共比較的少數で殊に女子師範學校に於いては極めて少い。しかしこの種のものには師範生らしい特徵が頗る濃厚に現れてゐる。これ等は大部分教師の使命に就いての自覺、又は教職に對する意見を述べたので、何れも穩健着實なものである。

要するに生徒の作品の大多數のものは穩健で青年らしい純眞さが現れてゐる。併し極めて少數ではあるが左傾的急進的傾向のものも見出された。

卒業生の作品に就いて觀るに、思想傾向を有するものは、師範學校に於いては全體の約三五%、女子師範學校に於いては約二九%で、兩者とも生徒の作品に比して甚だ少い。

これ等の作品の思想傾向は大體生徒の場合と同樣で、その大部分が道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向のものである。しかしこの種の作品に比して國家的傾向の作品が生徒の場合よりは割合にその率が多い。左傾的急進的傾向は師範學校に於いては生徒の場合とほゞ等しい割合で現れ、女子師範學校に於いては皆無であつた。又自己の職業に關して何等かの思想傾向を現したものは男女師範學校とも生徒の場合より稍高率を示してゐる。

而してこの道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向の中の思想的分野は生徒の場合と稍異り、男女師範學校共勤勉努力的、質實剛健的傾向が多數を占めてゐる。又國家的傾向を有するものは生徒のものよりその內容が一層充實してゐる。左傾的急進的のものは極めて少いが中にはマルクス主義的思想を抱懷してゐると思はれるものも見受けた。卒業生の作品の題材は大體生徒のものと大同小異であるが教育上の諸問題に關して意見を述べた點が生徒の作品に見ないものである。その內容は生徒のものよりも充實してゐる。又卒業生の作品は後輩を指導せんとの傾向が著しく現れてゐる。

中學校

目次

總　說

(一)國家的思想傾向

A、國家主義的傾向

B、皇室尊崇的思想

C、軍事的傾向

(二)左傾的急進的思想傾向

A、マルクス主義的傾向

B、その他の急進的傾向

一、有產者に對する反感

二、無產者に對する同情

三、社會の矛盾に對する不滿

(三)道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向

A、道德的、宗教的、哲學的、理想主義的、復古的、自然讃仰的、人情的の傾向

B、感傷的、享樂的、頽廢的の傾向

C、勤勉努力的、質實剛健的の傾向

結　語

總　說

全國の公私立中學校に於ける各種の出版物に掲載された生徒及び卒業生の作品は總數四〇三七七點であるが、その中の九一%(作品數三六九四五點)が生徒の作品で、九%(作品數三四三二點)が卒業生の作品である。

この中で思想傾向を有する作品は、生徒の分は一一八二二點で、生徒の作品總數の三二%であり、卒業生の分は九九五點で、卒業生の作品總數の二九%である。この生徒の作品の中五・五割は上級生の作品である。

これを表を以て示せば次の如くである。本表の上級生とは四、五年生を指す。以下倣之。

○寄稿作品總數及寄稿作品總數中思想傾向を有する作品數

	作品總數	生徒、卒業生の作品累計に對する百分率	有思想傾向作品數	作品總數に對する百分率
生徒	三六九四五(上級生作品六・八割 下級生作品三・二割)	九一%	一一八二二(上級生作品五・五割 下級生作品四・五割)	三二%
卒業生	三四三二	九%	九九五	二九%
合計	四〇三七七	一〇〇%	一二八一七	

今この思想傾向を有する作品をその內容によつて國家的思想傾向と左傾的急進的思想傾向と道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向の三つに大別し、各の數量及び比率を表示すれば次の如くである。

○思想傾向を有する作品の思想的內譯(大別)

	作品數	有思想傾向作品總數に對する百分率	作品總數に對する百分率
(一)國家的思想傾向	一六六七(上級生作品七・八割 下級生作品二・二割)	一四・一%	四・五%

生徒	(二)左傾的急進的思想傾向	二三(上級生作品九・六割)(下級生作品〇・四割)	〇・二%	〇・一%
	(三)道徳的感傷的勤勉努力的等の思想傾向	一〇一三二(上級生作品六・七割)(下級生作品三・三割)	八五・七%	二七・四%
	合計	一一八二二(上級生作品六・八割)(下級生作品三・二割)	一〇〇・〇%	三二・〇%
卒業生	(一)國家的思想傾向	一三四	一三・五%	三・九%
	(二)左傾的急進的思想傾向	五	〇・五%	〇・二%
	(三)道徳的感傷的勤勉努力的等の思想傾向	八五六	八六・〇%	二四・九%
	合計	九九五	一〇〇・〇%	二九・〇%

(一) 國家的思想傾向

生徒の作品中國家的思想傾向を有するものは總數一六六七點で、この比率は作品總數の四・五%であり、思想傾向を有する作品總數の一四・一%に當つてゐる。

これ等の作品の內容を觀るに、何れも國民の協同一致を提唱して國民的自覺を促し、或は皇統の翼賛、國體觀念の養成を力說するか、或は國力の增進、國防の充實を强調したもので、その思想や主張には確固堅實なところがある。而してこれ等をその內容によつて分類すれば大體次の三つの傾向となる。卽ち國家主義的傾向と皇室尊崇思想と軍事的傾向とである。今これ等の作品數とその比率とを示せば左の如くである。

○國家的思想傾向を有する作品の內譯

		作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
生徒	A國家主義的傾向	九六七(上級生作品七・八割)(下級生作品二・二割)	五八・〇%	八・二%
	B皇室尊崇思想	五三三(上級生作品七・〇割)(下級生作品三・〇割)	三二・〇%	四・五%
	C軍事的傾向	一六七(上級生作品七・〇割)(下級生作品三・〇割)	一〇・〇%	一・四%
	合計	一六六七(上級生作品七・八割)(下級生作品二・二割)	一〇〇・〇%	一四・一%
卒業生	A國家主義的傾向	一〇四	七七・六%	一〇・五%
	B皇室尊崇思想	三〇	二二・四%	三・〇%

生	C軍事的傾向	—	—	—
合計	一三四	一〇〇・〇%	一三・五%	

これ等の傾向の間には別に劃然たる區別があるのでなく、寧ろ一つの作品に於いてこれ等の傾向が互に錯綜相關聯しそのために却つてその主張が健實になつてゐる。たゞこゝではその最も強く現はれてゐる傾向を主にして上の如く區別したのである。これ等の思想的傾向を有する作品の特徴とする所は多くは特殊な機會を契機として現れ平素に於いては比較的その現れ方が少いといふことである。これは日本國民として斯る思想を有することは餘りにも當然なことであるから平生は潜在意識として働き、特殊な機會に於いてそれが強く現れるのであらう。

これ等の傾向中では國家主義的傾向のものが最も多い。この傾向を有するもの、內容を要約すれば、光輝ある皇國に生れたことを幸福とし、隆々たる國威を益々伸展し、祖先以來の立派な歴史を益々光輝あるものたらしめようとする抱負を述べてゐるものである。而してこの中には奈良、京都等の古都へ修學の爲めの旅行をして名だたる舊跡を訪れ祖先の偉業を偲んで獻身報國の念を高めるとか、或は又國難に殉じた偉人傑士の祭祀に際して憂國の至情を高め他日國家の難局の打開に竭さんとする志望を述べて居るものがある。又中には產業文化の隆盛はやがて國家隆盛の基であるとの見解から國富の增進を計ることが刻下の急務であると述べてゐるものや、或は又海國男兒の本領を發揮し海外に雄飛することによつて國運の發展を計らうとするものや、或は又浮華輕佻な氣風を戒めて政府の緊縮政策に贊同し、擧國一致國家の窮狀を救はねばならぬと國民の覺醒を促してゐるものなどがある。その他スポーツに勵んで抵抗力に富む强壯な肉體と堅忍不拔の精神とを有する立派な自己を築き上げ、我が日本帝國をして宇內に冠たる優勝國とすることが我等青年の義務であると述べてゐるものもあつた。殊に注目すべきは我國現代の思想問題に言及してゐるものが可成り多かつたことである。これ等は何れも將來の國家を双肩に擔ひ國家の中堅として立つべき學生間に奇矯詭激なる思想を懷いてゐる者のあることを憤慨し、彼等をして我が國民精神の精髓を知らしめてその反省を促し、日本固有の思想を旺盛ならしむると共に新日本の建設に向つて奮闘し努力するのが我等の義務であり又使命であると述べてゐるのである。

以上に述べたやうにこの傾向に屬する作品には殆ど皆祖先以來の麗しい傳統に强い愛着を感じ、我國獨自の精神に對する感激を以てこの思想的、經濟的難局に處せんとする氣概が殆んど全ての作品を通じて一貫し流れてゐるやうに見受けられる。今この代表的實例を示せば石川縣立某中學校の校友會雜誌に掲げられた四年生某の「本誌を通じて我が國家の現狀を誌友に訴ふ」と題する作品である。

（前略）此の傳統的國民精神も漸く弛緩の兆を呈し殊に歐洲大戰中我が獲たる巨億の富は國民をして奢侈放逸に流れしめ、戰後經濟事情全く一變せるにも拘らず依然此の迷夢に陶醉し（中略）然るにも拘らず、國民の物質偏重思想は其の極に達し金力の前には眼中德義無く、又社會の秩序をも敢て顧ざるの有樣なり。

加之戰後過激思想澎湃として浸潤し前述金力萬能の思想と相合して到る處に思想的經濟的衝突を生じ爲に國民精神著く弛緩し遂に國體を危うせんとする共產主義運動さへ此れを見るに到れり、此の他疑獄事件の頻發、小作爭議の續出、勞資兩階級の確執等一として國民精神の廢頽經濟的利害衝突の表徴たらざるはなきなり、斯の如く我が國は今や思想及經濟の兩方面に於て、重大なる危機に直面し此れが局面打開の根本對策確立は實に焦眉の急といふべし。

（中略）宜しく我が尊嚴なる國體觀念を養成し以て國民精神の作興に力むると共に協心努力各階級間の調和を圖り大同產業振興に精進し此の難局に善處せざるべからず。（後略）

次に皇室尊崇の思想を現したものも可成り見受けた。この種の作品は多くは聖駕奉迎之記・御親閲參加之所感・御遷宮式奉拜記・皇陵巡拜之記等の題名の下に記してゐる。これによつて見ても明かなやうに、重に特殊な機會を契機として現れてゐるのである。そしてこれ等の作品は大體二つの傾向に分けることが出來る。一つは感激から出たもので、これは下級生の作品に多く、他の一つは比較的理論的根據に基いたもので、これは上級生の作品がその大部分を占めてゐる。即ち前者は親しく至尊の御巡幸を迎へ、或は御親閲を辱うした際に御聖慮の優渥にして宏遠なのに感激恐懼し、或は又親しく御遷宮式を拜し、御陵墓に參拜し、その他皇室に於ける御儀式の有樣を洩れ承り、その莊重にして冒し難い尊嚴に打たれ、鴻業の無窮にして盛大なるに感激し、聖旨の萬分の一にも添ひ奉らんことを期し、至誠奉公以て國威の發揚に昂めようと述べてゐるのである。例へば兵庫縣立某中學校の校友會雜誌に揭げられた「聖駕奉迎の記」と題するもの、如きである。

（前略）軍樂、天地に轟く間、十二萬の劍光帽影、ひとしく感激に足を震はせ、光榮に輝く眼みはり、高鳴る胸は腦に傳つて凄絶の氣溢ぎる分列行進。吾が大君は舉手の姿勢に立たせ給ふ。情激し心おどる。泣いてい、のか。笑つてい、のか。

世は聖代、時は六月、情の若人の血燃ゆる心を君知るや知らずや。されば高調又高調の情熱に絶えかねて、奉唱團は歌ふ。吾が大君、嗚呼我が大君と。

涙だ、涙だ。唯涙だ。涙にぬれ目を擧げて邊見る時、ひとしく之れ、眼しばたゝく激情の子。折しも濺ぐ慈雨

は聖上御稜威の象徴か。罪に汚れ、惡に破れし我等の心を淨化する洗禮の水か。大聲で叫び出したいやうな雰圍氣だ。お、合圖は上る。萬歳而り萬歳、然り萬歳。天に達け地にひゞけ。世界に鳴れ。

聖上に咫天の間に接する時、其處に何の理智的根據なく有難さに涙こぼるゝのみだ。之れ吾が大君の絶對的威嚴とでも云ふべきか。日本人の本能と唱ふべきか。理窟の在る所必ず理智あり、理智ある所必ず反對がある。絶對的威嚴を以て人に迫り其處に何の理窟をも容れしめざる我が大君に接して、我等初めて國體を知る。そうして唯萬歳だ。（以下略）

次に比較的理論的根據を有する作品に於いてもその題材としては特殊な國家的事件を選んでゐることに變りはない。この作品は數量は餘り多くはないが、その內容は相當充實して居り、その信念には牢固として拔き難いものがある。例へば廣島縣立某中學校の校友會雜誌に揭載された五年生某の「國家と皇室と國民」と題するもの、如きである。

日本建國の歷史は、種々研究を要するものがある。瓊々杵尊に始つた建國事業が、爾後數世を經て、次第に進歩し、神武天皇に至り略ば其の完成を見た事は先づ以て、疑の無い所である。

即ち我が大日本帝國は、皇室の御力によつて統一され、建設されたのである。當時の日本が如何なる狀態に在つたかは殆んど想像にも及ばない。（中略）統一されて國家を成すに至つたのは天孫以後の御歷代、就中神武天皇の力である。即ち皇室の力である。故に日本は皇室があつての國家である。皇室と國家とは全然同體不離である。皇室即國家、國家即皇室である。皇室を外にして國家はない。建國の歷史は明かにこれを立證して居る。（中略）我が國體の獨り世界に冠たる所以の一つは實にこゝに在るのである。先づ皇室があつて然る後に國家があり、皇室と國家とは同體不離の關係に於て存する事に在るのである。

皇室と國家と同體不離の日本では、忠君と愛國とがやはり同一觀念に屬する。

日本人が忠義に厚いのは一つは國體の然らしむる所である。皇室即國家、國家即皇室、從つて忠君即愛國、愛國即忠義——這般の國體が強く國民の忠義心を激勵する事は理の見易い所である。（中略）

從つて我々日本人全體は或は直接に、或は間接に皇室と血族關係を有し、盡く皇室の末流である。皇室を宗家とすれば國民は分家である。その關係、義は君臣といふと雖も、親は即ち父子である。日本人はすべて皇室の赤子である。

罪あらばわれをとがめよ天つ神
民はわが身のうめる子なれば

と仰せられたのは實にこの事と拜察する。

果して然らば皇室を外にして國民はないのである、皇室即國家であると同時に又皇室即國民である。

以上の如くこの傾向を有するものは何れも皇統連綿として萬世に輝く我が皇室を仰ぎ君民一體の日本民族たる誇りに浸りこの中外に冠絶せる我が帝國をいやが上にも益々發展させんとしてゐるのである。

次に又國防軍備に關する作品について觀るに、これ等は國家的思想傾向を有する他の作品と同じく、特殊の機會例へば軍事記念日・大演習・兵營見學・學校教練・野外演習等を契機として現れてゐる。その主旨とする所は軍備によつて國家生活の基礎國力の充實を圖り國威を海外に示さうとするもので、その殆んど全てが近代の世界的平和を所謂武裝的平和であるとなし、この意味に於いて眞の平和は軍備の充實を俟つて始めて招來すべきものであり、國威の發揚、國民生活の安寧福祉も結局これを外にしては得られぬものたることを述べてゐる。今一例を擧げれば岡山縣立某學校の校友會雜誌に掲載されてゐる四年生某の「軍國主義と平和主義」と題するもの、如き記事である。

（前略）大戰後の世界の輿論は此の軍備撤廢論に依つて風靡せられた。其の間種々の矛盾を挾みながらも幾度か平和は提唱された。又、軍備縮少案は色々の名に於て現はれ始めた。然し眞理の力は何處までも強い。畢竟それは軍備は永久に廢せられるものでないといふことを世人の頭により強く印象付けたに過ぎなかつた。

平和は遂に武裝の平和であつた。今一國として軍備を有せずとせんか、膺懲の師は何處に擧ぐべきか、社會の秩序は如何にして保たれ得べきか、今國家に四方賊起らば、身に寸鐵を帶びない國家は何に依つて此の亂を鎭壓することが出來よう、かくて社會は常に叛亂の巷である。（中略）

此の軍備撤廢の聲は血迷うた歐米人の痴言であつた。目前にあの如何に戰禍の恐るべきかを見せつけられた彼等は、直ちに軍備の充實せる國家を目して軍國主義なりと斷じた。然し戰爭は容易に消滅するものではない。

平和は素より望ましい。恐らく人類である限り、何人も此事は否定し得ない。然し軍國主義と平和主義とは必ずしも相容れぬものでなく、武裝で平和が保たれて居る事を思へば、吾人は軍備の必要を聲を大にして叫びたい。（以下略）

中には又歐洲大戰に敗北せる諸國が悲慘なる狀態に陷つたのは戰前に於いて軍備の擴張を怠り、これの微弱なのを誇りとして居た爲だとし、國防軍備を閑却したる結果は實に收拾すべからざる事態を惹起することを述べ、軍備と國防との必要を强調してゐるものもあつた。斯の如くこの部の作品は何れも祖國愛の熱情から國防軍備の充實を高唱してゐるのであつて、決して武力萬能や侵略主義を主張してゐるものではない。この他國防軍備に關する作品に現れた傾向中注意すべき事は、國防の完備を期するためには國家資源を潤澤にせねばならぬと論じたのや、又軍備が國際的

に制限されてゐるから學校に於ける教練を徹底し國家有事の際には學生を動員せしむる必要ありと說いたものなどもあつた。

尙その他には學校教練雜感、兵營見學之記等の題下に、軍人精神、軍隊生活或は軍事教練等を尊重し、これをば自己の精神的若しくは肉體的訓練の重要な手段となし、これによつて自己を十分に修養しようとして居るものを相當見受けた。これ等は思想傾向としては、道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想的傾向の部類に屬すべきものであるが、軍事的事項を題材としてゐる故にこゝに特に述べたのである。

卒業生の作品に就いて

卒業生の作品で、この思想傾向を有するものは總數一三四點で、その比率は作品總數の三・九%、思想傾向を有する作品總數の一三・五%に當つてゐる。

此等の作者は何れも皇統連綿たる我國體に對する無上の矜持と善美な我が國民性に對する愛慕とからして國體觀念の闡明と國民的自覺の必要を說いてゐる。例へば東京府私立某中學校の同窓會雜誌に揭げられてゐる「愛國の精神」と題するもの、如きはその一つである。

數千年の滔々たる時代の潮流に押し流されず、全世界の人心を支配してゐるものは果して何物でありませうか。これは言ふ迄もなく愛國の大精神であります。數ふるに足らぬ極めて少數の例外はあるに致しましても、世界を動かす原動力はこの愛國の精神であると吾人は深く信ずる者であります。愛國の觀念あつてこそ今日迄の世界は變化され、戰爭も平和も元よりこの觀念より來つた事を吾人は否定する事が出來ません。こゝに於きましてこの愛國の精神こそ世界根本共通の一大思想である事を斷言する事が出來るのであります。併しながらこの精神

は世界各國に於いて人種的物質的及び思潮的にも其の高低は當然あるべき筈であり、現在この强弱が事實上存在することは疑ふべき餘地がありません。然らば世界の文明の中にあつて、特に其の水平線を突破して愛國の精神を標傍して立つ國民は、果して何れの國民でありませうか。これは申す迄もなく、我が日本國民であります。(中略)

併しながらこゝに諒解を求めたい事は、この愛國の精神が流行的な所謂帝國主義と日を同じうして論ずべき性質のものでないと言ふことであります。即ち愛國の精神は、只シーザー・ルビコンの故事、ジャンヌ・ダルクの悲壯事の如く眞に國家を想ひ、國家を愛するの至誠熱血よりの赤心を言ふのでありまして、決して他國に見るが如き浸略的利己主義を意味しないと思ふのであります。(中略)まして西歐の過激主義をそのまゝに我が國體に適用せんとする無謀なる輩、或は虛榮なる流行的マルクス學徒に對しては我々は國民の安寧、幸福の上より飽くまでも愛國の大精神をひつさげて彼等の邪非を正し、而して我が帝國の表徵なる日章旗に一點の汚點をも記さしめず、以て國民たるの本分を盡す義務を深く感ずるのであります。

再び吾人は衷心より斯く叫ぶ。我が愛國の精神の一奔流は神武聖帝創業の當初より世界に超然として日本國民の心底深く流れ、建國三千年の間瞬時も涸れる事なく今日に至つたものであります。故に我が國民に大和魂の失せざる限り、武士道のすたれざる限り、この愛國の觀念は永劫不滅に、燦然として輝く太陽と共に發展せんとする大和民族の一大原動力となり、我が大日本帝國を護つて行く大なる力と信ずるものであります。(以下略)

又思想問題に鑑みて皇室中心、國家本位の思想を高唱してゐるものも可成り多く見受けた。これ等は何れも左傾思想の誤謬を指摘し我が國家の特殊性を强調し、又最近世界の各國に現れてゐる民族運動、愛國運動の實狀を述べて、

愛國の精神の貴重な所以を明かにし、近時の左傾思想をば直譯的思想運動だとしてこれを排擊してゐる。

例一、石川縣立某中學校の校友會雜誌に載せられた「思ひ出るまゝに」と題する記事の一節、

將來の人間はもつと海外の事情に通じなければならないと思ひます。世界が如何に動きつゝあるかと云ふ事を知れば蝸牛角上に爭ふ心配もなくなれば、歐米で十年前に流行した試驗濟の思想を口新しく述べたてる必要もなくなつてしまふと思ひます。そして世界の何處を眺めてもネーション卽民族的運動が如何に熾烈に起りつゝあるかといふ事に着目して新く日本人の日本といふ事に氣がつくであらうと存じます。政治家も學者も官吏も勞働者も總てが玆に着目しなかつたならば、日本は到底將來英米に對抗してゆけなくなるであらうと思ふのであります。

例二、東京府立某中學校の同窓會雜誌に揭げられてゐる「思想問題を論ず」と題するもの、

(前略)現代の人の多くが或は右し、或は左するのは何によるのであるか。盲目的信仰による右傾主義の頑迷なる者は姑く措いて、左傾主義のものについて考察するに、少くとも彼等が科學に囚はれ過ぎてゐることを認めずには居られない。科學に囚はれてゐるとは、取りも直さず、兎角、科學の形式を以て說かれてあるものでさへあれば、之を無批判に受取つて、自己の體驗上から看直して見るといふことを全然忘れてゐるといふことである。元來、如何なる時處にも制約されないで、總ての時處に之を施して謬らないといふ如き絕體の眞理なるものは、初めから不可說のものであつて、唯其の人の體驗生活の上に自然に體得されなければならないものである。故に科學上の說明に見る如き、說明し得らるゝ形に於て說明せられてゐるものは皆悉く時處に制約されたる相對的の說明たる事を免れないものである。從つて、斯る相對的說明に依つて說明されてゐるものは、其の說明が與へら

れたる時處限りに於ては、これを眞理として見得られないことはないが、一度その時と處とを換へて眺められた場合には最早、其の儘に眞理として見ることが出來ないものである。されば相對的の說明の眞意を正當に理解せんとするには、其の說明を無批判に受取つてはならないのである。(中略)然るに現代人の多くは、自分の住んでゐるこの日本を自分の眼を以て見ることを忘れてゐる。而して、唯の一日も日本の土地に生活した經驗なく、歷史を異にし民族性を異にする國に育つた「マルクス」や「レーニン」の眼を借りて、この日本を律せんとしてゐるのである。爰に左傾主義といふ如きこの社會に實際に生きて來た經驗を持つた人間からは非常にかけ離れた社會觀が其處に生れて來らざるを得ないのである。(以下略)

この國家的思想は卒業生の場合に於いても亦國家主義的傾向と、皇室尊崇思想との二つになつて現れてゐる。その割合は國家主義的のもの一〇四點で約七・八割、皇室尊崇思想のもの三十點で約二・二割である。而してこの二つの傾向は互に交叉してゐてその限界が生徒の場合より一層不分明である。要するに皇室を中心とする國家主義思想ともいふべきもので、如何なる場合にも皇室なる觀念を離れて我が國家の存在を認めないのである。

今この種の思想傾向を有する卒業生の作品と生徒の作品とを比較して見るに、これ等は二つの點に於いて異つてゐる。第一はその思想の現れる動機である。生徒の場合は前述の如く多くは特殊の機會を契機としてゐるに反し、卒業生の場合には殆んど大部分が平素に於ける見解を述べてゐることである。これは彼等が社會の實際生活によつて皇室及び國家に對する信念も確實性を帶びてゐるため、それが自然平素に於いても現れるのであらう。第二はその思想が生徒のものに比して頗る現實性を帶びてゐることである。卒業生の多くは現在の社會狀態に飽き足らずとなし、或る者は「靜かに現代の社會狀態を洞察すれば、近時教育は形式に墮し、宗教は生命を失ひ、政事は私黨に起り、經濟は

財閥に壟斷せられ、人心漸く危く、道心將に衰へ、不測の災禍を招くあらんとしてゐます」といつた風に綱紀の頽廢せる事實を摘發し、その革新を要望して國民精神の振興、國體觀念の闡明を力說してゐるのである。これも亦卒業生が實社會に於ける自己の生活に立脚して國家の現狀を眺め、その將來を慮る所から出た見解だと見られよう。次にこの種の適例として東京府立某中學校の同窓會雜誌に揭げられた「轉換期の日本と我等の使命」と題するものを揭げてみよう。

（前略）現代は從來の國民の規範であつた、觀念形態と、現實生活との間に大いなる矛盾をはらんでゐるからだ。觀念形態が取り殘され、現實社會そのものは別個の物態を示してゐるのである。例へば、忠義といふ道德觀念と、明日の生活にも困る人間がうよ〳〵してゐる現實とは一體どう解釋したらよいのであるか、思想善導があまり効果のあがらないのも當然である。さうして一方にはかゝる狀態のもとに、直譯的な社會科學の運動が猛烈に開始せられて行きつゝある。然もこれに對抗してゐる運動はと見れば、これは又あまりに非現實的な觀念論者であるのに驚かざるを得ない。一體、思想とはどりもなほさず、從來の日本主義が新興科學の理論に敗れたといふ敗戰の凶報に他ならなかつたのだ。

日本の苦しみは愈々深刻化して行くにも拘らず、一國を料理するところの政治はどうだ、黨のため利權のための政治はあつても、國家のための政治は存在しない。かゝる統制の下にある、經濟、教育、文藝が如何なる狀態にあるか、これはまた、いふ必要はあるまい。かうして社會に不平が漲り、國體破壞の運動は潛行的に深まつて行く、國體破壞はひとり社會主義のみに限られたことではない。今日のブルジョア政治家こそ實に非國家的、寄生蟲ではないか。此の危險に曝らされた、轉換期の日本を背負つて立つ△中の國士の任務こそ重大である。いやしくも建國の精神をもつて巢立つた我々は、今やこの重大なる秋にあたつて我々のとるべき役割の如何なるかをはつきりと知らねばならない。

少くとも△中精神即ち建國精神、建國精神即國體精神である以上、吾人は誰よりも先に、國體に對する明確なる認識を把握して居るべきだ。〇〇校長のいはれる大家族主義、換言すれば、天皇を中心とする共存共榮の社會組織、それこそ、我等の實現せねばならぬ國體でなければならない。マルキシズムは資本主義の排擊と共に國體を破壞し天皇を否定する。然しながら國體は資本主義の專有物でもなく、また天皇は資本家の巨頭でもないのだ。否あつてはならない筈だ。此の意味に於いて、現代の社會も又、非國體的現實を示してゐる。吾人は總てのことに進む前にまづこの理由を明確に把握してかゝらなければならない。國體といへば左翼の陣營から資本主義の御用哲學にして嘲笑されるのは今迄の國體論者があまり御目出度過ぎたからだ。注意すべきは盲目的右傾的であつてはならないことである。（中略）科學といふ以上その理論は事實から歸納されたものでなければならない。勿論科學の法則は共通であらうが、其の中には特殊妥當性を有するものがあることを知らねばならぬ。殊に社會科學に於いては猶更である。日本には日本の特殊な狀態があることを無視して、徒らに階級鬪爭にのみ終始してゐるのは餘りに直譯的といはねばならない。（以下略）

(二) 左傾的急進的思想傾向

生徒の作品で左傾的急進的思想傾向を帶びたと思はれるものが二十三點あつた。この比率は作品總數の〇・〇六%思想傾向を有する作品總數の〇・二である。この中九・六割は上級生の筆になり、〇・四割は下級生の筆になつたものである。

次に卒業生の寄稿中に於けるこの種の作品は總數五點で、この比率は卒業生の作品總數の〇・一五%、思想傾向を有する作品總數の〇・五%に當つて居る。

而してこれ等の作品をマルクス主義的思想傾向を有するものと、その他の急進的思想傾向を有するものとに大別してその比率を擧ぐれば次の如くである。

〇左傾的急進的思想傾向を有する作品の內譯

		作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
生徒	A マルクス主義的傾向	四(上級生作品一〇・〇割 下級生作品)	一七・三九%	〇・〇四%
	B その他の急進的傾向	一九(上級生作品九・五割 下級生作品〇・五割)	八二・六一%	〇・一六%
	合計	二三(上級生作品九・六割 下級生作品〇・四割)	一〇〇・〇〇%	〇・二〇%
卒業生	A マルクス主義的傾向	三	六〇・〇〇%	〇・三〇%
	B その他の急進的傾向	二	四〇・〇〇%	〇・二〇%
	合計	五	一〇〇・〇〇%	〇・五〇%

A マルクス主義的傾向

マルクス主義的思想の現れと認められる作品は四點あつた。この中の二點は論文で、一は文學に關し、他は廣く文藝に關してマルクス主義的立脚地から述べたものである。前者は北海道私立某中學校發行の學友會雜誌に載せられた五年生某の「プロレタリア文學題材其の他について」と題するもので、これは所謂プロレタリア文學に對して多大の關心を持ちこれを激賞する立場から、題材の撰擇を論點として從來の取材傾向に重大なる缺點ありとし、題材の範圍をプロレタリアの生活の全面にまで及ぼすべきであると述べたものである。その內容を詳しく述べるならば、先づブルジョア文學の失墜に伴ふプロレタリア文學擡頭の必然的社會情勢を說き、次に最近のプロレタリア文學に於いて取扱はれる題材はとかく政治的若しくは經濟的鬪爭の方面のみに限られてゐることを指摘して、それが偏見誤謬であることを力說し、その取材の範圍は須く生活の全面に擴大さるべきであると論じ、更に又プロ文學の表現法、プロ作家の資格、プロ文學のブル文學に對する態度、プロ文學作品の藝術的價値等にも論及してゐる。以上の論述中勞農ロシア前敎育人民委員長ルナチャールスキイ又はレレーキッチ、ポリヤースキー、靑野秀吉等の言辭を引用し以てプロレタリア文學の發展の手段と進路とを示してゐるのである。(附錄第一參照)

後者はやはり同誌に揭載されてゐる五年生某の「文學の貧困と貧困の文藝」と題する記事で、その思想的根據は前者と同樣プロレタリア意識に賴つたものである。卽ち冒頭に於いてマルクスの著「經濟學批判」の序文にある唯物史觀の基本命題を揭げ、その眞理性を說いて自己の思想的見地を述べ、次いで我國の文化の發生並に發展過程が極めて不自然的であると論じ、其處に包藏されてゐる幾多の矛盾、誤謬を訂正すべきであると述べ、續いて我國の文藝を惠ま

れた生活に立脚した所謂ブルジョア的のものと惠まれざる生活に立脚した所謂プロレタリア的のものとに區別し、前者は生活と直接交渉を有しない必然的結果として早晩破産すべき運命に在りと論じてこれを排除し、後者はこれに反して瀕測とした新しい命を持つたものとして賞揚してゐるのである。この論文に於いてもプレハーノフの言を引用してゐる。（附錄第二參照）

以上二つの論文の持つ思想はマルキシズムにその根據をおいて居るやうに思はれる。而してその論述の態度を觀るに單に好奇心や衒氣からこの思想に觸れたものではなく、その論旨、筆致からするも、文章中に左翼に屬する知名の人物、例へばルナチャールスキイ、プレハノフ等の言辭を引用してゐる點からするも斯る方面には相當の研究を積み、この思想に相當深い理解を有つてゐることが窺はれるのである。

次に創作として現れてゐるものは兵庫縣立某中學校の學友會雜誌に連載されてゐる四年某の「貧苦」と題するものである。これは元某造船所に勤務して居た行商人の生活を題材としたもので、その筋は日常生活と苦鬪しつゝある或る行商人が偶々その商ひの途上で掏摸が捕縛されたのを目擊し掏摸の窮乏せる境遇に同情の餘り被害者たる富豪紳士に反感を懷いた心狀を述べ、次には彼の居住して居る貧民窟に於ける貧民の悲慘な生活狀態を極めて露骨に描いてゐるものである。今次にこの記述中に於ける注目す可き箇所を摘錄して見るなら

彼は一日中汗まみれになつて、仕事の奴隷の樣に働いてゐる自分を顧みた。彼は世の中が斜に見えた。汗にまみれて仕事に喘ぐ勞働者達が、最も惠まれず、机上で欠伸を連發してゐる、所謂サラリーマンは惠まれる。神の戯れか。世の矛盾は正に之だと彼は思つた。

ブルジョア達の遊戯的な「情け」に、まんまと今までたぶらかされてゐたことに目醒めた。プロレタリヤの大衆は「正當なる權利」を主張しはじめた。

働いても働いても貧乏は直ぐに追ひ越して行つた。けれども彼には何うする力も備つてゐない。唯追はれる許りだつた。又かうして一生貧苦を甜めるのが、彼の運命かも知れない。

俺達は毎日毎日、以前はK造船所の中で働いてゐた。鐵粉が灰の樣に煽り立てられて、流るゝ汗もあく汁の樣であつた。そんなにしてゐて時には朝から、空の辨當箱をブラ下げて何食はぬ顏で工場へ行つた。しかし俺達がかくも一心に働き通して一體、誰がその金を得るのだ。餘りにも粗末な扱ひ方だ。彼奴等はしぼり取つてゐるのだ。俺達に與ふ可き分の幾らかを。故に彼奴等はもつと俺達に手當てを多くすることは當然ではあるまいか。必然だ。それは、彼奴等が餘分に取つたものを持つてゐるなれば、それを要求するのは之又當然だ。さうすると、先程の青年（註、掏摸を指す）は當然のものを要求してゐるに過ぎない。しかしかの青年の要求方法は法律によつて罪とされてゐるのである。貰ふべきものを要求して豚小屋にブチ込まれる。馬鹿を見るのは俺達ばかりだ。

さうだ。俺達は本當に弱いよ。弱い〳〵人間だ。先程の若いのも俺達の犧牲者だよ。俺等は日一日と少くなつて行くのならばよい。しかし日一日とその數を增す。俺等は勝たねばならない。一日も早く。

以上に依つて觀てもほゞその意圖を推察することは出來るが、全文を通讀すると表面的には有産者の横暴、無産者の窮狀を描寫してゐるだけのやうにもみえる。然しその作中の人物をして「プロレタリアの大衆は正當なる權利を主

張しはじめた」とか「彼奴等はしぼりとつてゐるのだ。俺達に與ふべき分の幾らかを」又は「俺達は日一日と少くなつて行くのならばよい。しかし日一日とその數を增す。俺等は勝たねばならない。一日も早く」と言はしめてゐる。これ等の句によつてみるとこの作品は現社會制度の矛盾、缺陷を指摘するに當りマルクス主義的見地をとつてゐるやうに見られ、又この矛盾、缺陷の解決を無產者階級の擡頭に期待してゐるものと觀られる。

以上の外にマルクス主義的傾向を有する作品は詩の形で現れてゐる。その內容は所謂プロレタリアートの威力が驅ては全世界を風靡する時代の來ることを仄かしてゐるのである。それは岡山縣立某中學校の學友會雜誌に揭載された四年某の筆になる「工場の煙」と題するものである。

大工場の煙突から濛々と吐出されてゐる
あの、どす黑い煙は
猛火の精だ。あらゆるものを燒きつくす
猛火の烈しい呼氣だ。
僕はその煙がたまらなく好きだ。
それは勞働者の體を流れる熱い油の蒸發だ。
それは地球を併呑するやうな
次から次へ、むく〳〵と無理に吐出されてゐる煙を見れば
僕等の肉は躍る。僕等の胸は波打つ。
猛火の威力だ。威力其のものだ。

限りなく吐出されてゐる工場の煙は意味ありげに憤怒其のものゝ如く、そして悠々と
世界の天地に廣がつて行く。

尙この外にマルクス主義を殆んど理解せずに唯物辯證法を述べて見たり又マルクス經濟學批判中の一句を引いて見たり、或はマルクスや社會主義者等の用ひる言葉をそのまゝ用ひたりするもの等である。今その重なる用語を擧げて見れば

○「正」「反」「合」——均衡狀態より破壞へ、そして均衡狀態への回復
○人間は自分で解決可能な問題のみを問題とする
○人類社會の歷史は階級鬪爭の歷史なり
○レーニズム
○唯物史觀
○上層建築
○ブル、ブルヂョア、ブルヂョアジー
○ブルヂョア的欺瞞
○支配階級
○プロ、プロレタリア、プロレタリアート
○プロレタリア大衆
○プロレタリアイデオロボー

○ブルヂョア文藝
○プロレタリア文藝
○ブルヂョア文化
○インテリ、インテリゲンチヤ
○スローガン
○時代意識の尖端を把握する

等である。

次にマルクス主義的思想に對する一般生徒の態度を觀るに、大部分これに對して嫌惡の念を抱いてゐるやうである が、その態度は消極的で殆んど無關心なやうである。しかし少數の者特に上級生の一部の者の中にはこの思想に對し て相當の注意を拂ひ可成り積極的な批判的又は反駁的態度を現してゐるものもあつた。それ等のもの、論難の標的と する所は大體これを次の三點にあるものと見られる。一、我國家の特殊性の無視　二、外來思想の吟味咀嚼を忘れた飜譯的模倣　三、近來社會の惡風潮――刻苦精勵せずして安易を求めんとするの傾向。而してこれ等の多くは直接マ ルキシズムを論難せずに、或る問題に就いて叙べた序でに一般の急進的思想に攻擊を加へ、進んでマルクス主義の反 駁にも言及してゐるのである。

卒業生の作品に就いて

卒業生の作品中にマルクス主義的傾向の現れてゐるものを三點見受けた。その一つは長野縣立某中學校の學友會雜 誌に掲載されてゐる「舞踏の樣相」と題するもので、これはマルクス主義的な日本資本主義の崩壞について述べたも

のである。(附錄第三參照)

その二は大阪府立某中學校の校友會雜誌に掲載された「文壇展望」と題するもので、これは我國明治以後の文學思 潮の變遷を略述し過去の文學は生命無き玩具の如き所謂ブルヂョア文學であると罵つてその缺點を擧げ、聽てかゝる ものは生活の實際に則した新興のプロレタリア文學に征服されてしまふであらうと述べてゐる。

以上の作品はその立脚地をマルキシズムに置いて居るが如くに思はれる。而してその論述の態度も可成り煽動的で 讀者を特に誘導せんとする意圖が窺はれる。

この外に單純な衒氣から左傾的辭句を用ひて居るものも時々見受けた。例へば山口縣立某中學校の校友會雜誌に掲 載されてゐる「武藏野雜草」と題する記事の中に在る

Kは私達たちの仲間では一等よくプロレタリアイデオロギーを把握してゐる。私は何時もそれを羨しく想ふ。 私の心はあまりにブチブル的である。ブルジョアイデイオロギーから完全に離脱することは私には難しい。脱し ようと意識してもそれにブルジョア意識の頭を擡げつゝあるのを認識せざるを得ないのだ。

の如きものである。この「武藏野雜草」は單なる隨筆で、その全文を讀めば別に不穩なものではないが筆者の衒氣か ら特にかゝる用語を用ひたのである。

次に寄稿せる多數の卒業生のマルクス主義的思想に對する態度は、生徒の場合と同樣で矢張り憎惡の念を有つてゐ ることが看取される。而して斯る作品の個々に就いて觀れば、生徒の作品よりも積極的な態度を示してゐるが、しか し何れも生徒の場合と同樣に何等かの機會に於いて嫌惡の念を現してゐるものであつて、マルキシズムを直接の目標 として批判し攻擊してゐるものではない。

B　その他の急進的思想傾向

この傾向を有するものは前述のマルクス主義的傾向のものよりも可成多く、總數十九點を見出した。

これ等の作品の中で比較的強く現れてゐる傾向によつてこれを大體三種に分つことが出來る。卽ち一、有產者に對する反感　二、無產者に對する同情　三、社會の矛盾に對する不滿である。今これを表で示せば次の如くである。

○その他の急進的思想傾向を有する作品の內譯

		作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
生徒	一、有產者に對する反感	二（上級生作品一〇・〇割　下級生作品）	一一%	〇・〇二%
	二、無產者に對する同情	五（上級生作品八・〇割　下級生作品二・〇割）	二六%	〇・〇四%
	三、社會の矛盾に對する不滿	一二（上級生作品一〇・〇割　下級生作品）	六三%	〇・一〇%
	合計	一九（上級生作品九・五割　下級生作品〇・五割）	一〇〇%	〇・一六%
卒業生	一、有產者に對する反感	—	—	—
	二、無產者に對する同情	—	—	—
	三、社會の矛盾に對する不滿	一	五〇%	〇・一〇%
	四、其の他の傾向	一	五〇%	〇・一〇%
	合計	二	一〇〇%	〇・二〇%

これ等の作品は、筆者が現代の貧富の懸隔の甚しい樣や、又最近に於ける財界の不況、これに伴ふ生活難等の種々なる悲慘な社會事象を目擊し、これに對して憤激、同情、不滿等の念を起し、これに加ふるに現代の社會思想の影響を受けて、唯譯もなく社會の不合理を嘆き、徒らに無產者に對して同情の念を高め、有產者に對して反感を抱いたものである。しかし中には反抗のために反抗してゐるやうな作品も見受けた。かやうにこれ等の作品は現代の社會事象に對する不滿の念の現れと見ることが出來るが、その社會に對する觀方が偏頗で正鵠を失し、その用語、論調にも穩當を缺いてゐる點が見受けられる。

一　有產者に對する反感

この傾向の現れた作品は「その他の急進的思想傾向」を有する作品中最も少く、僅か二點であつた。その比率は「その他の急進的思想傾向」を有する作品總數の約一割に當り、何れも上級生の筆になつたものである。

この中の一點は貧民と富豪との生活を比較してその懸隔の甚しいところから、密かに有產者に對する反感の念をたかめて居るので、その思想傾向は單純である。しかし他の一點は反抗意識相當强くして、積極的に反抗せんとする傾向が多分に認められる。卽ちそれは岡山縣私立某中學校の學友會雜誌に揭載された四年生某の「おれの立志」と題するものである。

おれの家はプロレタリアだ。日本語で云へば無產階級だ。もつと分り易く云へば貧乏人だ。だから九尺二間、四疊半一間の裏長屋にすんでゐる。ところが高い煉瓦の塀をへだてて立派な家が建つてゐる。ブルドックの樣な主人が毎日自動車で會社に出かけるので、おれはよく泥をはねかけられて憤慨した。然しそれより尙憤慨したの

は、あの御殿の様な二階からおれの長屋を見下して、おれがお芋を飯のかはりに食つてゐると子供が笑つてゐやがることだ。おれは大いに立志憤慨して、今に見ろ、おれがあべこべにお前達を見下ろしてやるぞと、いろ〳〵工夫したが、無産階級の悲しさは大學に入學する學資金はない。夕刊賣をして苦學をするのも氣がきかない。さうだ、さうだうまいことを思ひ附いた。煙突掃除になることだ。そこでおれは早速大工場の煙突掃除人に志願して、毎日高さ百尺の大煙突の上から、恨重る成金の邸を見下してゐるのだ。

「おい成金さん、お前の處よりこゝの方がずつと涼しいんだよ。」

二　無産者に對する同情

こゝにいふ無産者とは必ずしも資産の乏しい者だけを指さず、地位低く身分の卑しい者はすべてこれを括めてゐるのである。

この傾向の現れた作品は五點で、その他の急進的思想傾向を有する作品中の二・六割に當り、この中四點は上級生、一點は下級生の筆になつたものであつた。

これ等の作品の內容を觀るに、多くは無產者の悲慘な生活の實狀を認め、これをば社會制度の缺陷だとして彼等に同情を表してゐるのである。卽ち有產者や又上流階級の人々の生活をば無產者のそれと比較しその甚しい懸隔に對して幾分か憤慨し、引いてはこれを社會組織の不合理に在りと呪ひの口吻を洩すといつたやうな傾向が現れてゐるのである。尙又主義者の慣用語も處々に散見する。左にこの思想傾向を有する作品の實例を二三擧げて見よう。

例一、 兵庫縣私立某中學校の學友會雜誌に揭載されてゐる四年生某の「感想二つ」と題するものゝ一節、

多くの人埃から逃れてやつと三越の屋上へ出て來た。初夏の太陽は心よく彼等の皮膚を汗ばまして居た。

山……綠！　空……靑！　雲……白!!　英三は「おゝ吾等の太陽よ！」と叫びたくなるほど愉快になつて來た。元町は美しいが裏の方はいやにごみごみしてゐな」さういつたSの言葉に英三はふと我に歸つた。「それが人間そのものゝ姿なのさ」と對へたかつたがそれも邪魔くさくなつて口を結んだ。

ブルヂヨアの後ろには多くのプロレタリアが働いて居る。……華やかなものゝ裏にはかならずより多大な悲慘なものがある。……

こんな事を思ふと英三はそこいらの椅子に腰かけて涼しい顏をして居る貴婦人達と一緒に自分自身をまで毆り倒してやりたい樣な氣がした。

「ふん……鼠の屍を穢いと云つてほつとけばかならず蛆が涌くものだ!!」

例二、 新潟縣立某中學校の學友會雜誌に載せられた三年某の「捨石と橋」と題する記事の一節、

一將功成つて萬骨枯ると云ふ事が有る。

それは一人の大將が盛んな軍功をたてるには、その部下はどのくらゐ裏面に働いてゐることか。そして世にみとめられずに死んで行くのだ。丁度橋が石の助けと云ふ事を知らずに自分一人での力と思つた如くあるひは大將の內にも自分一人の力と思つてゐるものが有るかも知れない。その思想が延いて階級問題となるのだ。富豪と小作者、資本家と勞働者……皆それである。

富豪は自分一人でこの財産を作つたものと思つてゐるとして、小作者の血と涙の働を無視してゐるのだ。資本家と勞働者の關係も同樣である。……

例三、北海道某中學校の校友會雜誌に載せられた四年生某の「鍛冶屋」と題するもの、

ブルヂョア達が避暑だとか何だとかいつて
涼しい海邊や山の中に逃げ出してゐる
あの炎天の眞夏に
あの幽暗な家の中に
大きなハンマーを手に
鐵を唯一の仲間として
油にゝじんだ作業服をまとひ
眞黑な玉の樣な汗を落して
呼吸器を惡くしながら
眞黑になつて働いてゐる

頭や腹が痛いと思ひながらも
その日の生活難が身にせまり
立てなくなるまで

朝日の出るから沈むまで
その疲れきつた體に鞭うちながら
眞黑になつて働いてゐる

おゝ俺達は現在はこんなにみじめなのだ
煩悶にもがいてゐる
俺達は餘りにも野蠻だ
俺達は餘りにも無智だ
然し今にきつと良い日が來るだろう
働け額を汗にして
夏は俺達のものだ
眞黑になつて働け
そして俺達は相いだいて
赤裸の太陽にをどるのだ

これ等について觀るも明かな如く、有產者と無產者との生活の懸隔を擧げ、富豪の生活に反感を持ち更には社會制度に疑問を懷いてゐるところがある。

三　社會の矛盾に對する不滿

この傾向は「その他の急進的思想傾向」の中最も多數を占め、何れも上級生の筆になつたもので、その總數は十二點であつた。この比率は「その他の急進的思想傾向」を有する作品の六・三割に當つてゐる。

この傾向は論文、詩歌、創作、戯曲等樣々の形に於いて現れてゐる。その題材として取扱はれてゐるものは主として現代社會に於ける不遇な人々であり、その述ぶるところは彼等の生活の窮狀を擧げてその原因を優越者の横暴又は社會制度の矛盾缺陷に在りとし、その述べ方に可成激越な口調を用ひてゐるものや、又不穩なる改革手段をほのめかしてゐるものもある。今この思想傾向を有する作品の實例を論文、詩、創作、戯曲等に分つて順次列擧してみよう。

先づ論文について觀るに、

例一、京都府立某中學校の學友會雜誌に載せられた五年生某の「世界革命」と題する記事の一節、

働けど働けど社會的に惠まれない我々には富人一人が一夜に數千金の榮華に耽つてゐる時我々の家族は數十金の金に窮して身を寒天の空にさらすのだ。おゝ、矛盾なる現實の悲哀よ！法は强大なる者のみの守護であり裁てある。我々のためには寧ろ冷かな城門である。おゝ我々は飢えてゐる。盜らうか！盜らば法の裁に掛られる！盜らねば飢の大網に苦しむのだ！我々は果して何しに現世に生れたのだ。

例二、岡山縣私立某中學夜の學友會雜誌に載せられた五年生某の「SN貧民窟を訪ねて」と題する記事の一節、

……と毎時も貧乏人同志が話し合ふ調子で附け加へた。さうだ。今の總ての掟は貧乏人のために儲けられて居らんからねえ！　婆さんに禮をして私は奥の方へと足を向けた。丁度その頃は八時であつた。小學生は群になつて元氣よく黑い鞄をかつぎ草履をはいてやつてきた。彼等の目は鋭く光つてゐた。が如何にも暖味が彼等の間には充ちて居た。私は嘗てこの如き人間に有る可き暖味を、毛布で包まれ物質に惠まれて養はれた金持ちの小供には發見したことはない。「おい今日も山へ行つて青大將を退治しようぢやないか？皆で行つたら何も恐しいことがないよ。」「さうだ皆で力を合せてやつたら何んでも出來るからな」と一人が力づよく大きな聲で云ふ。その聲は私の耳を餘計にひびかした。お！早く大きくなつて現在ある矛盾を解決し不合理な法をよりよき合理的なものに改めてくれよ、君等はこれをなすにその力は有り餘る。さうして一時も早く人間たる生活を送つて行かう！

例三、大阪府立某中學校の校友會雜誌に懸賞當選作品として掲載されてゐる五年生某の「學窓より現代世相を觀る」と題する論文の一節、

然し乍らこの學窓より社會といふ未知の世界を、覗いて見ればあきれ果てたる矛盾で充滿して居る。世の中の人は豚の樣な成上りを捕へて成功者〳〵と煽てゝゐる。君子人の如く尊崇して居る人が下らない金持にペコペコ頭を下げる。大臣や元老といふ人は月給がされなくなつても立派な暮しをして居られる。如何に經濟學の原則を尋ねてもこれを明にするに足る丈の充分な說明はないやうである。それ許りではない、大名の子供は生れ乍らにして大名、金持の子は大腦の代りに砂利の這入つてゐる頭をもつて重役風を吹かす。文化が進めば進む程皮肉にも金持と貧乏との相違は益々甚しく而も貧乏人の方が遙かに大多數に上る。これを云々する社會主義者といふものは毒蛇の如く迫害せられて遂に往生をとげた。併し乍らもつともつと惡人らしい者が天下には大手を振つて歩いて居る。吾々は徒らに社會主義を謳歌するものではない。然れども斯くの如き現象は確に不可解の一つである。

斯くの如き矛盾、背理を目の前に見て吾々は、生きてゐる心あるものあらば多少は煩悶せざるを得ないではないか。

吾人よ日本はロシアに勝つた。併し乍ら一等國になつた日本の大學生は依然として臭下の舊阿蒙である。敗れたるロシアの學生はポペドノスチェフ一派の頑迷奴隷道德の鼓吹に反抗して起つた。

「鐵鎖を斷ち切る奴隷人の前に自由人の前に汝の矛を收めよ」と絶叫しつゝ奮ひ起つた。

これ一個の政爭ではない。人道のための戰であり、新しき思潮の古き形式に對する闘の聲である。

彼等は自己の信念のためにあくまでもそのダイナマイトを抱いて倒るゝ事を辭せなかつた。吾々はこの心を以て自らを改造しなければならぬ。

來るべき吾々の運命は時勢の波に卷き込まれて所謂時勢なるものゝ前に平伏すべきか。乃至は本能の反抗によりて博浪沙に大鐵槌を揮つた勇士の如く雄々しく破壞の斧を試むるか。吾々の取る可き道は、この二つの一つである。然れ共黄金や、權勢や片々たる虚榮や斯くの如きものゝ前に膝まづくには吾々の血は餘りに若い。

是等は何れも無産者の立場から貧者と富者との生活の實狀を述べ、現存制度の不合理、缺陷を詰り、感情に任せて改革の方法まで閃めかしてゐるのである。

次に詩に現れたものとしては、階級意識の濃厚なものや現社會制度を咀ふたりしたものが見受けられた。

例一、廣島縣立某中學校の校友會雜誌に載せられた五年生某の「斷章」と題するもの、一節、

人々
絹のベールを身にまとひ
牛乳の風呂に休浴する人。
全身に油をあびて
地下に蠢く人。
米
勞働者が血みどろな戰の
準備として食ふ米が
遊惰民には
享樂的一物質にすぎない。

是等も又貧富の懸隔の差異を指示して制度に對する不滿を暗示してゐる。

例二、岩手縣立某中學校の校友會雜誌に掲載された五年生某の「年頃の愛兒よ」と題するもの、

年頃の愛兒よ　お前に
新しい單衣一枚も着せたい
着たいだろうに
怎して一人兒のお前に
三年前の古縞只一枚を

綻して着せねばならぬのか
お母さん
よく眸を開いて御覽なさい
世界中の全ての人達は
皆古着に包まれて居る
進み行く大社會は
私達の着るそれより
もつと古くさい着物　制度を
無理に着てゐるよ
所々から綻びるが當然だ
手傳つて破つてねえ早く
清く新しい着物を着て
皆蘇つて樂しもうよ
お母さん

例三、北海道廳立某中學校の校友會雜誌に載せられた四年生某の「夜の軌道をゆく人々」と題するもの、

馬子の手に提げた燈は
濃霧に覆はれて眠むさうな光を軌道に投げかけ

ぎしぎしと軋る轍の音のみが
空しく邊りの暗がりに融け込んでゆく
こんな寂れ果てた眞夜中に
人々よ！
あなた達はその寄邊ない運命を油と泥とに
塗られた軌道にぶちまかせ
又あの遠い未開の曠野へ行かうとしてゐるのか。
あの焦げつく樣な眞夏の太陽の下で——
又零下三十度の雪の戸外で——
而も破つても、破つても限りなく積み重なる
運命の苛責と障害物とに惱みつゝも
みじめな生活への忍從！
そうだ！
今や！　あなた達の眼前には全ての歡樂は消滅し、
唯——生きようとする決心にのみかられてゐるんだ。
だが人々よ、
夜の軌道を行く人々よ！

今こそ、あなた達は悲觀して縮まつてゐる時ではないのだ。
見！　その兩のまぶたを押し開いて
世紀の大道の姿を！
其の所には激しい波のうねりがものすごく狂ひ
だが人類の全ては
激動する光に迷ひ
世紀の潮を恐れてゐるのだ
お、新しい世紀への伸展に捧げつくされる尊い犧牲者よ
愛なき冷酷な人類に叫びかけよ！
彼奴等の胸板に深く、深く徹する迄——
人々よ
人類の全ては皆んな眠り續けてゐるんだ。

又創作として現れたものとしては、北海道廳立某中學校の校友會雜誌に載せられた「星のない夜」と題する一幕物の戯曲がある。これは上級生の寄稿と思はれる。この一篇に登場する人物は經濟的に比較的惠まれない境遇に在る五人——職を持たない人A、同じくB、巡査、プロレタリアを論ずる青年、それに合槌を打つ學生——である。この各々異なる境遇に在る五人の言葉を介して、特權ブルヂョア階級のために無慘にも生活の窮狀に追ひつめられて行くと云ふ被壓迫階級の悲痛な叫びを述べ、かゝる矛盾缺陷にみちた現存社會制度を極度に怨嗟してゐるのである。此處に

この一篇を通じて特に注意すべきことは、下級官吏にもその社會的地位から觀て他の四人と同じくプロレタリア意識を持たせたこと、及びプロレタリアの中に於いても學生と然らざる者との間の觀念の相違を示した點である。この一篇に於ける注意すべき箇所を擧ぐれば、

……（前略）……

プロレタリアを論ずる青年　然し元氣がないね。そんな事でどうする。考へても見給へ。富める人々は永い年月貧しい人々のぼゝげたをなぐつて〳〵なぐりつけて來たんだ。

合槌を打つ學生　わかつてゐるよ。僕の親父だつて哀れだよ。いくら働いても働いても貧乏さ。それでもよく働いてゐるよ。俺は親父を可愛想に思ふよりも、情なく思ふんだ。

プロレタリアを論ずる青年　全く無茶だな。僕は考へただけで癪に障るんだ。そんなにも民衆の頰桁をなぐりつけて置きながら彼奴等はかう言ふんだ。「民衆よ、社會のために盡くさうではないか」とね。今までの社會は金持の社會だつたのだ。それなのに貧乏人は、彼等の言に瞞着されて富める者の社會のために、汗を出し眞黑になり血を流して働いて來たんだ。それなのにその報酬はなんだつた。恐しい事ぢあないか？　血を流して働いたその報ひは、結局自分の首を絞めつけることだつたんだ。骨と皮ばかりになり乍ら死にもの狂ひで働いても決して彼等の生活は樂にはならなかつたんだ。それでも彼等は働いた。食はなければならないからなあ。そして彼等の一生は何んと光明もない生ける屍だつたんだ。それが君、たゞの一度も自分のためぢあなかつたんだぜ。（息をきる）

ね、こんな不合理が永く續くと思ふかい。虐げられた貧しい人々が、食へないためにひねくれ、餘りにつら

い勞働のために反感を持つのが當然ぢやないか。

……（中略）……

職を持たない人B　學生さん！　お前さんはまだ幸福なんだ。貧乏のために金持を憎めない人もあるさ。けれども、それあ飯の食へる人なんだ。飯の食へねえ、何時もすきつぱらをしてゐる人間はどうするんだね。同じ人間だよ。そして俺達もみんな一緒に生れて來たんだ。生れて來たなら腹だけは飢じくさせねえて欲しいもんだ。働く事が人間の務めなら、俺あごんな仕事だつて欲しいもんだ。よつ！　俺たちにあ仕事がねえんだ！　何時もすきつぱらをかゝえて居るんだ。俺たちあこれでも人間かい。人間ならもつと人間らしくしてゐてえもんだ。ふん、これが世の中かい。よつ！　これが世の中かい。これが世の中なら俺達あ、ぶちこはさなくちやなんねえんだ。よつ！　お若いの、俺達の叫ぶのあ、あたりまえぢやあねえか。よつ！　あたりめえだらうぢやねえか。それを君たちの思想がぶちこわすんだ。俺たちのあ思想ぢやあねえ。腹の底からの號泣なんだ。血と肉との塊りなんだ。それを君たちがなまぬるい言葉で貧乏人に味方なんかしやがるから、俺達の苦しいこの叫びも玩具扱ひされるんだ。學問あつかひにされるんだよ……。……（以下略）……

卒業生の作品に就いて

卒業生の作品で、この傾向を有するものは僅に二點を見出したに過ぎない。一は唯斷片的に現代社會に矛盾があるから色々悲慘な事件が起るといふ意味のことを述べたもので、別に一貫した思想體系を持つものではない。この作品は福岡縣立某中學校の同窓會雜誌に掲載されてゐるもので、現在東京某大學政治學科に在學中の一卒業生によつて執筆されたものである。

左にその一節を掲げてみよう。

現代社會に多大の疑惑を感じて居ります

「矛盾あり撞著あり

こゝに鬪爭を生じ

血を見涙を見る

慘なる哉人生！」

他の一は前述の一、二、三の何れの傾向にも屬さないもので可成り注目すべきものである。これは東京府立某中學校の學友會雜誌に掲載された「映畫論」と題するもので、先づ藝術の意圖する情緒表現法の推移變遷を述べ、次にこの情緒表現に最も適したものは映畫であることを說き、その必然的結果として近代社會情勢に於いてこれが具體化されつゝあることを指摘して、映畫の藝術的價値とその使命とを詳說してゐるのである。而してこの論文の全體を通じて注目すべき點は、既成藝術を目してブルヂョアの唯美的個人主義的情熱の生產物であるとして、之を排斥し新時代の藝術には多分の社會性を帶びさせねばならぬと力說してゐることにある。今その文中の一、二節を擧げて見るならば、

「すべてが變つた。我々は最早過去の人々の心に情緒を呼び起した如きものからは、何等の情緒をも感じないのだ。」

「吾等は吾等全體の幸福を計らねばならぬ。何故ならば今は個人の時代でないから。唯美的個人主義的情熱よ消え去れ！」

「……今云ふのは社會と關係のないブルヂョア的な一個人と一個人の事件や感情に興味を持つことなく、社會全

體の集團行動に對する情熱を personality に依つて適確に把握し、端的に、力强く、表現すべきである。といふのである。言ひかへれば、社會の組織性、生產過程、そして構成に對する直感を表現すべしと言ふのである。」

こゝに左傾的急進的思想傾向の調査を總括して觀んに、生徒の寄稿中、この思想傾向を有する作品は總數二十三點で、思想傾向を有する作品總數の〇・二%に當る。之をその內容によつて別てば、マルクス主義的のもの四點、急進的のもの十九點である。この急進的のものを更に細別すれば有產者に對する反感を現したものが二點、無產者に對する同情を現したものが五點、社會の矛盾に對する不滿を現はしたものが十二點である。今是等をその表現の形式によつて分てば論文四點、隨筆七點、詩五點、創作五點、戲曲二點である。是等の作品の內容は文學のマルキシズム化を唱へるものや、プロ文學的な傾向を詩にしたものや、或は又社會の制度に矛盾不合理ありとしその責を有產者、權力者に歸し無產者、不遇者に同情した口吻を洩らしたものなどである。而してその取扱ひ方は抽象的理論を以てするものよりは直接間接見聞せる自己身邊の具體的な事實を述べたもの、方が多い。そして多くは藝術的な表現法を採つてゐる。

又左傾的流行語も所々に見受けた。又全體の上から見れば左傾的急進的思想には別段に關心を持つてゐない樣である。これは下級生に於いて特にさうである。下級生の作品でこの傾向を有するものは僅にBの二に屬するものを一點見出しただけである。併し又上級生の中にはマルクス主義的思想に反對の立場を採り、積極的な態度を以つてこれを非難攻擊してゐるものも見受けた。

次に卒業生の作品を觀るに、この種の思想傾向を有するものは總數五點で、卒業生の思想傾向を有する作品總數の〇・五%に當つてゐる。これを內譯すればマルクス主義的傾向のもの三點、急進的傾向のもの二點で、後者の一は社會の矛盾に對する不滿を述べたもので、他の一は藝術の社會性を高唱したものである。

これ等の內容は生徒の作品の內容とほゞ同樣で文學、文藝に關するものが最も多かつた。併し卒業生全般としてのこの思想に對する態度は生徒の場合と同じく反對的である。しかし生徒に比しては一層積極的で、これを憎惡し强く駁擊して居る。

（參考） 生徒が左傾的急進的思想傾向を有するに至る原因は、本調査の結果によれば、次の如き諸種の事實に存することが認められる。

第一には青年心理を擧げることが出來る。その中でも特に擧ぐべきは好奇心であり、彼等には新奇な思想を尙ほ盲目的に之を模倣するところがある。次は知識欲で、この欲求から左翼的な書籍を繙きその影響を受けたものと思はれる。次には直情的な正義心で、これから有產者に對する反抗心や弱者に對する同情心を起した事も否めない。

第二には環境の影響から此の思想傾向を帶ぶるに至るものがある。これは勞働問題の盛な地方の雜誌にこの種の作品が比較的多いのを見ても知られるのである。

第三にはプロ文藝の影響を擧げることが出來る。前揭の如くこの思想傾向の現れた作品總數二十三點の中大部分が文學作品又は文學に關するものであつた。これによつて見ても如何にプロ文學の影響の大なるかゞ認められる。そしてこれは繁華な都會とか、寒い時期の割合に長い地方等比較的讀書に便利な地方に多く見出されたのを見ても明かである。

第四には社會事相特に悲慘な生活を營みつゝある人々の實狀を直接見聞せることが擧げられる。近年年と共に切迫せる經濟的不況、社會的不安、殊に彼等の日夜棲息せる農村の貧困化等が彼等の思想を動搖せしめたことが少くないやうである。

(三) 道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向

この種の思想傾向を有する作品は、思想傾向を有する作品の大部分を占め、總數一〇一三二點に達してゐる。その比率は思想傾向を有する作品總數の八五・七%、作品總數の二七・四三%である。

この部には國家的傾向及び左傾的急進的傾向以外のものを凡て括めてゐるからその內容は廣汎に亘り又多種多樣である。これを大體次の三つの傾向に大別して觀察した。

A 道德的、宗教的、哲學的、理想主義的、復古的、自然讃仰的、人情的の傾向

B 感傷的、享樂的、頽廢的の傾向

C 勤勉努力的、質實剛健的の傾向

右の中最も多數を占めて居るものはAの傾向で、全部の五・四割(作品數五四〇〇點)、次はCの傾向で三・三割(三三六六點)、Bの傾向は最も少く全體の一・三割(作品數一三六六點)である。今これを表示すれば左の如くである。

○道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向を有する作品の內譯 (大別)

	作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
Aの傾向(道德的傾向、宗教的傾向、哲學的傾向、理想主義的傾向、復古的傾向、自然讃仰的傾向、人情的傾向)	五四〇〇(上級生作品六・六割、下級生作品三・四割)	五四、一%	四五・六三%
Bの傾向(感傷的傾向、享樂的傾向、頽廢的傾向)	一三六六(上級生作品七・六割、下級生作品二・四割)	一三・〇%	一一・六〇%
Cの傾向(勤勉努力的傾向、質實剛健的傾向)	三三六六(上級生作品六・三割、下級生作品三・七割)	三二・九%	二八・四七%
合計	一〇一三二(上級生作品六・七割、下級生作品三・三割)	一〇〇・〇%	八五・七〇%

次にこの三つの傾向を其の包含する項目に依つて細別してその各々の作品數及び比率を示せば次の如くである。

○道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向を有する作品の內譯 (細別)

		作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
Aの傾向	道德的傾向	七三三(上級生作品六・九割、下級生作品三・一割)	七・〇%	六・二〇%
	宗教的傾向	一四六(上級生作品一〇・〇割、下級生作品	一・四%	一・二三%
	哲學的傾向	一一三(上級生作品八・四割、下級生作品	一・一%	一・〇〇%
	理想主義的傾向	一七二(上級生作品七・五割、下級生作品二・五割)	一・六%	一・四五%
	復古的傾向	一五(上級生作品一〇・〇割、下級生作品	一・四%	〇・一三%
	自然讃仰的傾向	一三〇一(上級生作品六・七割、下級生作品三・三割)	一二・八%	一一・〇〇%
	人情的傾向	二九二〇(上級生作品六・四割、下級生作品三・六割)	二八・八%	二四・六二%
Bの傾向	感傷的傾向	一三六六(上級生作品七・六割、下級生作品三・四割)	一三・〇%	一一・六〇%
	享樂的傾向	—	—	—
	頽廢的傾向	—	—	—

Cの傾向		
勤勉努力的傾向	一一四一（上級生作品六・〇割 下級生作品四・〇割）	一一・〇％
質實剛健的想向	二二二五（上級生作品六・五割 下級生作品三・五割）	二一・九％
合計	一一八二二（上級生作品六・七割 下級生作品三・三割）	一〇〇・〇％

	九・六五％	
	一八・八二％	
	八五・七〇％	

先づAの傾向に就いて觀るに、表に示す如く人情的傾向のものが最も多い。この傾向はA、B、C三傾向を通じて最も多數を占めてゐる。これに次いで多いのは自然讃仰的傾向と、道德的傾向とである。そしてこれ等三つの傾向の何れに於いてもその約七割は上級生の作品であり、殘り約三割が下級生の作品である。宗教的、理想主義的、哲學的、復古的の傾向のものは數に於いて遙に少い。而して宗教的傾向の全部、理想主義的傾向、哲學的傾向の殆ど大部分は上級生の作品であり、復古的傾向は全部下級生の作品である。

先づ最も多數を占める人情的傾向のものに就いて觀るに、これは論文、隨筆、詩、歌等あらゆる形式に現れてゐるが、その說く所は骨肉の愛情を唱へるとか、舊師の深い恩愛を憶ひ學窓時代を忍ぶとか、又は友情を讃へるとか、故鄕を懷ふ情を述べてゐるとかいふ類で、いづれも人情美が强く現れてゐるものである。その一例を擧げれば新潟縣立某中學校の校友會雜誌に掲載された五年生某の「肥馬はいなゝく」と題するものである。左にその一節を拔萃して見よう。

智に働けば角が立ち情に棹させば流され意地を通せば窮屈な世の中である。秋の靜夜に人生をながめる時、なげかずにはゐられない末世である。かう言ふ事がこうじると思想問題が起るのである。眞の人情美がすたれて行きすたれて行くのが第一の原因かも知れない。人情の立派な所に惡い思想なんて起るものではあるまい。皆おれ「が」お前「が」の我の一點で世の中を通らうとする心がやがては惡思想の導線となるのかと思ふ。

次に多く現れてゐるのは自然讃仰的傾向の作品である。これは單に自然の風物を鑑賞し讃仰してゐるのみでなしに自ら自然に親しみ自然の悠久な動きの中に人生の理想を見出さうとし、或者は山岳の壯大を景仰し、或者は海洋の雄大を賞揚し、又或者は都會生活を排斥して田園生活に憧憬するといふ風に、いづれも自然の風物を賞讃し、自然が包藏する神秘な力に憧れて自己の人格を建設せんと努めてゐるのである。今その例を一二擧げるならば、宮崎縣立某中學校の學友會雜誌に於ける五年生某の「自然に歸れ」と題するものである。

自然の愛は大きい。いかなる惡人でも、又どんな大きな傷手でも、自然はその大きな愛の腕を以て迎へて癒れる。怒濤岸を洗ふ大洋に臨む時、或は赤月皓々として天心に冴ゆる時、之に臨む者何ぞ俗事に拘泥し、小事に悲しむことあらんやである。

自然は吾々に對して解くべからざる謎である。その謎を解かんとして、如何に多くの人々が苦しんだ事であらうか。淺薄な才能を以て大自然を解釋せんとして二十世紀の文明は、遂に破綻に到つたではないか。然り思想界に、經濟界に、其の他あらゆる方面に行き詰らうとして居る時、君等は須く自然と同化しなければならない。自然と一致し、自然にすべてを任せて融合する時、其處に新しい方面が展開されるのではなからうか。自然を征服せんとした物質文明は、却つて人類自身を苦しめる結果になつてしまつた。將來を荷つて立つべき我等青年、今こそ目醒むべき時は來たのだ。

自然に歸れ！小兒に歸れ！私は敢て玆に叫ぶのである。

又山口縣立某中學校の校友會雜誌に掲載された四年生某の「海の美」と題するもの、

（前略）海の美。それはすべてを抱擁せんとする暖かい神に他ならない。其處には生氣の溢れた、淸新に滿ちた生活が感知されるではないか。脈々と躍動する生命が感受されるではないか。吾々の生活は鬪爭もなく、憎惡もなく、幸福と平和とをもつて滿たされた海の如くでなければならぬ。かくて吾等の生活をよく、より平和なものとして、生活の改善社會の美化、進步を圖らなければならぬ。實に海の美は吾等の意氣と希望の表現であり、幸福と平和の象徵である。其れは吾等の大敎訓、大精神

である。（以下略）

次には道德的傾向の現れたものがかなり見受けられた。この傾向に屬するものは多くは現代に於ける物的價値の偏重、利己主義の彌漫等を歎き、道德的精神を振興することによつて、この時弊を救はんとしてゐるのである。その說くところは多くは儒教の道德に立脚して忠孝の意義、正義の本質等を究明しこれを宣揚してゐるのである。

次に多いのは宗教的傾向の作品である。これは全部上級生の寄稿せるもので、そのためかこの傾向を有するものには概して內容の充實したものが多い。これの多くは人生に於ける宗教の重要性を强調し、宗教による社會教化を力說してゐるもので、その態度には熱情が籠り、その氣魄に活潑なところがある。今これ等の作品の要旨を摘出すれば、現代の社會には幾多の弊風が存在してゐるが、これは宗教的情操の涵養に缺けたがためである。言ひ換へれば智育を偏重する結果宗教的情操の枯渴を來し、それが道德的觀念を淺薄にし、引いて社會全般の腐敗を來したのである。されば先づ宗教的情操を高めることによつて一般道德を振興し社會の更生に努めようとしてゐるのである。左にその一例として和歌山縣立某中學校の校友會雜誌に寄稿された五年生某の「宗教々育の必要」と題するものゝ要點を拔萃してみよう。

宗教とは「神の敎の許に心を育てろ」事であり、教育とは「Education——神より授けられたものを引き出す」事だといふ。

（中略）云はゞ宗教も教育も神てふ親を持つ兄弟であり、姉妹である。而して宗教の目的も教育の目的も人間の魂を陶冶し、眞の人間を作り上げるにある。

（中略）兩者は互ひに並行提携して進むべきものである。

（中略）甚だ廣言を吐く樣であるが、宗教的に取扱つて始めて意義あり、又教育は宗教的に取扱つてより有効なものではなからうか。（中略）釋尊逝いて二千五百年、今に至るも八億も佛教徒の存するのは何の力か。僅か三年二方里の布教で今も尙世界

の半を己が宗徒に持つキリストはそも何の力によつてかくまでに至らしめたか。曰く、たつた一つの力、愛の力、宗教教育の力である。これに反して宗教なき社會、それはさながら新聞の三面記事だ。

（中略）見よ！勳章を金に代へた男の醜態を。呪の火渦卷く中に聞ゆる阿鼻叫喚。叫吒罵聲。妙雲垂れこむる下に行はる陰謀猜疑。權謀術數。……是皆宗教々育の缺亡に依るのではなからうか。

（中略）キリスト教一度興るや、奴隷開放の先覺者リンカーンを產み、ペスタロッチを產み、大宗教改革家マルチン、ルーテルを、千古不滅の大文豪トルストイを、そして第二の聖書天路歷程の著者ジョン、バンヤンを、果ては一少女の身を以つて危く佛蘭西の危險を救ひし熱血少女ジャンヌダルクを、近くは全救世軍總司令官ウイリアム、ブース大將を產んだではないか。佛敎一度興らんか、其處には法然あり、親鸞あり、空海あり、西行あり、法華の使徒日蓮があるではないか。僕は聲高らかに絕叫する、宗教々育は人をつくると。

次にこの種の傾向を有するもので比較的消極的な思想の現れたものが少數見受けられた。これは自己の幸福を求めるために宗教心が必要だとしたもので、人間は唯肉體的にのみ生き得るものではなく、眞の幸福は無限の生命を求めることに在るとなし、個人的安心の手段として宗教の必要を述べてゐるのである。

理想主義的傾向のものも相當見受けられた。これは現實社會の弊風に對して嫌惡の念を抱き、これから脫却して遠大悠久な理想の世界に生きねばならぬといふ少年らしい純眞な氣持を述べてゐるのである。その中の或者は近來頻發する小作爭議とか、勞働爭議とか、その他所謂階級鬪爭等の悲しむべき社會現象をば、餘りに現實に執着して高遠な憧れを忘れ、黃金の誘惑に陷つた結果であると述べ、又他の者は青年が保守的退嬰的になるとその國家は繁榮しないことを實例を引いて述べ、青年は須く理想に生きねばならぬと說いてゐる。

又極く少數ではあるが、哲學的見地から自己の人生觀を立てようとしたり、又それによつて人生問題を解決せんと

努めてゐるものも見受けた。

又下級生の中には復古的精神によつて現社會の弊風を矯正せねばならぬことを說いてゐるものもあつた。

次にBの傾向に就いて觀るに、前揭の表に示す如くこの傾向はA、B、Cの三傾向中で最も少く、而かも見出されたものは感傷的傾向のみで、他の享樂的、頽廢的傾向の作品は皆無であつた。

この感傷的傾向は「道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向」に屬する諸傾向中の第三位を占め、この中の約七割强は上級生の作品で、約三割弱が下級生の作品である。この傾向を有する作品は人生に對して何等確固たる信念を持たず、たゞ安易な感傷的氣分によつて日常の苦難を慰めんとしてゐるのである。一例を擧ぐれば東京府私立某中學校の校友會雜誌に揭載されてゐる五年生某の「死の恐怖」と題するものゝ如きがそれである。

（前略）「又とない私の一生を通じて今が一番若いんだ」と誇張する心の裏には淺間しくも老ひぼれゆく未來の姿が幻となつてゐるのが透して見える。高らかなる青春の唄！あゝ然しそれは限りある生命に置かれたる一瞬の悅樂であり、果ある人生の一區を所有する短い喜びの聲である。絕對なる力の所有造物主の惡戲は餘りに慘酷にも生れざるものを生じ、生れたるものは、生れたるその刹那よりして死へ通ずる道程の上にて叫んでゐる。

（中略）所詮すべての人間は有耶無耶の中に造物主の不可抗な力に玩弄されて是非なくたつた一つの悲痛なる死の洗禮を受けて行く淺間しい限りの姿であり、人生とは死を豫言され哀れな人間が泣く泣くも神の惡戲に壓服されて最終の鬼罪に印されるまでの夢と幻の道程である。あゝ死線を越えた境地が幸福なる處か？ 不幸なる處か？ 總べてが謎の爲に私はなやまなければならぬ。

次には自然の景色に對して心の淋しさを訴へてゐるものも此の部に加へることが出來よう。これ等は殆ど全て詩歌

の形をとつてゐる。他に一種の厭世的な氣持を述べたものも極少數見受けられたがこれも此の部に屬したものと云へよう。

最後にCの傾向に就いて觀るに、この傾向には勤勉努力的なものと實實剛健を主張するものとが含められるが、他のA、Bの二傾向に比較してその現れが多量を占めてゐるのである。

この傾向を有する作品に於いてはいづれも素朴にして眞摯な氣風を青年の特色となし、この美風を大いに發揚すると共に、虛飾を去り、堅實な精神を涵養せんために種々なる手段方法を講じようとし、剛健な精神は自己を導き自己の將來に光明を齎すことを說いてゐる。

その一例を擧ぐれば富山縣立某中學校の校友會雜誌に揭載された五年生某の「我等は何を求めんとする乎」と題するものゝ一節である。

努力の効果はと反問する人に一言呈したい。人生五十年奮鬪努力すれば有意義ではないか。人生到る處青山ありといへども努力なき天地は見出されない。少くとも現在この宇宙に於て。一步一步努力の天地を開拓して行つたときこゝには靈妙なる、天才の地位が席を開けて待つて居てくれる。心持手を延ばしながら。ゲーテーの天才論に曰く、「天才とは何ぞ！ 勤勉此なり」と。努力とは、勤勉の換言したるものである。此に於ても我等は或る力强き衝動を受くるのである。現今、物質文明の急速なる進步に伴ひ、種々の社會問題を惹起し、此に加ふるに太平洋問題の解決は切に青衿子の努力の結果に待たなければならない事を强記したい。卽ち、あらゆる場合に於て努力は成功に對する最要な因子であると。」

卒業生の作品に就いて

卒業生の作品に於いても、生徒の場合と同じくこの種の思想傾向を有するものが壓倒的に大多數を占め、その數八五六點に達し、思想傾向を有する作品總數の八六%に當つてゐる。

この中八割（作品數六八八點）はCの傾向を有するもので、殘餘の二割（作品數一六九點）はAの傾向を有し、Bの傾向を有するものは皆無であつた。Cの傾向の作品がAの傾向の作品より遙に多いことは生徒の場合と異る點である。この三傾向を更に細別してその各々の作品數及び比率を示せば次の如くである。

○道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向を有する作品の內譯

		作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
Aの傾向	道德的傾向	五二	六・一〇%	五・二%
	宗教的傾向	一四	一・六四%	一・四%
	哲學的傾向	—	—	—
	理想主義的傾向	九	一・〇五%	〇・九%
	復古的傾向	—	—	—
	自然讃仰的傾向	二五	二・九一%	二・五%
	人情的傾向	六八	八・〇〇%	七・〇%
	小計（Aの傾向）	一六八	一九・七〇%	一七・〇%
Bの傾向	感傷的傾向	—	—	—
	享樂的傾向	—	—	—
	類廢的傾向	—	—	—
Cの傾向	勤勉努力的傾向	三〇二	三五・二〇%	三〇・三%
	質實剛健的傾向	三八六	四五・一〇%	三八・七%
	小計（Cの傾向）	六八八	八〇・三〇%	六九・〇%
小計（Bの傾向）		—	—	—
合計		八五六	一〇〇・〇〇%	八六・〇%

右の表によつても明かな如く、Aの傾向中に於いては人情的傾向を有するものと、道德的傾向を有するものが大多數で、他の傾向は僅かである。殊に哲學的傾向・復古的傾向の作品は皆無であつた。又Cの傾向中に於いてはその六割が質實剛健な思想を主張したもので、四割が勤勉努力的傾向を有する作品である。又これを全般的に眺めると、觀念的な思想の現れが少く、比較的實際的な思想の現れが多い。これらの論旨は生徒のものと大同小異であるが、併し其の傾向は實際的且堅實であつて、單に自己の抱負を吐露してゐるのみでなく、後輩を誘導せんとする意向が窺はれる。卽ち卒業生は自己の實際生活によつて得た體驗を披瀝することによつて、後進に何等か稗益する所あらんとしてゐるものゝやうである。

結語

以上に述べたところをこゝに總括して觀るに、生徒の作品中何等かの思想傾向を有する作品は全體の三二%である。この中で最も多數を占めてゐるのは人情的傾向で、全體の約二割五分に及び、第二は質實剛健的傾向で全體の約二割を占めてゐる。之に次いでは感傷的傾向、自然讃仰的傾向、勤勉努力的傾向等で、何れも全體の一割强の作品を有してゐる。國家主義的傾向、皇室尊崇思想の現れた作品は、多くは特殊な機會に際して起稿したものであるが、尙併せて全體の一割四分强の作品を數へることが出來る。道德的、理想主義的、宗教的、哲學的、復古的等の傾向の作品は併せて全體の約一割を占めるに過ぎない。最後に左傾的急進的のものは最も少く、比率數の上に於いては全體の〇・二割に過ぎず、就中その大部分は急進的傾向のものでマルクス主義的傾向のものは極めて少い。

要するに中學校に於いて特に著しく現れてゐる思想傾向は道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向でこれは單に數量に於いて多いばかりでなく、その論調氣魄が潑溂としてゐる。即ち現代社會に幾多の弊風の存することを認め、これが匡正を欲し、そのために或者は人情美を强調し、或る者は大自然の悠久な動きの中に人生の理想を認むべきを說き、或は又現實に對する過大な執着を捨て遠大な理想の世界に努力精進せねばならぬと述べ、他の者は道德的精神の振興を力說し、或は宗教的情操の涵養を高唱し、又或る者は剛健な精神を涵養し勤勉努力することによつて自己の將來に光明を齎らさうとしてゐる。併しこゝに注意すべきは少數ではあるが急進的な傾向を有する作品も見受け、その中にはマルクス主義的傾向を有する作品さへ發見されたことである。

以上の如く中學生の作品には比較的觀念的な思想が多く、その論旨や着想には觀るべきものがあるが、その思想的

內容は單純平盤で社會に對する視野にも狹いところがある。これを他の實業中等諸學校の生徒の思想傾向と比較するに、中學校の生徒に於いては實社會に對する關心の程度が低く、その着想は實生活と遊離したところを見受ける。

卒業生の作品に就いて觀るに、その寄稿者は大部分實社會に出て働いてゐる者で、上級學校に在學中の者は比較的少數の樣であつた。それだけ其處に現れた思想傾向は生徒の場合に比して可成その趣を異にしてゐる。

先づ何等かの思想傾向を有するものは、その作品中の二九%を占め、これ等のもの、中勤勉努力的、質實剛健的傾向が壓倒的大多數を占め全體の約七〇%に達し、國家的傾向は一三・五%で第二に位し、次は人情的、自然讃仰的の傾向で、道德的、宗教的、理想主義的傾向はこれに次ぎ、左傾的急進的傾向は最も少い。以上の如く卒業生には生活の實際に觸れてゐる者が多いだけに比較的實際的な思想傾向、即ち勤勉努力的、質實剛健的な傾向が多く、人情的、自然讃仰的傾向等感情的のものが生徒に比して遙に少く、又比較的觀念的な思想の中でも實生活に割合緊密な道德的、宗教的等の思想が多く現れてゐる。又國家的な思想も矢張生徒の場合と稍異り特殊の契機によるものよりは平素に現れてゐるものが多く、その論旨は生徒のものより一層堅實で思想的根據に一段と確固たるものが窺へる。又左傾的急進的思想はマルクス主義的及び社會の矛盾に對する不滿の二傾向として現れてゐるのであるが、その比率數は生徒の場合より高率を示し、しかもこの大部分はマルクス主義の理論を述べたものである。以上の如く卒業生の寄稿作品は生徒のものに比して遙に少く、思想傾向を有する作品の比率數も低いに關らず、その不穩急進なる思想の現れは生徒の場合より多く、しかもその大部分がマルクス主義の理論を述べたものであるといふことは特に注目すべきことである。

要するに卒業生の思想傾向の特徵は生徒の場合と同樣、道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向に現れてゐる。

而してこれを內容的に眺めるに彼等の大多數は實際の社會生活に當面してゐる者だけに比較的實質的にして堅實な意見を有する者が多く、生徒の場合に於ける如き單純、幼稚な傾向のものは少い。しかもその思想發表の動機は特殊な契機に左右されてゐることが少い樣に見受けられる。而して卒業生の態度は單に自己の抱く意見を吐くといふだけに止まらず生徒を誘導しようとしてゐる所が窺はれる。

附　錄

【參照(一)】

北海道私立某中學校の學友會雜誌所載、「プロレタリヤ文學題材其他について」と題する記事の抜萃。(寄稿者五年生某)。

(前略)――現在社會に有らゆる意味に於けるブルヂョアジーの沒落、それと同時にブルヂョア文學に於ける彼等の作品の大多數は創造性を失ひ、從つて廢頽的であり、末梢神經的であり、思想統一さへも失はれたが如き。その意味に於いて現在我が國プロレタリヤ文學の作品題材として最も多く求められてゐるものは、直接にプロレタリアート(ブルヂョア?)に對する政治的鬪爭若しくは經濟的鬪爭のそれである。(中略)――我々は今後更に此の方面に努力的に題材が握求されることを望むものである。がしかし、こゝに於いて先づ冷靜に思考し見る可きものがある。それは直接鬪爭を主題、題材とする作品は必ずその個々たる經濟的鬪爭乃至政治的鬪爭を充分に具體的に、しかも微細な特殊性をも見逃すことなく明らかにしなければならないことである。而して作品を最もプロレタリアートに訴ふるには意識させる爲には、純然たる現實性を含ませなくてはならない。目的意識を强く現はすことはプロレタリヤ文學にとつて當然のことであり、何等異議はないが、觀念の極度(?)から作品に誇張的な分子、現實性の薄い架空的なイデオロギーを交へてはならない。それは外見甚だ効果的の如くして事實は大なる誤である。殊に指導的政治理論や黨のテーゼ等を作品に課すことは絕對的に排すべきである。この事に就いてはルナチャールスキーもそれを力說し、その意見の中に次のやうなことを言つてゐる。「我々が我々自身の間から出て來た藝術家に對する場合に於いてすら、我々は彼の藝術的作品の中に狹隘な黨の綱領の目的を課してはいけない。彼が藝術家として行動する限りに於いて彼は政論家の仕事が爲される所のそれとは異つた法則に從つて自己の經驗を組織してゆくのである。(中略)――以上の樣な點が大體正當に觀され意識されて、此の直接鬪爭の方面に堅實な歩行を試みることはプロレタリヤ文學發展の一階梯として有意義なるは論を

俟たない。こゝに題材取扱ひが政治的經濟的鬪爭の直接運動方面に執心的に探求されることは必然であり、歡しいことに違ひないが、若しそれがプロレタリヤ文學として題材範圍として限定されるやうなことがあるならば、プロレタリヤ文學の目的意識に於いては勿論、如何なる點から觀ても決して正しいことであるとは考へられない。それは最も大いなる誤謬であらねばならぬ。(中略)――こゝに忘れてならないことはインテリゲンチヤ出身の作家である。彼等の大部分は皆藝術的修練を著へ、曝露の鍵たるプロレタリヤイデオロギーをも握持してゐるのである。現在之等の重大な難關を切開き開拓し行き得るものは彼等をさて置いて皆無である。(中略)――此の際我々は彼等の長所を最も要求すべき時であり、彼等からそれを習ふ必要の時期に到達してゐるのである。さうされてこそ、より更に光輝あるプロレタリヤ文藝運動の戰線は擴大されるのである。(中略)――之等に關聯してプロレタリヤ文學のブルジョアジー文學に對する態度を考へて見やう。(中略)――題材、形式、表現法等に更に內面的にしては思想、意識の解剖に於いて批判、曝露等に就きレレーキツチは云つてゐる。「前の時代の他の階級の文學は我々にとつて最も眞摯なる科學的研究の對照である。我々はそれ等を一定の歷史的情勢內に於ける一定の階級のイデオロギーの產物として歷史的見透しの中で檢討する。そしてプロレタリアートは彼が受け繼いだ文學的遺產をマルキシズムの方法の助けに依りて注意深く研究しながらそれと同時に內容に於いても、形式に於いても過去のそれと全く異つた自己の文學を創造するのである。」と。この言葉は決して過去の文學を全然見捨てて良いとは言つてない。我々はそれより數多くの經路と利用法とを學ばればならない。(中略)――こゝに於いて一寸述べて置きたいことは、プロレタリヤ文學はその作品の藝術價値を全然問題としないかの如く或人は言ふ。(中略)――成程我々にプロレタリアートに對する實踐を離れた藝術價値と云ふものを問題にしない。如何に面白く巧みに書かれてゐやうがそれが反動的であつたり、大衆に何等意義を有せぬものであつたなら價値は認められない。然しながら此の文學的實踐に於いて最も効果的である作品とは結局藝術的に完成されたものであることを忘れてはならない。(中略)――即ちこの意味に於いてブルジョアジー文學に於ける優れた藝術作品は我々にとつても亦藝術作品であることに違ひない。(中略)――プロレタリヤ文學の階級的必要はブルジョアジーとの鬪爭を全面的に擴大することである。が爲めには政治的亦は經濟的鬪爭それらの運動のみに止るべきでないことは最も明白なる事實である。(中略)――それ故決して我々は單なる直接的鬪爭のみにて題材範圍を限定さるべき場合ではないのである。「たゞ我々は取材の範圍を生活の全部に求め、ブルジョアジーとの鬪爭を全面的に擴大するとは言つても、常に忘れてならないことは、(中略)――今日の凡ての社會生活の根柢に階級鬪爭の大波が決定力として波打つてゐると言ふ事實であり、凡ての現象の取扱ひを、その根底まで徹底させて行つてそのリアリズムを主體的綜合的なものにしなければならぬと言ふ一事である。(中略)―。」(青野季吉氏―文藝戰線)。(中略)――題材が偏見的觀念から矯正されて自由に、廣くプロレタリヤ文學作品に求められると云ふことは、廣汎なるプロレタリアートを文學に惹き付ける意味に於いても唯一の手懸りではある。(中略)――ロシヤプロレタリヤ文學題材の問題に就きポリヤースキーの論說を參考までに引用しておかう。「藝術的創作は何等テーマの制限拘束はない。藝術家は藝術家である。彼は能ふ如くに創造し、階級的意識と心理とが許す如くに創造する。彼の良く知り良くこなし得る材料から創造する。(中略)―吾が時代の材料は極めて豐富であり殆んど把握し切れないであらう。それは勤勞階級の政治的生活の中に、經濟的建設の中に、プロレタリアートの中に、農民の中に、インテリゲンチヤの中に、ブルジョアジーの中に、……社會生活の中に、家庭に、工場に、集合體に各個人の中に發見される。(中略)――これを無視すれば文學は生活の繪畫となり、つまみものとなり、時代の動態を反映さすことが出來なくなる云々。」

【參照(二)】

北海道私立某中學校の學友會雜誌所載、「文藝の貧困と貧困の文藝」と題する記事の拔萃。(寄稿者五年生某)

一、序　論

「意識が存在を規定するに非ずして、存在が意識を規定する」といふ唯物史觀の基本命題としてのこの主張に就いては、多くの殊に唯美主義的觀念論者により屢々且つ執念深く論難駁せられたにも係らず、此の基本命題の示す眞理性の上には、いさゝかの痛痒もいさゝかの動搖も感じない、のみならず、近代社會の發展段階に於いて益々其の眞理性を確立しつゝある。

（中略）――西洋諸國の文化が自然發生的に極めて順調に發達し來つたにも關らず、我が國のそれは、西洋の文化に接觸し刺戟されて、急激な發達を促進されたので其處に幾多の無理があつた事は當然である。此の急速なるテンポを以て發達して來た我が國の藝術特に文藝が今日如何なる誤謬を其れ自身の中に胚胎し、且つ今後如何に其の誤謬を訂正し知何なる進路をとる可きか、此の小論文の持つ問題考察の觀角は卽ちこゝにあるのである。

二、文藝の貧困

（中略）――今日我々の有する文藝の底を流れてゐる根本的に相違する二大潮流を我々は見逃すことは出來ない。一つは喜しき生活に立脚した文藝、他はその對角線を隔てた點にあるめぐまれざる生活に立脚したるそれである。喜しき生活に立脚したるそれは、既に生活自身喜びである故をもつて、そこに尖鋭化された欲望感情の如何なる意識も存在しない。卽ち求むべき何物もないのが當然である。其處で文藝と生活とは當然切り離された別個の存在となつてしまつた。今その生活と切り離された文藝の特色を約言すれば、大體次の數言によつて表され得る。

一、藝術はそれ自身既に目的であり、他の外在的目的を有しない。故に無目的である。

二、從つてそれは內在的價値のみを有し、宗教、政治、道德等への手段として外在的價値をもつ事があるにしてもそれは藝術的作品の價値を決定するものではない。

三、外在的價値を考慮に入れる事は藝術的價値を低下させる。

四、藝術は、それ自身獨立な完全な自己發展の世界である。

五、藝術は永遠普遍の情緖の表現である。（この點に關して論者はプレハーノフの言葉を引用して、藝術は單に情緖の表現のみに止らず、同時に思想の表現であると云つてゐる。）

（中略）――喜しき生活に立脚した文藝は、上述の如く、其の根底からの誤謬に立つて正に貧困時代を來して、早晚破產の運命をもつてゐるのである。文藝の貧困とは卽ちこれをいふのである。

三、貧困の文藝

（中略）――めぐまれざる生活に立脚した文藝に於いては、彼等無產階級には、明日の時代を如何に建設し、如何によりよき生活を得んかといふ一大問題に直面してゐる。（中略）――一般に人類の社會が極めて靜的な狀態におかれた時、其處には解決を强要する鋭角的な意識は存在しない。（中略）――かゝる靜的狀態にあつて最も重大問題であり、最も動的なものは戀愛から生ずるエモーションである。（中略）――けれ共一朝その靜的狀態に破綻を來せば問題は自ら闡明されるものである。卽ち戀愛のみが文藝の對象乃至素材であり得ないといふ事が解る。

此處に於いてめぐまれざる生活に立脚した卽ちプロレタリヤ文藝の意義は擴充されなければならない。プロレタリヤ文藝である以上それはプロレタリヤの爲の文藝であり、プロレタリヤの利益の爲めの文藝でもそれは藝術として可能である。又めぐまれざる生活を如何にして打破り、來る可き時代を作るかの問題は今日の社會の正しい認識を把握しなければならない。從つてその正しい認識を大衆に把握させる爲の文藝作品も亦藝術作品であり得るのである。卽ち藝術が意識の形象的表現である限り、例へばそれが經濟思想の記述であつても、亦戀愛感情の記述であらうとも等しく藝術品である。（中略）――卽ち斯くの如く擴充された文藝こそ、潑溂とした新しい生命をもつた文藝といふ事が出來る。貧困の文藝の新基調はこゝに樹立されるのである。

【參照（三）】

長野縣立某中學校の學友會雜誌所載、「舞踏の樣相」と題する記事の拔萃。（寄稿者卒業生某）

（前略）――かうした一つの金融パニックは金融資本の寡頭的支配の確立を決定的ならしめ、資本主義とトラスト、カルテル、コンツェルンの完成を促進する一里塚となつた譯です。

かゝる過程が中小資本家及び中小地主の急激沒落と勞働大衆の窮乏化したるどん底への舞踏となつて現はれて來た譯です。

（中略）――（農民たちは大部分が保守的で傳習統的で獨りよがりの偏窟で優柔不斷で無反省だが）でも昨今の農民の一部が

農村問題は人間が農生産に關係する以上全人類の問題である。即ち土地と農民、かうしたことは必然的に資本社會が生んだ内部的矛盾からであると云ふ事を意識して來た事は淋しい中にも嬉しい意味の歡喜があります。

（中略）――フランスの農民文學者エミイル、ギヨヤマンは或る人に答へて「農民生活と土地、さうしたあらゆる經濟關係の問題は農民自體の判然たる役割の實際を意識する事にある」と云ふてゐます。此處に慥に確固たる結論を得た譯けです。我々への最高課題たる問題は、意識に依り社會的存在の進化の客觀的論理を把握し、明白に明瞭に批判的に適合せしめる事にあると。かゝる事に依り舞踏も亦意味なきものでない事を。

高等女學校及び實科高等女學校

目次

總說

(一)國家的思想傾向

A、國家主義的傾向

B、皇室尊崇思想

C、軍事的傾向

(二)左傾的急進的思想傾向

A、マルクス主義的傾向

B、その他の急進的傾向

一、有產者に對する反感

二、無產者に對する同情

三、社會の矛盾に對する不滿

(三)道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向

A、道德的、宗教的、哲學的、理想主義的、復古的、自然讃仰的、人情的の傾向

B、感傷的、享樂的、頹廢的の傾向

C、勤勉努力的、質實剛健的の傾向

結語

總說

本調査に於いて調査せる生徒及び卒業生の作品は、高等女學校に於いては總數四二三七四點で、その中九〇%（作品數三八五〇四點）が生徒の作品であり、一〇%（作品數三八七〇點）が卒業生の作品である。實科高等女學校に於いては總數三六三〇點でその七九•六%（作品數二八七〇點）が生徒の作品であり、二〇•四%（作品數七六〇點）が卒業生の作品である。

この中、思想傾向を有する作品は、生徒の分は高等女學校に於いて一一八三八點で、作品總數の三〇•七%であり、實科高等女學校に於いては一〇四四點で、作品總數の三六•四%である。卒業生の分は高等女學校に於いて九三八點で、作品總數の二四%であり、實科高等女學校に於いては二四八點で、作品總數の三二•六%である。

これを表によつて示せば次の如くである。本表の上級生とは修業年限五年の學校に於ける四•五年生、同四年の四年生、三年の三年生、二年の二年生である。以下倣之。

○寄稿作品總數及寄稿作品總數中思想傾向を有する作品數

		作品總數	生徒、卒業生の作品類計に對する百分率	思想傾向を有する作品總數	作品總數に對する百分率
生徒	高女	三八五〇四（上級生作品三•九割 下級生作品六•一割）	九〇•〇%	一一八三八（上級生作品四•七割 下級生作品五•三割）	三〇•七%
	實科	二八七〇（上級生作品四•〇割 下級生作品六•〇割）	七九•六%	一〇四四（上級生作品四•八割 下級生作品五•二割）	三六•四%
卒業生	高女	三八七〇	一〇•〇%	九三八	二四•二%

生徒			作品數	數有思想傾向作品百分率總數に對する	百作品分率總數に對する
生徒	(一)國家的思想傾向	高女	三八	四・〇五%	〇・九五%
	合計	實科	一〇四四(下級生作品五四・〇八割)(上級生作品五四・〇八割)	一〇〇・〇〇%	三六・四〇%
		高女	一一八三八(下級生作品五四・〇七割)(上級生作品五四・〇七割)	一〇〇・〇〇%	三〇・七〇%
	(三)勤勉努力的感奮的的等の思想傾向	實科	九八〇(下級生作品五四・〇八割)(上級生作品五四・〇八割)	九三・九〇%	三四・二〇%
		高女	一一〇八二(下級生作品五四・〇五割)(上級生作品五四・〇五割)	九三・九〇%	二八・七六%
	(二)急進的左傾的思想傾向	實科	—	—	—
		高女	四(下級生作品二七・〇五割)(上級生作品五五四・〇六割)	〇・〇四%	〇・〇一%
	(一)國家的思想傾向	實科	六四(下級生作品五四・〇六割)(上級生作品五四・〇六割)	六・一〇%	二・二〇%
		高女	七五二(下級生作品四・〇〇割)(上級生作品四・〇〇割)	六・三五%	一・九三%

生徒卒業			作品數	數有思想傾向作品百分率總數に對する	百作品分率總數に對する
生徒卒業	合計	實科	二四八	一〇〇・〇〇%	三二・六〇%
		高女	九三八	一〇〇・〇〇%	二四・二〇%
	(三)勤勉努力的感奮的的等の思想傾向	實科	二四〇	九六・八〇%	三一・五五%
		高女	八九八	九五・七四%	二三・二〇%
	(二)急進的左傾的思想傾向	實科	—	—	—
		高女	二	〇・二一%	〇・〇五%
		實科	八	三・二〇%	一・〇五%

今この思想傾向を有する作品をその內容によつて國家的思想傾向に左傾的急進的思想傾向に道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向の三つに大別し、各の數量及び比率を表示すれば次の如くである。

○思想傾向を有する作品の思想的內譯（大別）

合計		實科	七六〇	二〇・四%	二四八	三二・六%
		高女	四二三七四	一〇〇・〇%	一二七六	三〇・二%
		實科	三六三〇	一〇〇・〇%	一二九二	三五・六%

（一）國家的思想傾向

國家的思想の現れてゐる作品は高等女學校に於いては七五二點で、その比率は作品總數の一・九三％、思想傾向を有する作品總數の六・三五％である。次に實科高等女學校に於いては斯る作品は六四點で、その比率は作品總數の二・二％、思想傾向を有する作品總數の六・一％である。これ等の作品は國家的な事件・問題・或は祝典・儀式等を契機として強く現れて居り、その論點、着想は中正穩健で、言辭筆致にも些かの虚飾が無い。

今これを內容に依つて分類すれば國家主義的傾向のもの及び皇室尊崇思想のものに區別することが出來る。その作品數及び比率を示せば次の如くである。

○國家的思想傾向を有する作品の內譯

		作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
生徒	A國家主義的傾向 高女	一八〇（上級生作品五・六割 下級生作品四・四割）	二四・〇〇％	一・五二％
	A國家主義的傾向 實科	一二（上級生作品三・三割 下級生作品六・七割）	一八・七五％	一・一四％
	B皇室尊崇思想 高女	五七二（上級生作品六・一割 下級生作品三・九割）	七六・〇〇％	四・八三％
	B皇室尊崇思想 實科	五二（上級生作品五・〇割 下級生作品五・〇割）	八一・二五％	四・九六％
	C軍事的傾向 高女	—	—	—
	C軍事的傾向 實科	—	—	—
合計	高女	七五二（上級生作品六・〇割 下級生作品四・〇割）	一〇〇・〇〇％	六・三五％
	實科	六四（上級生作品四・六割 下級生作品五・四割）	一〇〇・〇〇％	六・一〇％

先づ國家主義的傾向の作品から眺めて見よう。この種の作品は前掲の統計表に依つても明らかな如く、高等女學校に於いては總數一八〇點、實科高等女學校に於いては總數一二點で、皇室尊崇思想のものよりはその作品數が遙に尠く、特に後者に於いてその傾向が著しい。又上級生の作品と下級生の作品との數量を比較するに、高等女學校に於いては兩者は殆んど相等しいが、實科高等女學校に於いては下級生の方が多い。

これ等の作品は經濟的緊縮とか、教化總動員とか、或は金解禁等の如き國家的な問題を契機として現れたものである。今その內容を觀るに何れも國家の思想的或は經濟的難局を憂慮し、これが打開のために國民互に相戒めて善風を作興し、又經濟的緊縮の實を擧ぐべきことを說いてゐるのである。その重なるものをこゝに擧ぐるならば、興國運動を有意義ならしめる爲に國民が精神的に覺醒せねばならぬとか、教化總動員に際して民心の教化、風教の刷新を圖らねばならぬとか、或は緊縮の世論に從ひ家庭經濟を合理化せねばならぬとか、國產品を愛用せねばならぬとか論ずる類である。この中最も多數を占めて居るのは緊縮問題に關するもので、しかもその殆んどすべてが家庭の女子としての立場から緊縮の必要を述べて居る。その一例として左に愛媛縣私立某高等女學校の校友會雜誌に揭載せる上級生作品「節約についての感想」と題する記事の內容を拔萃して見よう。

今日我が國がまさに經濟力の充實を要する時に當つて各階級の家庭を通じ、動もすれば奢侈に陷り浪費が行はれて居るのを見る。

奢侈は必ず資本の減退を起し來るものであつて、かゝる風の行はれることは、誠に國家全體から見て不幸なこゝ云はなければなりません。

私達家庭の一員としてまた家庭の經濟生活に特に消費經濟を掌る女子として十分經濟上の事情を辨へて居らなければなりません。

毎日の勤勉努力と節約、儉約、貯蓄とは國家の繁榮を計る大切な要件である。

特に女子は衣食住等を始めとして、家庭一切の仕事を處理するものであるから、女子が浪費に流れると、男子のいかなる收入も結局無効になつてしまふであらう。

故に女子は一層節約の精神を守らねばなりません。

即ち國家の經濟力の充實は、家庭經濟の衝に當る女子の勤儉節約を俟つて始めて完全なる實績を擧げ得るといふやうに述べてゐる。

次に皇室尊崇思想のものは前掲の統計表に示せる如く高等女學校に於いては總數五七二點、實科高等女學校に於いては總數五二點あり、その數量は國家主義的傾向のものよりも遙に多い。

これは御親閲・御巡幸・御大典・御遷宮式等に關する感想文や又神宮、皇陵の奉拜記等に現れて居るが、何れも國體の本義を體し、皇室尊崇の信念を鞏保して臣節を全うしようとの意向を現して居る。更にこの中の或者は龍顏に咫尺し奉る榮譽ある機會に際會して、皇恩の篤きに感泣し、又或る者は曠古の盛典を拜して崇高な御稜威の下に、日本國民たる事の榮譽を痛感し、又或る者は神宮皇陵に詣で、先帝陛下の御仁德を偲び奉り、その御懿德の萬分の一にも答へ奉らんと念願して居るのである。今その一例として御親閲に際しその感想を叙べたる、大阪府立某高等女學校の上級生作品「御親閲式に參加して」(校友會雜誌所掲)と題する記事を採錄して見よう。

(前略)玉座にカーキ色の軍服を召された神々しき陛下の御英姿を拜した時、胸の鼓動のまま〳〵高鳴るのを覺えた。(中略)

あゝ聖代に生れた私達は何と云ふ幸福であらうか、私達八千萬の大君の大前に於て奉唱する、この樣な光榮が私の一生に再びあるだらうか。

「我が大君、我が大君」と

私はたゞ無中で歌ひ終つた……。

(中略)私達十二萬の心からの最敬禮の中に陛下は靜かな玉歩を御車に運ばせられた。

私は初めて夢からさめた樣に我に返つた。

誰一人として聲を出す者も無い、靜寂の中に互に顏を見合せた、その目は感激に輝いてゐた。私は今日の尊い一日を永久に忘れる事は出來ない、感激の心と忠君愛國の念が強く強く肺肝にみなぎつて、我が大君の御代萬歳なれ、榮光に輝く我が大日本彌榮なれ、とのみ祈る外に餘念も無かつた。

これ等の作品は何れも我が皇室の尊嚴に對する感激の湧然として湧き起つたもので、いづれにも我が國民固有の麗はしい精神が窺はれる。尚ほ上級生の作品中にはこの感激から更に進んで新日本の建設に努力しようとの意見を述べたものも見受けた。

卒業生の作品に就いて

高等女學校の卒業生の作品中この傾向を有するものは三八點あり、その比率は作品總數の〇・九五%、思想傾向を有

する作品の四・〇五%である。次に實科高等女學校の卒業生の作品中この種のものは八點あり、その比率は作品總數の一・〇五%、思想傾向を有する作品の三・二%である。卽ち高等女學校に於いても實科高等女學校に於いてもその數量は非常に尠い。

これを更に國家主義的傾向のもの及び皇室尊崇思想のものに分類し、その各々の作品數及び比率を示せば次の如くである。

○國家的思想傾向を有する作品の內譯

		作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
卒業生	A 國家主義的傾向 高女	一六	四二・一一%	一・七一%
	A 國家主義的傾向 實科	二	二五・〇〇%	〇・八〇%
	B 皇室尊崇思想 高女	二二	五七・八九%	二・三四%
	B 皇室尊崇思想 實科	六	七五・〇〇%	二・四〇%
	C 軍事的傾向 高女	—	—	—
	C 軍事的傾向 實科	—	—	—
	合計 高女	三八	一〇〇・〇〇%	四・〇五%
	合計 實科	八	一〇〇・〇〇%	三・二〇%

これ等の作品を貫く思想が我が固有の愛國的精神であることは生徒の作品に於けること同樣であるが、その論旨は一層徹底して居る。又斯る作品の中には國家的な事件・問題或は祝典・儀式等に際してその感想を述べたものもあるが、しかしかゝる特別の機會でなく平素に於いて或る題材を擇んでその中にかゝる思想を現したものもある。例へば國民保健の必要を痛感して女子スポーツの隆盛を願ふことか、或は又婦選問題を論じ、婦人の政治的進出によつて國家國民の健全なる發達を切望することかいつたやうな類である。

（二）左傾的急進的思想傾向

全作品をマルクス主義的思想傾向、有產者に對する反感、無產者に對する同情、社會の矛盾に對する不滿の四方面から眺めると共に作品內容の全般的傾向を顧慮し右各項目に該當する作品の分類を試みた。

その結果に依れば、本思想傾向作品數は高等女學校寄稿作品總數四二三七四點中僅かに六點を數ふるのみであつた。而もこの六點は凡て高等女學校生徒並に卒業生作品にして、實科高等女學校のものは一點も見出されなかつた。

これを師範學校、中學校その他の男子中等學校の出版物に關する調査の結果に比較すれば、高等女學校のそれは內容に於いて極めて單純幼稚であり、數量に於いて著しく僅少である。

高等女學校の作品には全般的に家庭に關するもの卽ち父母兄弟姉妹等の事どもから女子特有の仕事たる家事裁縫に關する作品が極めて多く、且つ理論的なるものよりも個人的感情の表現としての小品・和歌・俳句の類が多かつた事から見てこの傾向の作品の少きも蓋し彼等女子青年の生活が主として家庭といふ狹き殼の中に制限され個人的感情生活がその主流を爲して居るが爲と考へられよう。

試みに本思想傾向作品の內譯並に比率を示すならば次表に揭ぐる如くである。

○左傾的急進的思想傾向を有する作品の內譯

		作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
A マルクス主義的傾向	高女	—	—	—
	實科	—	—	—

		作品數	本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
生徒				
B一 有產者に對する反感	高女	—	—	—
	實科	—	—	—
B二 無產者に對する同情	高女	一（上級生作品一〇・〇割 下級生作品）	二・五〇%	〇・〇一%
	實科	—	—	—
B三 社會の矛盾に對する不滿	高女	三（上級生作品一〇・〇割 下級生作品）	七五・〇%	〇・〇三%
	實科	—	—	—
合計	高女	四（上級生作品七・五割 下級生作品二・五割）	一〇〇・〇%	〇・〇四%
	實科	—	—	—
卒業生				
A マルクス主義的傾向	高女	—	—	—
	實科	—	—	—
B一 有產者に對する反感	高女	—	—	—
	實科	—	—	—
B二 無產者に對する同情	高女	二	一〇〇・〇%	〇・二一%
	實科	—	—	—
B三 社會の不合理に對する不滿	高女	—	—	—
	實科	—	—	—
合計	高女	二	一〇〇・〇%	〇・二一%
	實科	—	—	—

即ち合計六點中生徒のものが四點(その中上級生作品三點)、卒業生のもの二點である。

この生徒の作品四點は、その寄稿作品總數の〇・〇一%に當り、後者の一萬點に對し前者の一點の割合になつて居る。又その思想傾向を有する作品總數の〇・〇四%に相當し、卒業生の作品二點はその寄稿作品總數の〇・〇五%、思想傾向を有する作品總數の〇・二一%に該當する。要するにその數は著しく少いのである。

更にこれを作品內容より見ればマルクス主義的思想傾向並に有產者に對する反感を取扱ひたる作品は一點もなく該六點は無產者に對する同情三點、社會の矛盾に對する不滿三點となつてゐる。

而してこれ等の作品の一般的特色を爲して居る點は、物に感じ易く動かされ易き彼等女子靑年が自己の見且聞いた事柄に對して冷靜を缺き極端な感情を示して居ること。それと共に物事を全體的に具體的に批判考察する能力の缺乏からこれを思想的に一方的にのみ解すると共に只自己の單純幼稚なる考に一致しないといふ理由から不滿的同情的口吻を漏して居ることである。併しこゝに注意すべきは彼等の心理が單純であり物に感じ易く、その爲にこそ極めて同情心に富んで居るといふ點で如上の作品の如きはかゝる同情心の現れ方が只批判力の少きためその方向を誤つたものであるといつてよからう。今右の二傾向に就き夫々生徒作品の實例を示すならば、無產者に對する同情には愛知縣私立某高等女學校校友會誌所揭の下級生作品「炎熱の日」が擧げられる。これは炎熱の日コンクリートの道路面に働いて居る勞働者を見てこれに對する自己の感情を叙したもので今その一節を揭げるならば次の通りである。

「……人々は暑いといつては避暑に行く併し彼等は夫を許されない每日〳〵一心に太陽の下で働かねばならない……併大方は生きんが爲に苦鬪を續けてゐるのだ……苦惱の後には幸福と喜びが來るか——馬鹿な〳〵これ位馬鹿な期待があるものかと思つてゐるだろう。總てが馬鹿〳〵しいのかも知れない。地球と人生の逆轉が望みたく思つてゐるかも知れぬ。國家は彼等より成つてゐるのだ。國家が盛になると共に、彼等は次第に强大になつて行く、ブルジョアをのろひ、又何處までもブルジョアに對抗して行く。そして團を作り種々な方面には入つて行く。彼等に取つてはどんな興味のある所かも知れない。」

次に社會の矛盾に對する不滿としては北海道廳立某高等女學校校友會誌所揭上級生作品の一節を紹介しよう。

「不況だ〳〵と多くのプチブルはいふ　日給いくらの人夫募集に
血相變へて集る勞働者の群　生活難から逆上して
愛兒を殺す人妻がある　何の罪もない眞面目な人間が
バサリ〳〵とやられる　何といふ世の中だ
だがこの反面に　金と首引して喜んでゐる人間がある
だからこそ下層階級の者達は　悲慘のどん底へ突落されるんだ
腕節の强い男達は　生きんが爲の流血位何とも思はぬだろう
氣弱い女達は逆上もしよう　××するも無理ないといふ人がある
あゝこれが私等の流れ込んで行く　社會の姿なんだろうか
私はしづかに〳〵　何がこの世をそうさせたかを考へる。」

以上二點に見る如く同情にしても不滿にしてもそこに何等積極的な意志表示がない。只感ずるまゝ見るがまゝの事柄を單純に筆にしたものと解してよい。卒業生作品も略これと大同小異である。

(三) 道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向

高等女學校に於けるこの種の作品は總數一一〇八二點で、その比率は作品總數の二八・七六%、思想傾向を有する作品總數の九三・九%である。又實科高等女學校に於けるこれ等は總數九八〇點で、その比率は作品總數の三四・二%、思想傾向を有する作品總數の九三・〇九%である。

卽ちこの種の作品は高等女學校に於いても實科高等女學校に於いても思想傾向を有する作品總數の九割以上に及んで居る。而してその取扱はれた問題は種々雜多であり、思想としても樣々なものが現れて居るが、概してその筆致は纖細で、少女らしい感情の現れたものが多いのである。從つて高等女學校に於いても、實科高等女學校に於いても理論的なものに乏しく、感情的な作品が大部分を占めてゐる。卽ち論文といつたものよりは、寧ろ隨筆、感想文が多く、又詩、歌、創作、戲曲等も可成り多いのである。

今これを傾向別に分類して眺むれば次の如くである。

A、道德的、宗敎的、哲學的、理想主義的、復古的、自然讃仰的、人情的の傾向

B、感傷的傾向

C、勤勉努力的、質實剛健的の傾向

而して高等女學校、實科高等女學校共に右の中最も多いのはAの傾向に屬する作品で（高女六八一四點、實科高女六五八點）、次がBの傾向に屬するもの（高女二八七六點、實科高女二四〇點）、最も尠いのがCの傾向に屬するもの（高女一三九二點、實科高女八二點）である。

更に右三傾向をその各々の包含する種々の思想傾向に依り細別し、その作品數及び比率を示せば次の如くである。

○（生徒）道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向を有する作品の內譯

		作品數		本思想傾向作品總數中に於ける百分率	有思想傾向作品總數中に於ける百分率
A の傾向	道德的傾向	高女	四九六（上級生作品四・五割 下級生作品五・五割）	四・四七%	四・一九%
		實科	一四（上級生作品五・七割 下級生作品四・三割）	一・四三%	一・三七%
	宗敎的傾向	高女	五八（上級生作品五・八割 下級生作品四・二割）	〇・五二%	〇・四九%
		實科	四（上級生作品一〇・〇割）	〇・四一%	〇・三八%
	哲學的傾向	高女	四〇（上級生作品七・五割 下級生作品二・五割）	〇・三六%	〇・三四%
		實科	—	—	—
	理想主義的傾向	高女	三六（上級生作品六・一割 下級生作品三・九割）	〇・三二%	〇・三〇%
		實科	四（上級生作品一〇・〇割 下級生作品）	〇・四一%	〇・三八%
	復古的傾向	高女	八（上級生作品一〇・〇割 下級生作品）	〇・〇六%	〇・〇七%
		實科	—	—	—
	自然讃仰的傾向	高女	三九七六（上級生作品三・九割 下級生作品六・一割）	三五・九二%	三三・五九%
		實科	四三〇（上級生作品四・五割 下級生作品五・五割）	四三・八八%	四一・二八%
	人情的傾向	高女	二二〇〇（上級生作品四・八割 下級生作品五・二割）	一九・八四%	一八・五八%
		實科	二〇四（上級生作品四・四割 下級生作品五・六割）	二〇・八二%	一九・六四%

小計	高女	六八一四（上級生作品四・四割 下級生作品五・六割）	六一・四九％	五七・五六％
	實科	六五八（上級生作品四・六割 下級生作品五・四割）	六六・九五％	六三・〇五％
B 感傷的傾向	高女	二八七六（上級生作品四・六割 下級生作品五・四割）	二五・九二％	二四・二九％
	實科	二四〇（上級生作品四・八割 下級生作品五・二割）	二四・四九％	二三・〇〇％
の享樂的傾向	高女	—	—	—
	實科	—	—	—
類廢的傾向	高女	—	—	—
	實科	—	—	—
小計	高女	二八七六（上級生作品四・六割 下級生作品五・四割）	二五・九五％	二四・二九％
	實科	二四〇（上級生作品四・八割 下級生作品五・二割）	二四・四九％	二三・〇〇％
C 勤勉努力的傾向	高女	六一八（上級生作品三・四割 下級生作品六・六割）	五・五八％	五・二二％
	實科	四六（上級生作品五・二割 下級生作品四・八割）	四・七九％	四・四〇％
の質實剛健的傾向	高女	七七四（上級生作品四・四割 下級生作品五・六割）	六・九八％	六・五四％
	實科	三六（上級生作品八・八割 下級生作品一・二割）	三・七七％	三・四五％
小計	高女	一三九二（上級生作品四・〇割 下級生作品六・〇割）	一二・五六％	一一・七六％
	實科	八二（上級生作品六・八割 下級生作品三・二割）	八・五六％	七・八五％
合計	高女	一一〇八二（上級生作品四・五割 下級生作品五・五割）	一〇〇・〇〇％	九三・六一％
	實科	九八〇（上級生作品四・八割 下級生作品五・二割）	一〇〇・〇〇％	九三・九〇％

先づAの傾向に屬する作品に就いて眺めて見よう。

高等女學校に於いては自然讃仰的傾向のものがもつとも多く、人情的傾向及び道德的傾向のものがこれに次いで居る。而してこれは上級生の作品にも下級生の作品にも著しく現れて居るのである。なほ宗教的、哲學的、理想主義的、復古的の諸傾向も多少ながら現れて居るが、その數量は全體に比して極めて少い。

次に實科高等女學校に於いては最も多數を占めて居るのが自然讃仰的傾向のもので、人情的傾向のもの及び道德的傾向のものがこれに次いでゐる。而してこれ等に於ける上級生の作品と下級生の作品との割合は、高等女學校に於けるそれと同樣である。又宗教的及び理想主義的傾向のものも多少あるが、哲學的及び復古的傾向のものは皆無である。これによつて見れば高等女學校に於いても實科高等女學校に於いても理論的な傾向のものよりは寧ろ感情的な傾向の現れたものが甚だ多い。

扨て最も多い自然讃仰的傾向のものに就いて觀るに、これは小品、詩、歌等に現れて居り、その多くは大自然の崇高優美なる姿に對して讃美憧憬の心情を吐露し、これに依つて高尚なる心ばへを涵養しようといふのである。卽ち山岳の犯し難い威容に心を打たれ、或は海洋の洋々たるにこだはり無き心の慰安を求め、或は又四季とりどりの風物に心を寄せ、自然の慈みを感謝するといつたやうな類である。

左にその一二の例を拔萃して見よう。

例一、佐賀縣公立某高等女學校々友會雜誌所載、上級生某の「秋」と題する記事の一節、

（前略）おゝ秋だ。靑々とした限り無きみ空。淸澄の空氣。見詰れば見詰る程心の奥から何かしら感謝したい樣な淸らかさと、自然の生み出した喜びを起させるすがゝしき空。身も心も淸められる樣だ。おゝ何と崇高な季節よ。秋は、あくまで詩

的な表現のシーズンである。（中略）

「天高くして馬肥ゆる。」の諺の、かくの如く伸々した、何物にも束縛されない奔放な心を象徴する秋だから、私達は努力の生活といふことを忘れてはならぬ。努力の生活、何と云ふ力强いシーズンでせう。又收穫のシーズンでせう。（以下略）

例二、 大阪府公立某高等女學校々友會雜誌所載、上級生某の小品文「無題」の一節、

九月の空は、青磁色に晴れて、あくまで高い。コロ〳〵とこほろぎが、靜寂な空氣を、そよがせて鳴く。そこに咲く野菊の清楚な美。人は皆此の樣な心を持ちたいものだ。人は心に此の樣な花を咲かせたいものだ。

尙この外自然を友とせる先人の心境を說いて自然の崇むべきを叙べたものや、又近代文明の餘弊を嫌忌して自然讃仰の念を高めて居るものもある。又實科高等女學校に於いては天惠豊かな田園の生活を讃美して都會生活を嫌惡せるものも可成見受けた。

次に多いのは人情的傾向のものである。これ等の作品は人情美を强調したもので、そこに麗しい情誼が現れて居る。從つてその內容は極めて純情的でその眞情には强く讀者の胸を衝くものがある。例へば骨肉の愛情の切々たるを叙べるとか、恩師又は朋友の情に絆されるとか、他人の溫情に泣くとかいつた類であるが、その中でも最も多いのは骨肉の不幸に遭遇してその感想を述べた作品である。

左にその一例として東京府私立某高等女學校の校友會雜誌に揭載せる下級生の「亡き弟」と題する記事の一節を拔萃して見よう。

（前略）泣いても泣いても涙の盡きるまで泣いても、どうする事も出來ない死。私共の身を切らるゝ樣な切ない願も自然の宿命には勝つ事は不可能でした。（中略）

あゝ豐ちやん。

最後に姉さんの縫つたあのおべゞを着て黃泉に旅立つて行つたのです。給のおべゞ、もう少し寒いでせう。可哀さうに、豐ちやん、何と短い一生だつたんでせう。

（中略）「次の世には丈夫な子になつて生れておいで」と涙ながらに言はれたお母樣の御言葉！ 體の弱いほど困る事は無いのです。

せめて姉ちやんは體を丈夫に致しませう。

この外に又故實を引いて涙ぐましい人情美をたゝへるとか、或はこれを戲曲化したもの等も見受けられた。

例へば長野縣立某高等女學校の校友會雜誌には上級生が「その日の熊谷」と題して、源家の稗將熊谷次郎直實が平家の公達敦盛を涙乍らに討ち果すに至つた狀景を述べて居るが如きである。左にその一節を摘錄して見よう。

（前略）彼は自分の相手としては、餘りに氣高過ぎる、餘りにやさし過ぎる敵の姿を見出したのであつた。と同時に愛子小次郎の事が思ひ浮ばれた。そして今死を待つばかりの美しい敵の兩親を想ひ、はしなくも我が身に引き比べて見た。

「おゝお助けするのだ！」

だが後を顧みた時……彼は深い絕望の吐息をした。彼は思ひきつて敵の首をかいた。肉身の我が子を斬る樣な苦しさの中に、熱涙が傳つて落ちた。

彼が泣く〳〵首を包まうとして鎧直垂を解いて見た時、ゆくりなくも錦の囊に入れられてある笛を見出した。新しい悲しみが、後から〳〵と湧いて來るのを、どうする事も出來なかつた。（以下略）

道德的傾向のものは前述せる二傾向のものに比ぶれば餘程少數である。併しこれが上級生の作品にも下級生の作品にも略々同じ割合で現れて居る。

これ等のものは何れも道德の實踐を尊び、德行の重んずべきを唱へて居るのであつて、或は實例を擧げ、或は先人

の徳行を例證し、將た又古諺を引用して諄々と道義を說いて居るのである。しかもその內容は極く平易に述べられて居り、その取り扱つた事項は溫良、貞節、孝養、親切、報恩、至誠等の德に關するものが多い。試みにその一例として「親切」に關して述べられた記事を揭げて見ようう。これは汽車中で見聞した一寸した事柄を題材としたものであつて、同車中の一中年紳士が或る老婆の落し物せるに對して冷淡であり不親切なのを嘆いて、

（岡山縣立某高等女學校々友會雜誌所載上級生作品）

（前略）世の中には小學校を出たゞけでさへ立派な行をする人があります。それですのに苟くも高等教育を受けた樣な人が小さい包一つ拾ふ樣な事が出來ないのでせうか。又みすぼらしいお婆さんに親切にして上げて品位が下るでせうか。人は知識も必要です。けれども知識ばかりにかたよつて大切な德を忘れる樣な事は惡い事ではないかと思ひます。（以下略）

と云つて知識に偏して德を忘れる事の無きやう戒めて居る。

宗教的傾向を有する作品は高等女學校に於いては五八點、實科高等女學校に於いては四點見受けたが、その多くは上級生の手に成つたものである。

これ等のものゝ內容を概觀するに、何れも物質的利益のみに汲々たる世道人心の頽廢を嘆き、信仰の生活の尊さを述べ、宗教的信念の扶植涵養を說いて一般の覺醒を促したものであつて、その論旨は相當に見るべきものがある。しかしその信念の內容に立ち入つて詳しく說いたものは見出せなかつた。

尙この外少數ではあるが高等女學校の生徒の作品中には人生問題を論じて幾分哲學的な傾向を有するものもあつた。卽ち生存の意義を論じたり、又人生に於ける幸福の眞義に就いて述べたりしてゐるのである。

次に理想主義的なものも多少見受けた。この種の作品は何れも理想を以て人生行路の目標だとして、その重要性を述べ、理想のある所には必ず進化があり、理想の無い所には必ず墮落が伴ふと述べて居るのである。例へば大分縣立某高等女學校々友會雜誌に揭載せる上級生の「我等の理想」と題する記事の如きはそれである。左にその一部を拔萃して見よう。

（前略）吾人の理想は人生行路の目標である。この目標に向つて生活の歩を進めて行くならば我々の前途には決して不安を感ずる事はない。將來社會に立つて活動すべき國家の中堅人物たる所の我々女性の一部分の者が日々墮落しつゝあるのは何故だらうか。それは理想がないからである。各人が盡く理想を抱いてその理想に向つて生活の歩を進めて行く時我々は決して墮落の姿を發見する事は出來ないわけである。（以下略）

又高等女學校の上級生の作品の中には現今の世相を憂へて復古的精神を鼓吹して居るものがあつたが、實科高等女學校にはかゝる種類のものは皆無であつた。

次にBの傾向に屬する作品に就いて觀るに、前揭の表に示す如く、何れも感傷的傾向を有するものでその數量は相當に多いのである。而して高等女學校に於いてはその四・六割が上級生の作品で、五・四割が下級生の作品である。又實科高等女學校に於いては、上級生の作品が四・八割、下級生の作品が五・二割を占めて居る。

これ等の作品は小品、詩、歌等の形に現れ、その數量も前述の如く相當に多いのであるが、その內容は甚だ單純である。卽ち自然の風物を眺めては、唯わけも無く感傷的な氣持を昂め、涙を流して居るのである。從つて社會事相に對する關心などは少しも現れて居ない。今その二、三の例を小品、詩、歌等に分つて引用して見よう。

例一、小品

富山縣公立某實科高等女學校々友會雜誌所載、下級生某の「可憐な草花」と題する文の一節、

（前略）凝然と見てゐると花瓣の雫はポツリ〳〵葉に落ち、葉の露は枝を拂ひ、或は落葉の上に、ホト〳〵と音を立てゝゐる。
何とはなしに涙の泌む夕暮であつた。

例二、詩

秋田縣公立某實科高等女學校々友會雜誌所載、上級生某の「月夜」と題するもの、

月の夜は淋し
たゞわけもなく淋し
何故かそはしらねども

月の夜はかなし
たゞわけもなくかなし
何故かそはしらねども

月の夜は泣きたい
月とともに泣きたい
何故かそはしらねども

今宵又我を苦しませるは
光りさす窓の明よ
何故かそはしらねども

例三、短歌

山形縣立某高等女學校々友會雜誌所載下級生某の作品

父はあれど母はあれども大空を
仰げば何かかなしかりけり

最後にCの傾向に屬する作品に就いて觀るに、その作品數量は「道德的、感傷的、勤勉努力的等」の部に屬するものは最も少いが、しかしその內容はいづれも堅實なものである。これは高等女學校、實科高等女學校共上級生の作品にも下級生の作品にも見出された。

この種の作品は年頭の所感文、卒業の感想記、其の他時事問題に關する論文等に多く見受けられたが、その內容を觀るに努力的精神を高め、虛飾を去つて素朴堅實なる志操を培ひ、女性たる任務に目覺めて國家社會に貢獻せんことを期してゐるのである。その論旨は何れも堅實で、しかも壯んな覇氣が現れて居る。

例へば或る者は年頭に當つて新たなる意氣と希望とを持つて堅實なる道に只管努力精進せんことを誓ひ、又或る者は卒業を目前に控へて、

私共が一心になつて修養して來たこの身を、いさゝかなりとも女性のために貢獻し、現在の社會を淨化して行く事を私の心に固く決心して居る。微力な私共の力によつて少しでも社會の爲に貢献する所があると思ふ時燃ゆる樣な熱が全身にみなぎる。限り無い希望と意氣と悅びとをもつて進むべき道を歩む。

といふ風に健氣な覺悟を述べ、又或る者は

嗚呼此の女學院に育くまれた私達、固い決心と覺悟を持つて進立して行かうではありませんか！

雄々しい心を持つて！

（右二例、東京府私立某高等女學校學友會雜誌より拔萃、何れも「卒業に際して」と題する記事である。）

とその決心を述べて居るのである。

尙この外良妻賢母として譽れ高かりし先人の實例を引いて女性の力の偉大なるを說き、

女性の偉大なる力でもつて社會に少しでも貢獻する爲には不撓の修養に努める事を第一として封建時代の女性のあの優しいその中に威嚴のある型の上に更に昭和の女性としては活氣と强い意志を備へ修めて、いやが上にも光輝ある女性の力を美しく清い方面へ全力を盡して尊い生活を送らねばならないと決心せずにはゐられません。

（岡山縣立高等女學校々友會雜誌所載上級生作品、「女性の力」）

と鞏固な意志を以て精神の錬磨に專念し、美しい女性の力を發揮して國家社會に大いに貢獻する所あらんと念願して居るものもある。

卒業生の作品に就いて

卒業生の作品中に於いても道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向を有するものが全體の九割以上に及び、高等女學校に於いてはこの種の作品總數は八九八點で、その比率は作品總數の二三・二%、思想傾向を有する作品總數の九五・七四%であり、實科高等女學校に於いてはその總數二四〇點、比率は作品總數の三一・五五%、思想傾向を有する作品總數の九六・八%である。

以上を更に傾向別に分類してその各々の作品數及び比率を示せば次の如くである。

○（卒業生）道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向を有する作品の內譯

		作品數	思想傾向作品總數中に於ける百分率	思想傾向作品總數中に於ける百分率
A の傾向	道德的傾向 高女	四六	五・一二%	四・九〇%
	道德的傾向 實科	—	—	—
	宗教的傾向 高女	三二	三・五六%	三・四一%
	宗教的傾向 實科	—	—	—
	哲學的傾向 高女	八	〇・八九%	〇・八五%
	哲學的傾向 實科	—	—	—
	理想主義的傾向 高女	一八	二・〇一%	一・九二%
	理想主義的傾向 實科	二	〇・八三%	〇・八二%
	復古的傾向 高女	—	—	—
	復古的傾向 實科	四〇	一六・六七%	一六・一四%
	自然讃仰的傾向 高女	一三〇	一四・四八%	一三・八六%
	自然讃仰的傾向 實科	六四	二六・六七%	二五・八〇%
	人情的傾向 高女	二三六	二六・二八%	二五・一六%
	人情的傾向 實科	二六	一〇・八五%	一〇・四八%
	小計 高女	四七〇	一〇〇・〇〇%	五〇・一〇%
	小計 實科	一三二	一〇〇・〇〇%	五三・二四%

B傾向の	感傷的傾向		享樂的傾向		類廢的傾向		小計		C傾向の	勤勉努力的傾向		質實剛健的傾向		小計		合計							
高女	實科	高女	實科	高女	實科	高女	實科	高女	實科	高女	實科	高女	實科	高女	實科	高女	實科	高女	實科	高女	實科	高女	實科
二三〇	二五・六一%	二八	一一・六六%	二	〇・二二%	—	—	四	〇・四五%	—	—	二三六	二六・二九%	二八	一一・六六%	七〇	七・七九%	四六	一九・一六%	一二二	一三・五九%	三四	一四・一六%
二四・五三%	一一・二九%	〇・二一%	〇・二一%	—	—	—	—	〇・四三%	〇・四三%	—	—	二五・一七%	二六・二九%	一一・二九%	一一・六六%	七四・六%	七・七九%	一八・五五%	一九・一六%	一三・〇一%	一三・五九%	一三・七二%	一四・一六%
二八〇	二一・三八%	八九八	一〇〇・〇〇%	二四〇	一〇〇・〇〇%																		
二四・五三%	二〇・四七%	九五・七四%	三二・二七%	九六・八〇%	三三・三二%																		

高等女學校に於いても實科高等女學校に於いても自然讃仰的のものとか、人情的傾向のものが非常に多く、又勤勉努力、質實剛健を主張せるものも前者に劣らず相當多いことは生徒に於けると同樣である。

而して感傷的傾向のものが多數を占めて居ることは高等女學校であると實科高等女學校であると又生徒たると卒業生たるとを問はないのである。

次に高等女學校に於いては道德的傾向のものや宗教的傾向のものを相當多く見受けたが、實科高等女學校に於いてはそれが殆んど無かつた。

以上に依つて觀ても明かなやうに、その思想的分野は大體生徒のものと似通つて居る。併しその思想の內容は生徒のものよりも充實し、その論旨、主張は一層堅實である。これは宗教的、哲學的等の如き觀念的な思想傾向を有する作品にも見受けられるし、又實踐的な道德、勤勉努力、或は質實剛健を主張した作品の中にも觀られるのである。卽ち人生に對する考へ方も緻密であり、社會事相に對する關心も深いのである。

結語

以上に述べたところをこゝに總括して見るに、

生徒の作品で思想傾向を有するものが、高等女學校に於いてはその作品總數の三〇・七％、實科高等女學校に於いては同じく三六・四％である。而して高等女學校に於ける殘餘の六九・三％及び實科高等女學校に於ける六三・六％のものは思想的傾向の別に現れて居ないものである。

次にその思想的分野を眺むるに、最も著いのは感情的なものである。即ち自然讃仰的や感傷的や人情的等の傾向を有するもので、これ等隨筆、小品、詩、歌、俳句等の形を取つて現れてゐる。その數は高等女學校に於いては思想傾向を有する作品總數の七六・四六％に當り、實科高等女學校に於いては八三・九二％に當つてゐる。これに依つて觀ても明らかなる如く、或者は崇高な大自然に接して美的情操を高め、或る者は事物に對して纖細な感傷的氣分に浸り、又或者は人に對する暖かな麗しい心情を現して居るのである。そこに如何にも少女らしいこころが見えるが、思想的には單純である。次に數の多いのは勤勉努力的、質實剛健的の如き傾向を現はしたものであるが、その數は上記のものよりも遙かに少い。即ち高等女學校に於いて思想傾向を有する作品總數の一一・六七％であり、實科高等女學校に於いては七・八五％である。その內容を觀るに、虛飾を却けて努力的精神を高むべきを說いたり、女性としての尊き使命に目覺めて社會的に應分の貢獻をなさむとかいふ風に健氣な心情を披瀝した極めて堅實なものである。國家的な思想傾向を有する作品は高等女學校に於いて思想傾向を有する作品總數の六・三％で、實科高等女學校に於ては六・一％である。これは特殊な機會を契機として現はれて居り、その論調には熱意が漲り、愛國的熱情が溢れて居る。更にこれを細目

について觀ると高等女學校實科高等女學校共にその六割有餘が皇室尊崇思想の現れたもので、殘りの三割餘が國家主義的な傾向を有するものである。この外に道德的、宗教的、理想主義的、哲學的等の傾向を有するものも多少見受けたが、その數は極めて少く、高等女學校に於いては思想傾向を有する作品の六・二％、實科高等女學校に於ては二・一三％に過ぎない。これ等の內容には別に深みは無いが、人生に對する眞面目な態度と向上心とが現れて居る。こゝに一言述ぶべきは實科高等女學校に於いては哲學的、復古的等の傾向を有するものゝ全く無かつたことである。尙左傾的急進的傾向は高等女學校に於いて思想傾向を有する作品の〇・〇四％現れて居るが、これは女性の動き易い感情特に同情心が無產者に對する憐憫の情となり、又更に昂じては斯る社會制度に對する不滿な氣持を現したものに過ぎない。

以上の如く高等女學校並に實科高等女學校生徒の作品の大部分は道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向を有するもので、國家的思想はその次に位し、左傾的急進的思想は極めて僅少である。又その發表の形式としては論文が尠く、隨筆、小品、詩、歌、俳句等が多い。又その筆致は纖細で感情的である。

尙高等女學校生徒と實科高等女學校生徒との作品を比較するに、全般的に眺めて感情的な傾向のものは實科高等女學校の方に著しく、理論的な傾向のものは高等女學校の方が些か優つて居るやうである。

次に卒業生の作品に就いて觀るに、思想傾向を有する作品は高等女學校に於いては作品總數の二四・二％、實科高等女學校に於ては三二・六％で、その割合は生徒の場合に於けるよりは稍々少い。更にその思想的分野を眺むるに、大體の傾向は生徒と同樣で、最も著しいのが人情的、感傷的、自然讃仰的等の如き感情的傾向の作品である。即ち高等女學校に於いては思想傾向を有する作品の六三・五五％で、實科高等女學校に於いては四七・五七％である。次に多い

のは勤勉努力的、質實剛健的の實踐的な傾向を有する作品で、高等女學校に於いては思想傾向を有する作品の二〇・四七%、實科高等女學校に於いては三二・二七%である。又道德的、宗教的、理想主義的、哲學的、復古的等の傾向を有する作品は高等女學校に於いては思想傾向を有する作品の一一・〇八%で、實科高等女學校に於いては一六・九六%である。次に多いのは國家的思想傾向を有する作品で、高等女學校に於いては思想傾向を有する作品の四・〇五%、實科高等女學校に於いては三・二%である。尙高等女學校に於いては左傾的急進的思想が思想傾向を有する作品の〇・二一%、享樂的な思想が〇・二一%、頽廢的な思想が〇・四三%現れて居る。

之を要するに卒業生の作品に現れた思想傾向も、その大部分が道德的、感傷的、勤勉努力的等の方面で、國家的並に左傾的急進的な思想は極めて尠い。併しその內容は生徒のものとは幾分か異り感傷的な部分が生徒の場合よりも遙に尠くて、理論的又は實踐的な部分が生徒の場合よりも多く、しかもその內容は一層充實し、思想傾向も一層穩健である。併し左傾的急進的な思想の比率が生徒の場合よりも高いのは注意すべきである。

工業學校

目次

總說

(一)國家的思想傾向

A、國家主義的傾向

B、皇室尊崇思想

C、軍事的傾向

(二)左傾的急進的思想傾向

A、マルクス主義的傾向

B、その他の急進的傾向

一、有產者に對する反感

二、無產者に對する同情

三、社會の矛盾に對する不滿

(三)道德的感傷的勤勉努力的等の思想傾向

A、道德的、宗教的、哲學的、自然讃傾的、人情的の傾向

B、感傷的、享樂的、頹廢的の傾向

C、勤勉努力的、實實剛健的の傾向

(四)就職及實業に關する思想傾向

結語

總說

本調査の材料は第一表に示す如く校友會誌七八册、同窓會誌二六册、同人雜誌一册、計一〇五册を基礎にせるもので、校友會誌は全體の約七割五分に當つてゐる。その中公立工業學校の分は一〇一册であり全體の九割六分强に當り、壓倒的多數を占めて居る。私立學校の分は僅かに四册に過ぎない。

第一表　蒐集雜誌の頻數分配表

種目	公立	私立	計
校友會誌	七五	三	七八
同窓會誌	二五	一	二六
同人雜誌	一		一
計	一〇一	四	一〇五

而してこれらの資料を提出せし學校は、第二表に示す如く全國公私立工業學校總計一一九校中八七校にして、全體の七三・一一%に當る。

第二表　資料呈出學校頻數分配表

種目	學校數		呈出校數	
種	公立	私立	公立	私立
甲種	八四	八	七六	三
乙種	九二			
計			七九	

乙種					
公立	二三	六	公立	一一七九	八七
私立	四	二	私立	二八七	八
公立	一〇七	八二	公立		
私立	一二	五	私立		
合計					

今該資料中生徒並びに卒業生作品を夫々頁數、投稿者、投稿作品、題材別に觀るに、

第三表　掲載記事總頁數內譯表

種目	頁數	比率
卒業生並生徒記事	六四七六	五六•九八%
特別會員記事	一五九六	一四•〇七%
學校並校友會記事	三二七五	二八•九五%
合計	一一三四七	一〇〇•〇〇%

第四表　卒業生並生徒記事頁數內譯表

種目	頁數	合計中に於ける各項目比率	會誌總頁數中に於ける各項目比率
卒業生記事	一六一一	二四•八八%	一四•二〇%
生徒記事	四八六五	七五•一二%	四二•七八%
合計	六四七六	一〇〇•〇〇%	五六•九八%

第三表に示す如く本調査の資料とせる雜誌一〇五册の總頁數は、一一三四七頁にして、その中生徒並に卒業生作品の占めて居る頁數は六四七六頁に達し、總頁數の五六•九八%に當つて居る。試みに生徒並に卒業生作品のみについてその內譯を示すならば第四表に示す如く、生徒記事四八六五頁に對し、卒業生記事は一六一一頁となつて居る。

次に第五表によれば生徒投稿者數は三三六五名にして全體の六六•一〇%に當り、その中上級生は一五三八名にして、生徒投稿者の四五•六七%に當つて居る。即ち生徒投稿者は上級下級によつてほゞ半分せられて居ることを知る。

第五表　卒業生並生徒投稿者內譯表

種目	投稿者數	百分率	生徒等投稿者內譯	
卒業生	一七二八	三三•九〇%		
生徒	三三六五	六六•一〇%	上級	一五三八
			下級	一八二七
合計	五〇九一	一〇〇•〇〇%		

備考　投稿者中には匿名雅號等を用ひたる者もあるからその數に多少の誤差はあらう
又こゝに上級生とは便宜上五年制工業學校の四年五年、四年制の四年、三年制の三年、二年制の二年を指し、下級生は夫以下を指す。

以上は投稿者數のみについて記述したのであるが、次にこれを生徒並に卒業生の實數と比較して見るならば、ここに明かなるもの四十二校の卒業生の實數は、二五七七〇名で、該校の卒業生投稿者數一一八九名は前者の四•六一%に當つて居る。

而して生徒はこれを五三校に就いて見る時、その實數は一八二四四名であり、その中投稿者數は二五七七名にし

て、前者の一四・一三%に當つて居る。併しこゝに注意すべきことは雜誌の紙數の制限或はその他の理由により實際の投稿者は少くともこれ以上になつて居ることである。

第六表　卒業生並生徒實數と投稿者數の比較

種目	實數	投稿者數	比率
卒業生	二五七七〇	一一八九	四・六一%
生徒	一八二四四	二五七七	一四・一三%

備考　卒業生は四二校生徒は五三校に就き調査

次に生徒並に卒業生投稿作品內譯に就いて見れば、作品總數六六三一點中生徒作品は四九〇四點を算し、總數の七三・九六%に當る。その中上級生作品は二四一五點で、合計の三六・四二%に相當する。

要するに生徒作品が壓倒的多數を占めて居り、上級生の作品は下級生の夫よりも多少少きを見るのである。

これ等作品の多くは小品、創作、詩歌等である。

第七表　卒業生並生徒作品內譯表

種目	作品數	百分率 生徒內譯百分率	百分率 卒業生並生徒合計內譯百分率
卒業生	一七二七	—	二六・〇四%
生徒 上級生	二四一五	四九・二五%	三六・四二%
生徒 下級生	二四八九	五〇・七五%	三七・五四%
生徒 計	四九〇四	一〇〇・〇〇%	七三・九六%
合計	六六三一	—	一〇〇・〇〇%

次に題材の方面からこれを眺めるならば、凡そ日常家庭生活、學校生活、社會並政治問題、職業に關するもの、自然の事象に關するもの、旅行並スポーツ、學術修養に關するもの、人生問題に關するもの等に分けられる。

而して右諸問題中最も多いのは、自然事象に關するもので、人生問題家庭學校生活に關するものがこれに次ぎ、社會政治學術に關するものが最も少い。要するに具體的事實に關するものが多いことになる。試みに數册をとりあげてその題材を摘出するならば次表に示す如くである。

第八表　校友會誌に現れたる作品の題材調

日常生活に關するもの	魚釣、錢湯、夢、寢寢、友の手紙、歲の市、空腹、刈入、村祭等
學校生活に關するもの	學校作業、十分間休憩、母校の追憶、寄宿舍、展覽會、寒稽古、卒業、修學旅行、軍敎、恩師、校旗、居眠り、製圖室、成績表等
家庭生活に關するもの	亡き父母の事ども、叔父、叔母、兄、弟、姉、妹、父の死、母の死、客、炬燵、風呂、團欒、カルタ取り、晩餐、休暇中の事ども、幼かりし時、家庭の樂しみ、新年等
社會並政治問題	不景氣に就いて、思想國難、經濟國難、少年勞働者、人口問題、海外發展等
職業に關するもの	夜勤、工場實習、現場監督、實業家となる爲に、工場勞働等
旅行並スポーツその他	海水浴、スポーツ精神、ランニング、水泳、ラクビー、野球試合、劍道、柔道等

自然の事象に關するもの	秋、冬、春、夏、雨、栗拾ひ、山の景色、夕立、雪の夜、雲、落陽、落葉、紅葉、柿、コスモス、赤とんぼ、ひばり、つばめ、暮れ行く窓、四季の眺め、星、田家の朝、海、田舍道、森の月等
學術修養に關するもの	住宅問題、建築史、水平錐錄に就いて、修養語錄、人格、正義、青年の覺悟等
人生問題	人間とは何か、宗教生活、魂、生くる事、夢と人生、死、生存競爭、神、宇宙、神祕、運命、生活態度、憐れなる存在、人生の迷路、惡魔等

如上のものは手當りに數種の會誌からその題目を摘出して來たのである。これに依つて見ても、少くとも、彼等が如何なる問題により多く關心を持つて居るかゞ察知せられるであらう。

扨て以上を以て資料に關する極めて概括的な考察を終つた譯であるが、こゝに便宜上思想傾向を有する作品に關して極く簡單に述べて見れば、第九表に示す如く生徒並卒業生投稿作品總數六六三一點中比較的思想傾向の判然たるものは一六三七點で、前者の二四・六九%に當る。而して生徒作品は一四一一點で、生徒投稿作品總數の二八・七七%に當つてゐる。

第九表　有思想傾向作品內譯表（その一）

種目	投稿作品總數	有思想傾向作品數	投稿作品數對有思想傾向作品數比率
卒業生	一七二七	二二六	一三・〇九%
生徒	四九〇四	一四一一	二八・七七%
合計	六六三一	一六三七	二四・六九%

こゝに一見不思議に感ぜられるのは卒業生の寄稿による思想傾向を有する作品數の極めて少いことである。これ卒業生作品の大部分が通信文や純學術的の作品であるがためである。

次に生徒作品の內譯について觀るに、左表に示す如く、上級生の作品總數二四一五點中思想傾向を有する作品は八三一點で、後者は前者の三四・四一%に當つて居る。これに反して下級生の作品は二四八九點中五八〇點で二三・三〇%に過ぎない。

第十表　有思想傾向作品內譯表（その二）

種目	投稿作品數	有思想傾向作品數	投稿作品數對有思想傾向作品比率
生徒 上級生	二四一五	八三一	三四・四一%
生徒 下級生	二四八九	五八〇	二三・三〇%

以上は有思想傾向作品を卒業、生徒、上級、下級に分けこれを數量的に取扱つたのであるが、要するに思想傾向を有する作品は上級生に多く而もかゝる作品は小品創作詩歌等に見出された。

最後に思想傾向を有する作品の內譯を示すならば第五表に示す如く道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向のものが最も多く、生徒、卒業生共に夫々全體の八九・八二%、九一・三五%に上り、思想傾向を有する作品の大半を占めて居る。

最も少きは左傾的急進的思想傾向を有する作品で卒業生五點、生徒一九點、總數の一・三七%に過ぎない。道德的、感傷的思想傾向を除外すれば國家的思想傾向が最も多い。各項目についての詳細なる點は章を追つてこれを明か

にしよう。

第十一表　有思想傾向作品内譯表（その三）

種目		作品數	内譯比率	投稿作品總數に對する各項目比率
生徒	國家的傾向	一〇三（上級生作品六・六割　下級生作品三・四割）	七・三〇％	二・一〇％
	左傾的急進的傾向	一九（上級生作品七・四割　下級生作品二・六割）	一・三五％	〇・三九％
	道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向	一二八九（上級生作品五・九割　下級生作品四・一割）	九一・三五％	二六・二八％
	計	一四一一（上級生作品五・九割　下級生作品四・一割）	一〇〇・〇〇％	二八・七七％
卒業生	國家的傾向	一八	七・九六％	一・〇四％
	左傾的急進的傾向	五	二・二一％	〇・二九％
	道德的、感傷的、勤勉努力的等の傾向	二〇三	八九・八二％	一一・七五％
	計	二二六	一〇〇・〇〇％	一三・〇九％

（一）國家的思想傾向

國家的思想傾向は之を分つて國家主義的傾向、皇室尊崇思想、軍事的思想傾向とする。

國家主義的とは國體の尊嚴を宣揚し、國民精神の作興を力説し、國家の進歩發展を希求するものの類を指し、皇室尊崇とは皇室の尊嚴をたゝへ、皇室の御仁慈を說き、皇運の扶翼を念として居るものを指す。又軍事的とは國防の重要性を唱へ、軍隊を禮讃するの類を含むのである。

調査の結果、この種の思想傾向に屬するものは次の如き數字を示した。

即ち思想傾向を有する作品一六三七點中、國家的思想傾向作品は一二一點にして前者の七・三九％に當ることは既に第十一表に於いてこれを示した。その内譯を表示するならば次の如くなる。

第十二表　國家的思想傾向作品内譯表

種目		作品數	内譯比率	有思想傾向作品總數に對する各項目比率
生徒	國家主義的傾向	六四（上級生作品五・五割　下級生作品四・五割）	六二・一四％	四・五四％
	皇室尊崇思想	三二（上級生作品七・九割　下級生作品二・一割）	三一・〇七％	二・二七％
	軍事的傾向	七（上級生作品七・五割　下級生作品二・五割）	六・七九％	〇・五〇％
	計	一〇三（上級生作品六・六割　下級生作品三・四割）	一〇〇・〇〇％	七・三〇％
卒業生	國家主義的傾向	一五	八三・三三％	六・六四％
	皇室尊崇思想	二	一一・一一％	〇・八八％

生	軍事的傾向	一	五・五六%	〇・五〇%
計		一八	一〇〇・〇〇%	七・九六%

即ち國家的思想傾向作品は、生徒に於いて一〇三點、卒業生に於て一八點を數へ、內上級生作品はその六割六分を占めて居る。これを思想傾向を有する作品總數と比較する時、前者は後者の七・三〇%に當ることは第十一表に於いて既に明かであり、その內譯は第十二表に示す通りである。蓋し本傾向に屬する作品が生徒卒業生共に豫想外に少いのは、一に生徒が日常現實的具體的直接的經驗による事實に如何に强く支配されて居るかを示すものである。彼等にとつて直接かゝる事項が問題にされる機會は日常極めて少いといつてよい。故にかくの如き事實を以て直ちに生徒がかゝる方面に對する思想傾向を持つこと少しと考へてはならない。寧ろ國家や皇室に對する夫々の考へは生徒の心に奧深く植えつけられ、而も何等か特別の機會が與へられなくては、夫がはつきり表面に現れて來ないものと考へるのが至當である。皇室尊崇思想の作品の如きその大部分が「御親閲に參加して」「御大典所感」等によつて占められて居ることは、如上の事實を裏書するものであるといつてよい。

扨てこれらの作品が果して如何なる內容を盛つて居るか便宜上各項目別にこれが說明を試みよう。

A、國家主義的思想傾向

本思想傾向作品は生徒六四點であり、內上級生作品は三五點總數の五割五分に相當してゐる。而して國家主義的思想傾向作品は國家的思想傾向作品總數の六二・一四%に當り三項目中の第一位を占めて居る。

然らばこれらの作品は如何なる內容をもつてゐるか。便宜上今その重なるものを摘出しこれが簡單な說明を與へるならば、

一、「世界金融時代」……我國こそ全世界を統一し世界の文化を指導すべき任務がある。

二、「現代の日本を見る」……日本は現在一大危機に頻して居る。西洋模倣をすてゝ自覺すべき時である。

三、「我等の使命」……思想國難、經濟國難に當り祖國を守れ。

四、「現代青年に訴ふ」……現代の青年は軟弱である。モボ、モガの拔扈は帝國の發展を害す。

五、「現代青年に求むるもの」……一大統一的宗教を興し、これによつて國民思想の統一を圖り、皇國の世界遍照の理想實現に努めよ。

六、「海外發展」……米、支に於ける排日は我等の恥辱、そんな所へ行かなくとも行く所はどこでもある。先づ南米へ行け、そして帝國の發展を圖れ。

七、「若者の覺悟」……經濟國難、思想國難來に際し、我々は國民的信念、日本固有の思想の發展、愛國心の涵養こそ必要。さすれば赤化運動が起つても大丈夫だ。

八、「國民思想善導について」……近時日本は經濟的にも思想的にも危機にある。共產黨員の如きは國賊である。國民の中堅たる我等は國民精神作興の御詔勅を奉じ一意光輝あるわが國體を守護する責任がある。

等で、國家主義的思想傾向作品六四點は、多く以上に揭げた標題に類するものであり、又內容も略同一であるといつてよい。今その一例として愛知縣立某工業學校校友會誌所揭の下級生の作品「我等の使命」の一節を紹介しよう。

模倣より創造へ、日本は今過渡期にある。……歐洲大戰が世界の政治思想及び經濟方面に於て一大轉換期であ

つた事は周知の如くである。……軍國主義の沒落デモクラシーの發生、ロマノフ王朝の沒落、ソヴイエト聯邦の誕生を宣言せる赤露過激思想、世界の變革は日本の動搖であつた。……大戰後世界動搖の餘波を受けて、數多の改制に直面した日本が內部に恐るべき危險を孕んで立つた事は寧ろ當然である。凡そ諸國民の思想風俗の異るはその國體の相違と共に決定的である。故に外國の思想風俗を以て直ちに自國の夫に採用せんとする時に、そこに大なる錯誤の生れることを知らねばならぬ。

戰後の我國が正に夫である。維新以來西洋文明の吸收を以て、一意日本を先進國の水準線まで引上げようとした國民の模倣主義が、時宜を判別する冷靜な一瞬時なくしてこの時に當つても作用することを忘れなかつた事は尤大な錯誤を全日本へ投げたと同時に、恐らくは永遠に斷つべからざる「危險の種子」を國民の一部に植えつけ去つた。日本史に現はれたる國體と輸入思想の國體との間の矛盾、この客主を顚倒した國民の考へ違ひは直ちに劣惡な結果を現はさずには居ない。戰後十年の日本は、外來思想問題に甚く數多のいまわしき事件が踵を次いで來り去つた。

一方大戰中に於ける我國の對外貿易は未曾有の好況を呈した。然し大戰の終ると共に俄然下火となつた。時も時關東大震災が起つた。

かくて津々浦々の國民をして經濟國難來を叫ばしめた。……

世界大戰が日本へ殘した此等の危機は、一時代を閲した今日でも尙去りやまず吾等の前に橫たはつて居る。思想と經濟、この兩國難を背負つて今後の日本が鞭を指すべき方向は果して何處であらうか。……

過渡期にある日本、轉換しつゝある日本、然し思想界に於ける現在は虛無である。……かく目的なき所果して

何の結果を得るものぞ。現日本は徒らに輸入危險思想が充滿せるのみて確固たる目標がない。……國民が動もすれば外來危險思想に動搖する傾向のある一因はこゝにある。

實業が經國の要道にして……實業の盛衰は之を生產工業の如何に俟つ所多い。……近き將來に於いて本邦工業界に參與すべき吾等は、それ自身が日本產業軍の一員たることを忘却してはならぬ。……叙上の理論より、確固たる國民思想によつて迷路に立つ日本の進路を示し、盛大なる實業を以て日本の經濟界を安定するのが眞に「我等の使命」である。やがてこの大使命の實現さるゝ、世界こそ日本が「新しき明日」への飛躍すべき眞の世界である。……小成に安んずべからず。日本の隆昌は世界的であらねばならぬ。對支外交、太平洋問題——日本の行手をはゞむ區々たる難關を吾々は踏み越えて行かねばならない。吾等に與へられた使命を戴いて世界に君臨すべき明日の新日本を約束する雄々しき者出でよ。……

以上の如く思想國難經濟國難に當つて現代青年の自覺を促して居る。

卒業生作品は一五點を數へ、その內容は生徒の夫と略同樣である。只生徒の夫に比して具體的であり、內容豐富であるといへよう。

B、皇室尊崇思想

皇室尊崇思想の現れた作品は合計三二點、その殆んど全部が「御大典の感想」「御親閲拜受所感」の如き特別記事を以て占められて居る。これ等は共に曠古の大典又は榮ある御親閲に浴して聖壽の萬歲、聖德の無窮を頌し奉つて居る。その他の作品もこれと同樣で、一例を示すならば

佐賀縣立某工業學校校友會誌所載下級生作品「黃金の色」の一節。

一望無限の大平野、嶽峰突兀たる僻村、今や黄色の波の漂はざる所なし。垂穂の稻の稔豊なる新帝の統治し給ふ大御代は秋將に闌ならんとして、瑞氣天地に充つ。建國三千年。年は移り代は變りも果てぬは黄金の色ぞ。威なるかな日東の國。されど!! 此の光輝ある純無垢なるべき黄金の色に今や一沫の濁流は注ぎ込まれんとして居る。何たる痛恨事ぞや。玆に於いて天恩無窮の御惠に浴する國民として、而も黄金の色を守るべき使命を有する國民として、この民强を象徴する色を永遠に無限に奉戴讃仰するは吾人最高の使命である。

これ等の如きは見方により國家主義的思想傾向とも見られる。かくの如く國家主義的皇室尊崇思想といつても要するにこれを嚴密に區別し得ないことは當然の事で夫々に内的關聯をもつて居ることは注意する迄もない。

卒業生のこの種の作品は僅かに二點その内容も生徒の夫と殆んど變りがない。

C、軍事的思想傾向

軍事的思想傾向作品は、軍隊宿泊日誌、軍教、或は野外演習に參加しての感想等によつて占められて居る。

而して此の作品は、僅かに七點に過ぎない。次にその一例を示すならば、

三重縣公立某工業學校校友會誌所載下級生作品「歩兵第三十三聯隊を滿洲に送る」の如きは、出征軍人を阿漕驛に送れる時の驛内の場景を敍述し、最後に次の如く述べてゐる。

我が大日本帝國國民たる者は、よく心身を鍛錬して益々日本魂を發揮する樣心掛けねばならぬ。而して何時か世界に冠たる模範を示す覺悟がなくてはならぬ。我等も學校教練によつて心身を鍛錬し、一旦緩急ある場合には祖國の爲に應ずる事の出來ることを最も喜とする。

卒業生作品は僅かに一點であり、戰爭の避くべからざること、國防の重要性を說いてゐる。

(二) 左傾的急進的思想傾向

左傾的急進的思想傾向は、これを分つて左傾的と急進的となし、左傾的とはマルクス主義的思想傾向、急進的とは有産者に對する反感、無産者に對する同情、社會の矛盾に對する不滿を現すものとする。

併しこれ等のものが嚴密に區別し得られないことは勿論であり、又互ひに内的關聯をもつて居ることは前に國家的傾向に於いて述べた通りである。

扨て本思想傾向に屬する作品の數量は、第十一表に示す如く、思想傾向を有する作品總數一六三七點中二四點にして、前者の一・四七%に當る。即ち道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向の一四九二點、國家的思想傾向の一二一點に比して最も少く、而もその中マルクス主義的思想傾向のものは僅か二點に過ぎない。

投稿者からこれを見れば生徒作品は十九點、その内上級生作品は十四點に達し、最大の數字を示して居る。

卒業生の作品は僅かに五點である。

第十三表　左傾的急進的思想傾向作品内譯表

種目		作品數	内譯比率	有思想傾向作品總數に對する各項目比率
生	A、マルクス主義的思想傾向	二(上級生作品一〇・〇割 下級生作品—)	一〇・五三%	〇・一四%
	B、有産者に對する反感	四(上級生作品七・五割 下級生作品二・五割)	二一・〇五%	〇・二八%
	無産者に對する同情	七(上級生作品七・一割 下級生作品二・九割)	三六・八四%	〇・五〇%

徒	社會の矛盾に對する不滿	六（上級生作品六・七割 下級生作品三・三割）	三一・五八％
計		一九（上級生作品七・四割 下級生作品二・六割）	一〇〇・〇〇％
卒業生 A、マルクス主義的思想傾向		—	—
B、	有產者に對する反感	—	—
	無產者に對する同情	二	五〇・〇〇％
	社會の矛盾に對する不滿	三	五〇・〇〇％
計		五	一〇〇・〇〇％

			〇・四三％
			一・三五％
		—	—
		—	—
		—	—
		〇・八八％	
		一・三三％	
		二・二一％	

要するにこの思想傾向に屬する作品は、その大部分が上級生のものである。無產者に對する同情、社會の矛盾に對する不滿の多きことも注目すべきである。

以上は主に數量的に就いて述べたのであるが、次にその內容に關し各項目別に述べて見よう。

A、マルクス主義的思想傾向

この傾向を有する作品數は、前に述べた通り二點見出された。いづれも上級生の作品である。併し兩者共にマルクス主義を論述又は解說せるものではなくて、一つの題材を捉へて資本主義社會の特質としての少數資本家の勞働者に對する搾取、壓迫等を問題にして居るものである。その一つは、大阪府立某工業學校校友會誌掲載の上級生作品「私の報酬論」であり、他の一つは、北海道廳立某工業學校校友會誌所載の上級生作品「三つの文明形式の性質に就いて」である。

左にその一部を拔萃しよう。

「私の報酬論」の一節、

人が勞働する時之に報酬が伴ふは當然である。而して夫は彼の勞働量に正比例すべきである。我々は報酬によつて生命を維持し、明日への勞働の準備をする。……故に偶然の機會や祖先の餘德に於いて得る所のものは、報酬の意義に反する。又假令努力の結果としての代償であつた所で、その人間が一家の計を支へて行くこと、自己一身すら支持して行けない樣では又眞の報酬とはいへぬ。

然るに今日の社會の報酬制度は、資本の運用に於ける効果の點のみに着眼せられて、來るべき奮鬪の準備といふ事が全く沒却されて居る。これ資本主義社會の通弊である。資本家は勞働者の勞働量は認めても、人間としての質を認めない。人間としての生計、人格としての要求をふみにぢつて居る。……

機械はプロレタリアを壓迫し、ブルジョアをして益々搾取を容易ならしめた。世の科學者も之に和して能率研究といひ乍らブルジョアの犬となつた。能率研究の要諦は、先づ「人」を考ふべきであり、個人の疲勞、採光、照明、保健、休養、衞生、更に進んで人としての生活の完全を期する爲如何にすべきかを考ふべきに、彼等は最少の經費で最大の効果をあぐる事のみを考へた。

生產は個人の爲に行はるべきものでない。法律は少數者を守る爲に作られてはならない。今日の急務は、理由なき高き報酬に制限を加へると共に、他方生存線以下に下降せんとする勞働者の最低賃銀の確立並に上昇を圖るべきである。

今日の法律は資本家の暴利、不合理なる搾取行爲に對して何等の取締規定を設けて居ない。否反つて之を保證

して居るに反し、被使用者の解雇、不合理なる賃銀に對して何等の對策も講じてゐない。多數の無產者は如何に働くとも常に自己の生存が脅かされて居るに反し、資本家は大廈高樓に寢てゐゝ益々資本を蓄積してゐる。

我々は何も無差別平等に賃銀を同額にしろといふのではない。不平等なる賃銀を廢して公平なる報酬の道を拓けといふのである。

「三つの文明形式の性質に就いて」の一節、

有史以來の長き人類歷史を通觀すれば自らそこに三つの文明形式がある。卽ち一、迷信の支配せる文明　二、武器の支配せる文明　三、機械が支配する文明である。……（一並に二の拔萃は便宜上省略す）……

第三の機械文明は、近代的生產道具によつて導き出された文明形式で、この社會を支配するものは迷信でなく科學であり、武器でなく生產道具であり、資本である。

人間が機械を使用する組織でなく、機械が人間を使用する組織である。生活が道具を決定せず、道具が生活を決定する。夫は十八九世紀の科學の勃興と共に發達した。人間は分業的機械によつて自動的にされ、機械の番人として機械の集合的管理の下に包含され、變化なき機械的行動を反覆する道具になつた。機械工業以前の生產に於ては、生產手段たる道具は容易に得られた。然し現在の大工業時代に於いては夫は困難である。夫には大資本が必要である。かくて機械を得る手段が中心となり、技術は機械に從屬して容易に得られる樣になり、資本は機械文明の社會に絕對の威力を持つ樣になつた。かくて資本を得る事が產業の重大な作用となり、利潤の獲得が生產技術を得ることに代つて生活の主なる目的となつた。

而して機械文明に於いては生產行動を所有と結びつけ、生產物は神の所有でもなく、武力により奪取されることなく個人に賦與せられた。……

然し機械の發達は生產者をその個人中心の生產組織から引離して、生產組織を構成する機械の一部となし、機械と同一の管理の下に置いた。從つて生產者は人間的生活を以て文明の建設に參加するにあらずして、機械的勞働を以て參加する。資本は只生產手段を豐富にする爲消費され、更に資本を生む爲に投資される。かくてその資本は夫を生める勞働者の生活に反映することなく少數の管理者にのみ反映する。

かく同じ機械文明の統制下にある管理者と生產者が、互ひに異る階級的社會團を形成し、生產管理者は生產者を利潤の分配から除外し、社會統制下に生產者階級の生活を壓迫し、迷信的に彼等に服從することを强制する。

こゝに於て生產者階級は團結し、資本家と對抗し、反抗し續けつゝあるのが現今機械文明の社會である。

これ等はその內容によつて見ても明かなやうに、現在の社會組織を分析し資本主義社會の不合理を摘發してゐるので、これはマルクス主義的な傾向を有するものと解せられる。

而して此等の作品に於いて特に注意すべきは共に上級生の手になつてゐることであり、又それが生徒作品としては思想的に相當まとまつて居ることである。

卒業生の作品にはこの種のものは一點も見出さなかつた。

B、その他の急進的思想傾向

一、有產者に對する反感

二、無產者に對する同情

三、社會の矛盾に對する不滿

一、有産者に對する反感

この傾向に屬するこ觀られる作品は第十三表に示す如く合計四點で、上級生の作品が三點、下級生の作品が一點である。その題名は「狂つたエレヴエーター・ボーイ」、「馬となりて」、「境遇」、「産業合理化に對する一考察」である。

この中「狂つたエレヴエーター・ボーイ」ではブルジョアが金貨で包まれた石ころに見えたといひ、「馬こなりて」は動物界で最も苦勞して居るのは駄馬で一番樂をして食つてゐるのは犬だなど記したものであり、第三の「境遇」は單的に有産者に對する反感を述べてゐる。今その全文を掲げるならば次の如くである。

岩手縣立某工業學校同人雜誌所載上級生作品、

境　遇

俺のまわりは鋭いこげだ。
ちよつこさわつてもいたい。
貧乏！
俺はこのことに對して
隨分なやまされた。
今更仕方がない。
俺はあきらめた。
笑ふものけ笑へ、
いくら侮辱されても
俺はがまんする。
然し今に見ろ必ず
お前達を見返してやるから。
笑つてやる者になるんだ。
これが今の俺の望さ。

第四の「産業合理化に對する一考察」は資本家の利己的産業合理化に反對したものである。愛知縣立某工業學校校友會誌所掲上級生の作品で、今その一部を拔萃してみるならば次の如くである。

産業合理化の目的は物價の引下である。換言すれば總ての方面から切りつめて、總ての冗費を省略し、科學的能率增進法によつて大量生産に努力し、優良品を多量に而も廉價に生産することである。然るに現在資本家がなしつゝある産業合理化運動は、誤れる手段をこり、勞働者側に對し不利な立場を與へて居る。その合理化たるや單に一企業一産業の利益の擁護を目標こして居るに過ぎぬ。正しき合理化は全産業の利益、全國民の利益こ並行すべきであるに、紡績業者の如き、今日有利な採算を以てして、操短を行ふここ自體が餘りにも産業合理化を無視した、利益擁護に偏せる利己中心的策動である。而してかゝる方策の犧牲こなつて多くの失業者が出る。若し現狀のまゝで進めば由々しき大問題が生ずるであらう。

要は全國民の利益の上に立つて健全な合理化をなし失業者を出さゞる事である。

二、無産者に對する同情

この傾向に屬する作品は第十三表で知る如く合計九點である。そのうち生徒の作品が七點、內上級生の作品が五點、下級生の作品が二點であり、卒業生の作品は僅かに二點である。左傾的急進的思想傾向中、社會の矛盾に對する不滿の九點と共にその數最も多い。この中には被壓迫民族に對する同情も括めて見た。今その代表的なものを示すならば、生徒作品中には「街上に散見するもの」、「此處はボロ工場である」、「新しき歌を歌へ」等が擧げられる。

第一の「街上に散見するもの」は、大阪市立某工業學校校友會誌所載のもので、上級生の作品である。卽ち「支那人である手品師が街路の一隅で營業を始めようとした。所へ一人の日本人が出て來てこれを許さぬといふ。果ては兩方喧嘩となり警官が來て支那人を牽いて行つた」といふのがその荒筋であるが、本作品中には次の如き一節がある。

……所がこの支那人張は孤兒であり、その親は日本軍の爲に殺された。彼は日本に流れて來た。そうして被壓迫民族として凡ゆる迫害を受けた。その友陳は友の警察にひかれ行く姿を見て自己の不甲斐なさを慨き、心に深く決する所があつた。そこには只團結の力があるのみであり、因襲と宿命とをかなぐりすてて、無產者並に被壓迫民族の爲に曉の狼火をあげよふ。

第二の「此處は襤褸工場である」は新潟縣立某工業學校校友會誌所掲上級生の作品で、ボロ工場內の男女工のみじめな生活を寫したものである。次にその一節を引用するならば、

……職工長のどなり聲、ベルトのすれる音、ボロの煮えたぎる音、ドタリ〳〵と廻轉する自動洗濯機の音、女工達のあげる黃色い聲、……あゝこゝにも數十名の人間が、生きんが爲に、食わんが爲に、ボロの匂に圍繞されて尊い生命をすり減らしてゐるのだ。

第三の「新しき歌を歌へ」は大阪市立某工業學校々友會誌所載上級生の作品である。

ある發動機工場の裏の小さな空地へ、牛松一家は工場の龍男の好意で住むことになつた。牛松の母は牛松の後一年になつた小學課程を無事に了へさせようとして、又一家三人の生計をたてるためパフ工場へ毎日通つた。一方牛松は晝は學校、夜は街頭へ出て砥粉を賣つた。然し貧乏は彼に益々惡い事を敎へた。桝の中へ錘を入れたりした。母が病氣になつた。牛松は金が欲しかつた。遂に學校で盜をした。母はとう〳〵死んでしまつた。牛松も龍男も泣いた。彼等はお互ひに貧乏だつた。

以上がその梗概であるがその中には次の如き一節がある。

「自分達を稚い時から常に虐げて來たのは貧乏だ。憶へば過去の日記は凡て貧乏で埋まつてゐる。今こそはつきり夫を見た。敢然として鬪はう。社會からこの忌しい貧乏を除去する爲、世の凡ての貧乏人の幸福を用意する爲の捨石となるのだ。小さな牛松の心にも焰々と燃立つ眞赤な復讐の炎の渦卷があつた。……」

因みに卒業生作品は二點を數へてゐるがその中特に注意すべきは「私事でさへ奪われて行く」の一點であらう。これは東京府立某工業學校同窓會誌所掲のものでサブタイトルとして「ある男が春畫を賣るまで」としてある。

次にその梗概を示すならば

ある町の賣春婦の子として生れた無智で善良な一職工。年は二十五。戀にあこがれて居る男の情熱は、彼を驅つて遂に街の場末に、彼の亡き母と等しい營みをする女を對象とした。併し夫には資本が第一である。所が不景氣の爲、否工場主の營業政策の失敗のため遂に馘首せられた。かくの如く戀愛の私事さへ資本の攻勢は赦さない。彼は東京へ出た。然し職のある筈がない。幾月か經つた。彼は木賃宿でふとした機會から知合になつた貧乏畫家と公園のベンチを專門に、生きんが爲に春畫を賣歩いて居た。

こいふのである。この作品に就いて特に注意すべきは左の一節である。

「近代に於ける全世界の大產業形態は――而して日本の帝國主義的資本主義經濟組織は、過去三十年間より一九二九年後に於いても大量生產の形態を辿るであらう。その形態は――勞農大衆を機械にする――而してブルジ。ア層はその形態の中に反動と軍國主義と最新科學の武器をかざして立籠る。……」

「工場は突然人員の大整理を遂行した。そこの職工達の長い間の勞働價値は少しも減少しないのに、工場主營業政策の失敗はその責任を默々と働く職工達に轉化した。……」

三、社會の矛盾に對する不滿

この傾向を有する作品は生徒の分が六點で、卒業生の分が三點である。その一例を左に擧げて見よう。

青森縣立某工業學校々友會誌所揭の「秋の發見」の一節、

生れ乍らにして、自分の生活を保護すべき充分な武器を與へられて居る。貴族富豪の子弟と、自己の身體をおほふべき一枚の着物だにない赤貧の家の子供とを競爭させ、これに勝つた者が優者、然らざる者が敗者といふならば、夫は盲目者の批判である。この場合、勝敗を決せるものは實力でなく、物質の力である。……諸君！ こゝに於いて思へ。我々は富める家に生れた者も、貧しき家に生れた者も、同じ樣に榮養を保證され、同じ樣に教育を受け、同じ出發點に立つて競爭し得る社會を建設すること、之が我々にとつて重大な問題である。……諸君！ 諸君が自己の個性を完成せんが爲、專心全力を盡し、而して諸君が完成せんとする努力を妨ぐる一切の不合理と大膽不敵に戰ふべきである。苟くも各個人の共存共榮を目的とする新社會の建設を妨げんとする一切の時代錯誤と勇敢に戰ふべきである。

佐賀縣立某工業學校校友會誌に揭げられて居る上級生作品「かへり道で」の一節、

耐え忍ぶとはどんなに尊い美しいものであるか、バイブルの貧しき者は幸なりとか、種々の教訓を聞かされて來たが、眞に忍耐は美しい尊いものか。三度の食事の滿足に食べられないのが幸福なのか。嘘だ。嘘だ。人一倍苦しめば苦しむ程偉くなり幸福になると。違ふ。いくら苦しんだつて貧しい不幸な人が世の中には多いではないか。……父の事業の失敗から故郷を遠く離れて兄妹が苦學して居る、世間の人はこうした事を孝行者だとはやしてゐる。それだのに學校では、僕や妹を變な眼でみる。殊にそうした事は幼友達に多い。……嫌ならそばへ寄るな。僕は歸つて行く。淋しく僕を待つて居る父母と妹の所へ。……

青森縣立某工業學校々友會誌所揭の「夢」の一節、

どこかで親子の口論する聲がする。……小供は、「お父さんはこれ迄修身とか歷史とか數學を眞面目にやつて居ればいつ社會へ出ても困る事がないと言われて來たのに、今になつて社會は醜い、暗黑だ、荒波だ、しつかりしなけりやいけないと言われるがそれでは矛盾してゐるではありませんか」「どこが矛盾してゐる。わしの云ふことは社會へ出る子を持つた親が誰でもいふ言葉だ。」「それならなぜ社會學とか人生學とかを教へて呉れなかつたのです。」……自分はたまらなくなつてその口論の渦卷に入つた。小供は自分に向つて言つた。「今日の我々は、數學や英語とかの學問よりはもつと實際的な直接的なものが欲しいのです。要するに我々の最も大切な事は生きて行くことです。……今日の社會の矛盾はブルジ。ア階級の專横、いたずらな權利の主張、形式主義等である。……我が日本はそのクラシックな道德と形式とを棄てゝ、今少しく自由にならなければならないのです。日本は虛榮

の國束縛の國です。……法律をもつと理想的にしなければならないでせう。……

因みに卒業生作品三點は何れも斷片的なもので通信に托して現代政界などの腐敗を憤慨攻撃してゐる。

(二) 道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向

この傾向に屬するものはこれを分つて次の三項とする。

A、道德的・宗教的・哲學的・自然讃仰的・人情的の傾向

B、感傷的・享樂的・頽廢的の傾向

C、勤勉努力的・質實剛健的の傾向

この部門に屬する作品の數は、他の部門に屬するものに較べて實に壓倒的多數を占め、思想傾向を有する作品總數一六三七點中一四九二點を算し、總數の九一・三五%に當つてゐる。

左にその作品數內譯を示すならば、第十四表に示す如くこの部に屬する作品中最も多數を占むるものはAの六八六點でこの部の作品總數の五割三分に當る。これに次ぐものはCの三七三點で總數の二割九分に當つてゐる。最も少いのはBの二三〇點で總數の一割八分に當つて居り、理想主義的・復古的思想傾向の作品は生徒卒業生共に一點も見出し得なかつた。

第十四表　道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向作品內譯表(その一)

種目	作品數	內譯比率	有思想傾向作品總數に對する各項目比率	順位
道德的	一一九(上級生作品六・一割 下級生作品三・九割)	九・三二%	八・四三%	5
宗教的	三八(上級生作品七・四割 下級生作品二・六割)	二・九五	二・六九	7

第十五表　道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向作品内譯表（その二）

種目	作品數	内譯比率	有思想傾向作品總數に對する各項目比率	順位
道德的	一九	九・三六％	八・四一％	4
生徒				
A				
哲學的	一一（上級生作品九・一割 下級生作品〇・九割）	〇・八五	〇・七八	8
理想主義的	—	—	—	—
復古的	—	—	—	—
自然讃仰的	三八三（上級生作品五・四割 下級生作品四・六割）	二九・七一	二七・〇〇	1
人情的	一三五（上級生作品四・七割 下級生作品五・三割）	一〇・四七	九・五七	4
小計	六八六（上級生作品五・六割 下級生作品四・四割）	五三・二一	四八・五七	(一)
B				
感傷的	二二七（上級生作品六・四割 下級生作品三・六割）	一七・六一	一六・〇九	3
享樂的	一（上級生作品一〇・〇割 下級生作品一）	〇・〇八	〇・〇七	10
類廢的	二（上級生作品一〇・〇割 下級生作品一）	〇・一六	〇・一四	9
小計	二三〇（上級生作品六・四割 下級生作品三・六割）	一七・八五	一六・三〇	(三)
C				
勤勉努力的	二六〇（上級生作品六・七割 下級生作品三・三割）	二〇・一七	一八・四二	2
質實剛健的	一一三（上級生作品五・八割 下級生作品四・二割）	八・七七	八・〇一	6
小計	三七三（上級生作品六・二割 下級生作品三・八割）	二八・九四	二六・四五	(二)
合計	一、二八九（上級生作品五・九割 下級生作品四・一割）	一〇〇・〇〇	九一・三五	

種目	作品數	内譯比率	有思想傾向作品總數に對する各項目比率	順位
卒業生				
A				
宗教的	六	二・九六	二・六五	7
哲學的	三	一・四八	一・三三	9
理想主義的	—	—	—	—
復古的	—	—	—	—
自然讃仰的	三八	一八・七一	一六・八九	2
人情的	三〇	一四・七七	一三・二七	3
小計	九六	四七・二八	四二・四八	(一)
B				
感傷的	一二	五・九一	五・三一	6
享樂的	三	一・四八	一・三三	8
類廢的	一	〇・四九	〇・四四	10
小計	一六	七・八八	七・〇八	(三)
C				
勤勉努力的	七三	三五・九六	三二・三〇	1
質實剛健的	一八	八・八八	七・九六	5
小計	九一	四四・八四	四〇・二七	(二)
合計	二〇三	一〇〇・〇〇	八九・八二	

これを各項目別に見る時、第一位に位するものは、Aの中の自然讃仰的思想傾向作品にして、その數三八三點で、この部門の作品總數の二九・七一％に當つて居る。次に位するは、Cの中の勤勉努力的思想傾向作品で、その數二六〇

點で、この部門の作品總數の二〇・一七%に當る。而して第三位はBの中の感傷的なるものでその數二二七點この部門の作品總數の一七・六一%に當る。而して、質實剛健、道德的、人情的なものがこれに次いで居る。最も少いのは享樂的、頽廢的等の思想傾向で前者は五點、後者は三點に過ぎない。

次にこれ等の作品を投稿者別に見れば、生徒の作品が一二八九點で卒業生の作品は二〇三點であり、生徒の作品中上級生のものは七五九點下級生のものは五三〇點である。こゝに注意すべきは詩歌の殆んど全部卽ち六四一點中六一一點がいづれも思想傾向を有つてゐることである、要するに生徒卒業生共、自然讃仰的、勤勉努力的、感傷的、人情的思想傾向のものが著しく多く特に生徒に於いては自然讃仰、感傷的傾向のものゝ多きに反し卒業生にあつては勤勉努力的、人情的傾向のものが多いこと、又生徒の作品中自然讃仰的、質實剛健的、人情的作品以外に於いては上級生の作品が下級生のものより著しく多いことになる。

以上は本傾向作品の數量を概括的に述べたのであるが、次に各項目別につきその數量並びに作品內容を觀察して見よう。

A　道德的・宗敎的・哲學的・自然讃仰的・人情的の傾向

道德的思想傾向

こゝに道德的思想傾向といふは、廣く人倫を說き、正義や愛を讃へ、實業道德を說き、人格の修養、處世訓などを述べたものを指すもので、これに該當する生徒の作品は一三八點である。その中上級生の作品は七三點下級生の作品は四六點である。

今この傾向に屬する作品の代表的なるものゝ標題を二三揭げるならば、「金言を胸に」「正義」「正しく生きよ」「愛は死よりも强し」「世界强國とその工業戰に對する覺悟」等である。これ等の標題によつても略察せらるゝが如く、その多くは正義廉潔を說き、良心に恥ぢない正しい生活を望み、或は愛の偉大なるを讃へ、忠實・信用・忍耐・親切等實業道德の修養を主張して居る。一例を示すならば、愛知縣立某學校々友會誌所揭、上級生作品「正しく生きよ」は正しく虛のない生活を讃へて居る。

「私は思ふ。不正手段を以て得なければならぬ樣なものなら得ない方がましだ。……あゝ今日も一日正しい道を踏んだと夢幻らかな安眠の出來る人こそ、誠の人である。……他人を欺き得ても、我が良心は欺くことは出來ない。天道は正に組するものである。……他人に叫ぶ前に先ず己の心に叫ばう。正しく濟く生きよと。……」

この部に屬する作品について注意すべきは只單に個人的道德修養を說くのみでなく進んでは社會道德を說き國家の隆盛を希望してゐるものゝ多いことである。

因みに卒業生の作品は一九點であり內容は生徒の夫と大差なきものである。

宗敎的思想傾向

本項目中に屬するものとしては神や信仰を論じ、來世や彼岸を說くものが擧げられる。而もその作品數は第十四表に示す如く生徒の作品は三八點で、その內上級生の作品は二八點、作品總數の過半數を占めてゐる。

然らばこれ等の作品は如何なる標題を揭げて居るか。次に二三の例を示すならば「偉大なるものに觸るゝ時」「宗敎的生活愚觀」「身の安住を求めて」「秋雜感」「野外にさまよひて」「宗敎の叫び」「經典小話」「偶感」の如きである。

本項目に屬する作品の內容は勿論種々あり、或は肉體的、物質的快樂を否定して、精神的安住を齎す信仰の偉大さ

を讃へたり、或は創造主としての神を認め、かゝる神の遍在を說いて居るが、要するに宗敎的信仰の必要を說き、これをば生活の根據たらしめようとしてゐるのである。而して、いづれも抽象的な神や、漠然たる信仰そのものを問題としたもので、具體的な佛敎論、基督敎論の如きは見出せなかつた。

その一例として石川縣立某工業學校々友會誌に揭載された上級生の「宗敎的生活愚觀」の一部を擧げて見よう

信仰……それは眞生活の奥底から湧き出て來る强い永續的な確信であつて、人心を落着かせ、心を平靜にしてくれる指導者であり、又人生行路の光明である。……そこに感謝の念が生ずる。感謝の念は人生を肯定し、又は創造する偉大なる力にして、人生一切の文化を體驗し、又は創造するに缺くべからざる基本的力である。……」

哲學的思想傾向

これは哲學的な命題や概念或は哲學者の學說等を叙述し說明して居るものを指すのであつて、本項目に屬する生徒の作品は僅かに十一點であつた。而もその中十點は悉く上級生の作品である。しかしこれ等の作品はその數は少いが內容は極めて堅實なものである。

今その標題の二三を擧ぐれば「對象の認識とその進化」「人間の目的」「オイケンは說く」等である。これ等は或は知覺と理念との關係を說き、進化の法則を述べ、知・情・意の關係を說明し、精神生活の如何を說いてゐる。今その一例を擧げるならば、大阪府公立某工業學校々友會誌所揭、上級生作品「對象の認識とその進化」の一節

「……或物體の存在を認識すること、換言すればそのものゝ對象としての成立は、自己の認識內に、その對象を、知覺によつて概念化し、一個の理念として受入れることである。これ等の理念は知覺の概念化の極めて幼稚であつた時代に於ては、最もその可能性に乏しく、且つ不充分、不合理なものを多々含んで居つたに違ひない。然しこれらの理念の結合は、高次の理念を發見する基礎となつた。……」

卒業生作品で此の傾向に屬するものは僅かに一點を見出したのみである。

自然讃仰的思想傾向

本項では美的、道德的或は宗敎的立場に立つて自然或は自然現象を讃美して居る作品のすべてを括める。

この傾向に屬する生徒の作品は三八三點である。而して之はこの部の生徒作品總數の二九・七一%に當りこの部に於いては第一位を占めてゐる。

その中上級生の作品は二〇六點であり、下級生の作品は一七七點である、卽ちその過半數は上級生の作品といふことが出來る。

今自然讃仰の作品中代表的なものゝ表題を擧げるならば、「自然の藝術」「春」「夕立」「海」「星」「趣味の登山禮讃」「太陽」「月の音樂」「自然を愛せよ」「自然と人生」等枚擧に暇ない程であるが、是等の作品の主張するところは要するに次の三つのことに盡きると思ふ。卽ち一、自然の美そのものを讃美するもの二、自然物或は自然現象等の中に或る道德的意義を認めて以て己が修養の糧となさんとするもの、三、大自然の崇高と人間の弱少とを感じた幾分宗敎味を帶びてゐるものである。前記表題中「自然の藝術」以下「星」迄は第一の部に屬し、「趣味の登山禮讃」から「月の音樂」迄は第二の部に屬し、「自然を愛せよ」以下は第三の部に屬するものである。

次の例は岐阜縣立某工業學校々友會誌に載つてゐる下級生の作品で、之などは自然に倫理的意義を認めた第二の部に屬する代表的なものである。

淸き數多き星の影、眞白き影を映しつゝ、淋しき野原の片すみを、名もなき小川流れゆく、道の小石に逆らはず、下へ〳〵と流れゆく、(中略)流れは初め細けれど、下に流るゝ心持ち、流れ流れて海となる、おゝその健げなる心持ち、人にもほしきそ

の心、流れはいとゞ淋しくも、共に打つれ流れゆく、その心こそ美しき、その心こそ樂しけれ、（下略）

而して卒業生作品は僅かに三八點、その内容も在校生のものと大差ないといつてよい。

人情的思想傾向

これは純眞な人間的な感情を、そのまゝに表現してゐるものを指すのである。本項に屬する生徒の作品は總數一三五點でその中、上級生作品は六四點、下級生の作品は七一點であつて、上級生と下級生との作品の數は比較的接近してゐる。

作品内容に就いて見れば純眞な人間的な感情が種々の場合に現はれてゐるのであるが、舊師に對する子弟の情、或は老母の年老いたるを見ての悲しさ、亡き父の墓場に徘徊するの情、或は故郷に久々に歸る時の嬉しさ、或は去りし後の淋しさと云つた樣なものを詠ひ、師弟の情、肉親の愛、友情或は個人的感情の動き等が活き〳〵とそのまゝに發露したものが多いのである。

次に掲ぐる京都府立某工業學校々友會誌所載の「養子」といふ作品は、養家の物質的な幸福よりも眞の肉親の愛を欲する少年の心理を描いたものである。

良一が尾崎家へ養子として籍を置いてから、早や五ヶ年の歳月が流れ去つた。……彼は幸福だつたらうか？實家の貧困に比べて養家は裕福であつたから、小遣錢も與へられた。美しい着物も着ることが出來た。靴も帽子も凡てが滿されてゐた。だが一つ、彼の心に常に不足を感ぜめしたものそれは、愛の缺乏であつた。……彼の性格は一變した。陽氣だつた彼は餘りにも陰鬱になつてしまつた。……

この傾向に屬する卒業生作品は三〇點で、その内容は在校生のものと大差がない。

B　感傷的、享樂的、頽廢的の傾向

本部門を分つて三項目とする。

一、感傷的思想傾向　二、享樂的思想傾向　三、頽廢的思想傾向

此の部門に屬する作品は二四六點でA、Cの兩部門に較べて著しく少ないのであるが、之は享樂的及び頽廢的思想傾向に屬する作品（前者四點後者三點）が極めて少ないが爲であつて、最初の感傷的思想傾向に屬する作品は二三九點の多數を算し本部類十項目中第三位を占めてゐる。

感傷的思想傾向

本項目に屬する生徒の作品は二二七點の多數を占めてゐる。その中上級生の作品は一四五點であり、下級生の作品は八二點である。この感傷的傾向の作品の中には、孤獨を愛し、或は人生をはかなみ、或は徒に感傷の涙にぬれて慰むといふが如く逃避的、厭世的等の傾向を現はしてゐる作品が數多く見出された。作品個々に就いて見るに、例へば「秋は逝く」「秋雨」「こほろぎ」「孤獨な秋星」「物思ふ秋」「晩秋」の如く秋の寂漠たる風物に接して感傷的な氣持を述べたものが最も多い。その他は「月夜の丘」「逝きし母」「鈴蘭」「公平なるもの、死」「美人草」「孤獨」等の如く逝きし母を思ふとか、月夜に人生のはかなさを歎くとか、宿命をかこつとか孤獨を愛するとか死を讃美するとかいふ風に感傷的氣分を現はしたものである。

次に掲ぐるは京都府公立某工業學校同窓會誌所載「月夜の丘」（上級生作品）と題するもので、人生問題―死の問題に惱める心持を描いてゐるが、幾分逃避的虛無的傾向を示してゐる。

今宵また、青き月夜の丘の上に、細き指にて人生とかく。消して又人生と書きぬ。寂しき心よ。石の如く冷き我よ。ひた〳〵と寄する波。月に砂をぬらして輝きぬ。丘上に死と書き人生と書く。遂に空しく無と書きぬ。……

この傾向に屬する卒業生作品は十二點でその內容も在校生の夫と大差ない。

享樂的思想傾向

本項には人間としての眞面目さを缺き、人生の苦難も逃れて刹那的な快樂或は陶醉の狀態を追ひ求めるが如き傾向のものを括めた。

この傾向を有する作品は極めて僅少で、僅か四點を見出したのみである。而してこの四點の中三點は卒業生の作品であつて生徒の作品は上級生のもの一點であつた。

その代表的なものとして「戀と胃の腑」「狂想曲時代」といつたものが擧げられる、是等の作品は何れも歡樂境の躁狂的ジャズ氣分を讃美して居るものである。

左に實例として「狂想曲時代」の一部を揭げよう。

これは新潟縣立某工業學校同窓會誌に揭げられてゐる卒業生の作品である。

「……復興の帝都に漲るジャズ氣分の旺溢……輕薄でデカダン的で內容が空だといふ勿れ。狂躁街ですり減らされた疲れ切つた心身を、赤い燈、青い燈のカフエーの一隅に橫たへ――明けりやダンサーの涙雨タララタッターとやつて見給へ。恐らくは誰でもボーッとなつて、思はずジャズのリズムに合せて、無意識の中に足踏して居る自分を見出すであらう。このリズムが代表するものこそ、取りも直さず時代のリズムではなからうか。此の時代に生くる若人にとつて少くともその瞬間に於いては、古い倫理・道德も人道主義も超越して居るのである。……」

頹廢的思想傾向

本項に屬するものは僅かに三點で道德的、感傷的、勤勉努力的等の思想傾向中最も少い。作者別にこれを見れば生徒の作品が二點、卒業生作品が一點である。その一例として岩手縣立某工業學校同人雜誌所載の上級生の作品「ねずみと壺持つ裸女」と題するもの〻一節を擧げて見よう。

「五月のアトリエは裸女の臭がする。性慾缺乏症患者で肺を病む畫家が繪筆を措いて、ねずみを燒いて煎じた藥を呑む。不安と焦燥が畫家の腦裡をかすめて、壺持つ裸女は壺を落さうとし、陰毛を包む衣を卷くる。畫家が咳をすると裸女は壺が重いといふ。……」

C　勤勉努力的、實實剛健的の傾向

勤勉努力的思想傾向

本項に屬する作品數は三三三點で本部門の作品總數の二二・三二%を占め本部類に於いて第二位を占めてゐる。

今これを作者別に見るならば、生徒の作品は二六〇點であり、その中上級生の作品が一六五點、下級生作品が九五點である。こゝに注目すべきは卒業生の作品が九三點の多きに達して居ることである。これ等の作品中その代表的なものを擧げるならば、「英雄論」「努力」「今日の自己」「覺醒」「希望」「時は刻む」「働け」等であるが、これらは或は努力なくして英雄たり得ずとか、今日の自己に滿足するな、絕えず努力せよとか、希望に生きよとか述べてゐる。今その一例として佐賀縣立某工業學校校友會誌所載「努力」の一部を拔萃するならば、

「努力によつて築かれたところの人の世に、努力をはなれて我等は生きて行けぬのだ。否々人間のみではない。萬物はその生存を續けることは出來ないのだ。おゝ努力！どこまでも聖く努力する所に努力の價値がある。……永久に我等は努力を續けねばならぬ。……」